共同犯人又ハ從犯人ノ提出シタル通信書及ヒ證書類モ亦殆ント白狀ノ性質ヲ有ス然レトモ此書類ハ他ノ關係犯人ニ對シテハ證據ノ徵憑ニ過キサルノミ此徵憑ハ證據物件中ニ算入スルヲ得ル者ナリ

（第二百五十九號）公正證書即チ公ケノ官吏ノ作リタル證書ハ刑事ノ事項ニ於テハ一大威力ヲ有スル者トス蓋シ是等ノ官吏ハ民事ノ事項ニ於ケルト同樣ノ者ニ非サレハナリ時トシテハ頗ル下等ノ官吏ナルヿ有リト雖モ其證スル所ニ至テハ其信用アリ其効力其常人ニ優ル者トス

佛蘭西ニ於テハ犯罪ヲ檢證スルカ爲メ司法警察官吏ノ記載シタル證書ヲ名ケテ調書即チ檢證書ト曰フ（看附言）而シテ之ヲ別テ二トナシ一ハ「詐欺ノ事ノ記入アル迄テ信用」セラレ一ハ反對ノ證據殊ニ證人ニ依テ爭議セラルヽヿヲ得蓋シ此差別ハ其調製官吏ノ等級ニ由ル者トス○日本ニ於テハ假令ヒ書記立會ニテ豫審判事ノ作リタル證書ニ係ルト雖モ此差別ノ認許セラルヽヿナシ（第三百三十六條）唯裁判言渡本書及ヒ公判始末書ニ關シテ例外アル而已（第三百七十三條）然レトモ上等若クハ下等官吏ノ記シタル調書ヲ攻擊スルニ唯人證而已ヲ以テスル時ハ之ヲ以テ此官吏其職務執行上隨意ニ眞實ヲ變更シ即チ詐欺ノ罪科ヲ犯シタリト謂フ可カラス唯官吏事實上ニ誤チ痕スル者ト謂フ可キノミ何トナレハ官吏ハ夫ノ僞證ノ罪責ヲ負ハシムルヿナク常ニ攻擊シ得可キ所ノ通常ノ證人ト同一視セラルヿ能ハサレハナリ

（附言）記シタル檢證ニ名クルニ口頭ノ證（是レ直譯ニ係ル譯ノ名稱ヲ以テスルハ今日ニ至テハ奇怪ナル者ノ如シ然ルニ今日ニシテ猶ホ此名稱ヲ用フル者ハ其名稱ノ舊クシテ而シテ檢證ノ口頭

ヲ以テ行ハレシ時代ニ用ヒシ者ナレハナリ○檢證書ノ語ハ之ニ比スレハ一層正確ニシテ又一層明瞭ナル者トス我草案ニ於テハ「アクト、ド、コンスタタシヨン」(檢證證書)ナル語ヲ以テ之ニ代用シタレハ稍〻長キニ涉ルモ又一層ノ明瞭ヲ加フ可シ

其調書ハ詐欺ノ事記入アル迄信用セラルヽト云フヲ以テ必ス處斷ヲ惹起スル者ナリト謂フ可カラス又假令ヒ調書ハ犯罪トナル可キ主タル事實ニ關シ且ツ其カ爲メ被告人ハ正犯人タリト認メシ時ト雖モ亦然リ何トナレハ調書ハ有形事實ノミヲ證スルニ過キスシテ犯罪ノ無形ノ元素即チ人ノ意思、才能、自由ヲ檢證スルヲ得サレハナリ即チ檢證ノ點ニ於テハ大ニ白狀ニ劣ル者トス

然レトモ調書即チ檢證書類ハ起訴及ヒ處斷ノ第一基礎タル事實ヲ證明スル爲メニ豈ニ至重緊要ナル者ニ非ストセンヤ

〔第二百六十號〕常人ノ陳述スル證據ハ犯罪ノ證據中最モ有益ニシテ且ツ最モ屢〻有ル證據ノ一トス假令ヒ此證據ハ民事ノ事項ニ於テ受ル所ノ制限ヲ刑事ノ事項ニ於テモ亦之ヲ認許スト雖モ人證ハ元ト其制限ヲ受ク可キ者ニ非ス何トナレハ民事上ニハ被告人ノ書キタル證據ヲ得ル「難キ事實ニ附テハ證人ヲ以テ凡テ其事實ヲ證スル「ヲ許シタリ而シテ犯罪事實ニ至テハ檢察官モ又被害人モ該事實ニ附キ被告人ノ記シタル認知即チ認メタル證書ヲ得ル「能フ可キ性質アル者ニ非サレハナリ

〔第二百六十一號〕鑑定ハ刑事ノ訴訟手續ニ於テ屢〻採用スル所ノ者タリ即チ鑑定ハ犯罪ノ有形上ノ元素ヲ査定スルカ爲メ許多ノ場合ニ於テ判事ニ欠乏スル所ノ特別即チ伎倆上ノ認定ヲ補充シ責任ノ最モ緊要ナル夫ノ無形上ノ元素ヲ査定スル爲メニモ必要ナル者ナ

リ無形上ノ元素ヲ査定スルトハ即チ條理ヲ辨スル知力完全ナリシヤ如何ヲ査定スルヲ云フ蓋シ其行フタル時ニ於テ之ヲ査定スルハ最モ困難ナル可ケレハ訴ノ時及ヒ被告人ノ通常ノ景狀ニ就テ査定ス可シ斯ク査定シタル以上ハ遂ニ行ヒタル時ニ於ケル被告人ノ景狀ニ就テ事實ノ推測ヲ供スル者トス○斯ノ搜索ハ目今甚タ重要ナル夫ノ法律上ノ醫術(メドシーヌ)ノ爲メニ之ヲ言フ何トナレハ「アリエニスト」(精神錯亂シタル者ヲ醫スル人ヲ云フ)ト稱スル醫師ハ被告人ノ精神上ノ景狀ヲ檢査スル爲メ屢〻鑑定人タルノ命ヲ受ル者ナレハナリ

〔第二百六十二號〕 刑法ハ事實ノ推測ヲ證據トシテ必ス之ヲ認許セリ然レ𪜈事實ノ推測ハ法律上之ヲ規定スルヿナク當然判事ノ査定ト其智力トニ委ヲラレタリ

事實ノ推測ノ事項ニ於テ往々之ト同一ノ意義ニシテ稍〻弱キ所ノ徵(アン)憑(ヂース)ナル語ヲ用フルヿ有リ○又玆ニ確證ノ語ヲ用フルヿモ有リ確證ハ徵憑ト異ナリテ毫モ異議セラルヽヿナク事實ヲ知ル所ノ最モ堅固ナル證據ナリ

〔附言〕「エビダンス」(確證)ノ語ハ佛蘭西法典中之ヲ用フルヿ唯一箇ノ場合アル而已且ツ其場合モ刑法ニ關セスシテ訴訟法ニ屬スル者トス(訴訟法第百八十一條)○之ニ反シテ英國法律ニハ之ヲ用フル事太タ多シ而シテ其意義一層廣漠ニシテ即チ概シテ「プルーブ」(證據)ノ事ヲ指示シ又時トシテハ「テモアギアージユ」(人證)ノ事ヲ指定ス若シ事例ヲ設ケテ是等ノ細密ノ變態ヲ明カニセント欲セハ宜シク夫ノ故殺ノ場合即チ故殺者(モヨールトリエー)ト共犧牲(リヤツト)トナリタル者トノ間ニ爭鬪ヲ爲シタル可キ場合ヲ擧ク可シ其犧牲トナリタル者未タ死セサルモ被告人ト對質シテ言語ヲ發スルヿ能ハス唯神經ノ動搖ヲ生シ若ク

ハ内部ノ恐怖戰慄ヲ發生シタル時ハ即チ事實ノ推測アリト云フヲ得可シ而シテ此場合ノ推測ハ尤モ確固タル者トス（推測モ一種ノ證據ナリ）若シ又犧牲トナリタル者既ニ死去シタルカ若クハ感覺ヲ發生シ得サル者トナリ而シテ被告人之ト對質シテ神心惑亂シ血色ヲ變シ俄カニ訥々トシテ言フ能ハサル者ノ如キ等ノ事アレハ是レ即チ犯罪ノ徵憑アリトス若シ其レ爭問ノ場所ハ濕地ニシテ此所ニ被告人ノ足底（ピエーニュー）若クハ足袋（ショーシュール）等ニ全ク適合スル足跡ヲ見出スカ或ハ又被告人ノ兩臂ノ一ニ犧牲者ノ齒形ト全ク等シキ囓痕ヲ發見スルヿアリト想像セシニ此時ニ方テ被告人若シ此符合ノ事柄ニ對シテ相當ノ説明ヲ毫モ陳述セサル以上ハ（其陳述シ能ハサルハ敢テ疑フ可キニ非ス）則チ犯罪人タルノ確證（エビデンス）アリトス

加之設例中ニ事實ノ推測アルモ徵憑アルモ或ハ又確證アルモ其名ハ異ナレトモ其何レニ屬スルヤハ之ヲ正確ニ確定スルモ其益大ナル者ニ非ス何トナレハ其効力ニ至テハ法律上差異アル者ニ非サレハナリ而シテ後文ニ説述スル所ノ如ク是等ノ景狀ヲ鑑識シテ確實又ハ心證ノ度ヲ査定スルハ判事獨リ之ニ任セリ

〔第二百六十三號〕 證據物件トハ犯罪事件ノ眞實タルヿノ全部又ハ一部ヲ明瞭ナラシムル所ノ有形物ヲ云フ例之ハ爭鬪シタル土地ニ見出シタル衣服ノ烈片（ランボヲー）ニシテ被告人ノ着スル衣服ノ欠クル所ニ合フ者ノ如キ又ハ犯罪ノ場所ニテ發見シタル兵器ニシテ被告人ノ所屬ニ係リ故殺成就ノ爲メ使用シ得タリシ者ノ如キ或ハ又被告人ノ住所ニテ發見シタル刀身若クハ衣服ノ鮮血ヲ染ミタルカ如キ物ニシテ被告人之ニ附キ滿足ヲ與フ可キ説明ヲ爲サヽリシ者是ナリ○國事犯ノ場合ニ於ケル證據物件トハ即チ國事犯ニ關スル同謀者ノ（コンスピラトール）

簿冊、內亂ノ起案表、豫備シタル兵器及ヒ食品等是ナリ

總テ是等ノ證據(ブラン)ハ各〻之ニ關スル諸條例ノ下ニ於テ更ニ之ヲ分疏セン

今ヤ凡テ是等ノ證據ニ關スル前置條例即チ普通規則ヲ分解セントス

第百六十條

〔第二百六十四號〕本條ニ設定シタル原則ハ甚タ重要ナル者トス何トナレハ此原則ハ民事ノ事項ト刑事ノ事項トニ於テ深重ナル差別ヲ設定スレハナリ

刑事ニ於テハ犯罪ノ證據タルヤ必ス起訴ノ目的タル犯罪ニ特有ナル者ニシテ且ツ被告事件ノ豫審ヨリ出タル所ノ者即チ原則上直接(ヂレクト)ノ者ニ限レリ○有罪トスル法律上ノ推測ハ唯〻一箇アルノミ即チ既ニ受ケタル刑ノ言渡ニ由テ生スル所ノ法律上ノ推測是ナリ蓋シ其言渡タルヤ元ト直接ナル證據ニ據テ裁判セラレタル丨明カナリ故ニ茲ニ一箇ノ被告人アリテ重罪若クハ輕罪ヲ犯シタルカ爲メ乃チ訴ヘラレタル者アリトセンニ豫審又ハ公廷ノ審理ニ於テ檢察官ヨリ其被告人ハ右ノ犯罪ニ附キ既ニ確定ノ裁判言渡ヲ受ケタル丨ヲ證スル時ハ裁判所ハ直ニ其事件ノ審理ヲ停止ス即チ其有罪タル事ハ復タ之ヲ異議ス可キニ非サルヲ以テナリ又其最初ノ處斷ハ執行力アル者ナレハ裁判所ハ更ニ之カ爲メ處斷ヲ施サス唯〻最初ノ裁判言渡ノ在ルヲ理由トシテ其管轄ヲ解脫スルニ過キサルナリ

然レ𪜈檢察官最初ノ處刑言渡アリタル丨ヲ知テ之カ爲メ公判聽(ジユリヂクシヨン、ドジユージユマン)ニ於テ刑罰ノ加重ヲ請求シ且ツ右最初ニ處刑ヲ受ケタル者ト今被告人トナリタル者ト同一人ナル丨ニ就テ異議スル丨ナキニ於テハ被

告人再犯ノ果効ヲ免カレンカ爲メ最初ノ處斷ハ基ツク所ナシト主張シ又ハ更ニ其處斷ヲ證スル事實ヲ辯論スルモ其益無カル可シ又前日無罪ノ言渡ヲ受ケタリシ時モ亦同樣ナルヿ更ニ喋々スルニ及ハス尤モ此點ニ於テハ裁判ヲ經タル事物ノ力ニ憑リタル眞實ノ推測ハ堅固確然タル者ニシテ或ハ被告人ノ利トナルヿ有リ又不利トナルヿ有リ其不利トナリテ確然タルヨリハ其利トナリテ確然タルヿ一層ノ力アリ何トナレハ凡ソ處刑ノ宣告ハ或ハ再ヒセラルヽノ目的トナルヿ無キニシモ非スト雖モ(第四篇第二章)無罪ノ宣告ニ至テハ一旦規則通リ履行セラレシ以上ハ決シテ廢止セラレサル者トナル可ケレハナリ

裁判ヲ經タル事物ノ効力ハ公訴及ヒ私訴ヲ消滅ス可キ者ナルヿハ業ニ已ニ開陳セル所ナリ(第八條註解第三十三號)

〔第二百六十五號〕 無罪ノ言渡アリタル場合ニ於テハ法律ハ裁判ヲ經タル事物ノ力ヲ以テ推測トナスノ外又他種ノ法律上ノ推測ヲ認許セリ○即チ十二歲未滿ノ幼者聾啞者(スールミユエー)ノ如キハ都テ法律上ニ於テ其所爲ニ附キ刑事上ノ責ヲ受ク可キ智力ヲ具セサル者ト看做スナリ

十二歲未滿ノ幼者ハ勿論聾啞者ノ如キハ證據ナクシテ其幼者タリ不具者タリトノ事ヲ推測ス可カラス必ス直接ニ之ヲ證ス可キナリ若シ一旦其年齡其不具者ナルヿヲ證明シタル時ハ罪ノ如何ニ論及スルヿナシ蓋シ其レヲ罪ナシト看做セハナリ

白痴瘋癲ナリト述ヘタル時ニ附テハ之ト異ナレリ抑人ハ皆ナ善良ナル精神ヲ具備スルトノ推測アリ因テ其本人又ハ其辯護人ハ其白痴瘋癲ナルヿヲ證明ス可キナリ○此推測ハ或ハ有罪タル可キ法律

上ノ推測ナリト信用スル者無キニシモ非スト雖モ是レハ之レ誤見ナリト謂フ可シ被告人其精神完全ナル者又ハ完全ナリト看做サレタル者犯罪ヲ成シ遂ケ而シテ其有罪タラサル「ヲ主張シ且ツ證明スル「被告人中往々之レ有ルナリ何トナレハ假令ヒ其所爲犯罪タル可ク且ツ之ヲ犯セシ證據判然タルモ或ハ自己ノ防キ能ハサル所ノ强迫ノ爲メニ犯ス者有リ或ハ其服從スル宗教々主ノ命若クハ最上權ヲ有スル長官等ノ命令ヲ遵守シテ本務ヲ盡スニ出ル者アリ又或ハ自己若クハ他人ノ爲メ正當防禦ヲ爲サヽル可カサル地位ニ在リシヲ以テ一箇ノ權利ヲ執行セル者有レハナリ

又被告人或ハ强迫ヲ受ケ或ハ正當ノ命令ニ服從シ或ハ又正當防禦ヲ行ヒシ旨ヲ證明スルモ之ニ注目スルニ其所爲ハ自由ニ出テ妨害ノ所爲ヲ釀スニ從事スル正當ノ命令無ク、正當防禦ヲ證スル不正ノ攻擊無キトノ法律上ノ推測アリト論決スルヲ得可シ然レ𪜈是等ノ事ヲ以テ有罪タルノ推測アリト謂フ可カラス何トナレハ是レハ之レ事實ノ問難ノ推測即チ人ノ責任(辯難ス可キ「)タルノ推測ト云フ者ナル可ケレハナリ而シテ此推測ハ凡テ反對ノ證據ヲ以テ討議セラル、者ナルカ故ニ即チ必然タル有罪アル「無キナリ

〔第二百六十六號〕 有罪トスル法律上ノ推測ヲ欠クト雖モ猶ホ法律ニ允許シタル直接ナル證據ノ數尠ナシトセス

本條ハ則チ此證據ヲ列記シタル者ニテ本款即チ證據ト題目ヲ揭ケタル第三款ヲ區別スルノ緒言トナル可キ者ナリ

法律ニ於テ注意ヲ怠ラサル所ハ凡テ右ノ證據ニ附テハ未タ判事ヲシテ被告人ニ對シ決意ヲ措カシメス又是等ノ證據ハ其力稍〻强シト雖モ唯〻之レノミニテハ處刑ヲ允許スルカ爲メニ僅ニ徵憑(アンヂース)トナスノミ

因テ判事ハ之ヲ滿足ナラシムルニ其心證ヲ以テス然レモ其心證タル豫審ニ在テハ被告人ニ對スルノ證憑ニ於テ又公判ニ在テハ本案ニ於テ其有罪タル心證完全ナラサル可カラス○若シ此心證完全ナラサル時ハ判事ハ被告人ノ利ニ於テ判決ヲ下スヲ要ス

斯ク法律上判事ヲシテ右諸般ノ證據ヲ以テ完全ノ證據トシテ判決セシムルヿヲ許サヽル以上ハ何ニ因テ以テ其心證ヲ惹起スルヲ得ル乎即チ左ノ事柄ニ因ル可シ

判事ハ原被兩造ヨリ反對ノ意義ヲ以テ屢〻提供スル凡テ外部ノ證據並ニ辯明ヲ審査シ法意ノ如何ニ從ヒ自己ノ知覺及ヒ良心ノ照ス所ノ正理即チ幾ント格言ノ命スル所ニ從ヒ以テ其心證ヲ惹起ス可キナリ

第百六十一條

〔第二百六十七號〕 本條ハ豫審判事犯罪事件アルヿヲ覺知スルニ當リ其職權ニ由テハ自カラ起テ其事件ヲ管掌スルヿヲ得スト雖モ既ニ法律ニ循ヒ當然訴ヲ受理シタル時ハ則チ其事件ヲ明晰ナラシムル所ノ一切ノ證據徵憑及ヒ事實參考物ヲ集攬スルヲ得ルトノヿヲ規定スルナリ尤モ是等ノ證據ハ總テ檢察官民事原告人又ハ被告人ヨリ獲得ス可キハ勿論ナリト雖モ最初得タル所ノ證據ヨリ更ニ第二ノ證據ヲ知リ又第一ノ證人ヲ訊問シタル後更ニ第二ノ證人アルヿヲ知リタル時ハ判事ハ自己ノ權內ニ屬スル凡テノ方法ニ因リ有罪ニ屬スル證據ト無罪ニ屬スル證據トヲ問ハス凡テ是等新證據ヲ集攬シ以テ之ヲ利用スルヿヲ得可キヤ否ナ利用セサルヲ得サルナリ

第百六十二條

〔第二百六十八號〕 法律カ本條ニ列記スル所ノ證據ハ證據中最モ重要ナル者ナルヲ以テ此ヲ集攬スルニハ書記ノ立會ヲ要スル者ナリ

○判事ハ豫審ヲ爲スカ爲メニモ又公判ヲ行フカ爲メニモ筆墨ヲ掌チアン、ラー、プリュ（即チ刀筆吏ト云フカ如シ）ルム所ノ書記ノ立會及ヒ書記ト共ニスルニ非サレハ己レカ職務ヲ盡クスヿヲ得サルハ則チ是レ一般ノ規則ナリ、筆墨ヲ掌ルトハ判事ノ指揮ヲ受ケ且ツ法律ノ定ムル所ニ循ヒ諸般ノ訴訟事件ヲ書留ムルヿヲ云フ

斯ク法律上書記ノ立會ヲ希望スルハ是レ啻ニ判事ノ勞動ヲ減少スルノミナラス併セテ其管掌事務ノ公正ニシテ且ツ成規ニ違背セサルノ信憑ヲ堅フスルナリ○固ヨリ法律ニ於テハ判事ニ措ク所ノ信憑充分之レ有リト雖モ亦其事務ヲ行フニ當テハ終始一箇ノ證人ヲ附スルヲ要スト信シタリ故ニ書記ノ班位ハ假令ヒ判事ノ下ニ在リト雖モ其立會ハ判事ノ遺忘懈怠ナキヲ證シ及ヒ判事其本務ヲ欠キ偏頗ノ處置ナキヲ保スル者トス

書記ノ立會ハ緊要ニシテ缺ク可カラス若シ書記ノ立會ナクシテ行ハレタル處分ハ皆ナ之レ無効トナル可シ其立會ヲ爲シタルヿハ其調書ニ手署セルヲ以テ之ヲ證明ス

書記ノ職務ハ其性質裁判所ノ一部ヲ組成スル者ナルヲ以テ若シ其立會ヲ欠ク時ハ裁判所ハ有効ニ構成セラル可キ者ニ非スト云フニ躊躇ス可カラス（看第三十六條及其註解第七十六號）

本條ニハ裁判所外若クハ監獄内ニ於ケル等凡テ急速ヲ要スル豫審處分ヲ爲スニ方リ書記ノ闕席ヲ補充スル方法如何ヲ記載シタリ

公判ニ關シテ書記若クハ其補員差支アル時ハ第三十七條ニ記載シタル如ク判事代テ書記ノ職務ヲ行フ者トス

第一節　訊問及ヒ對質（アンテロガトワール　コンフロンタシヨン）

豫審ノ凡テノ所爲前ニ訊問スル事

第百六十三條　被告人出廷スル時ハ豫審判事ハ豫審ノ諸所爲ノ前ニ被告人ヲ訊問ス可シ但シ或ル檢證又ハ證人訊問ヲ爲スニ附キ急速ヲ要スル場合ハ此限ニ在ラス（治、第百四十九條○草、第百四十條）

檢察官ノ出席

第百六十四條　政府ノ目代ハ常ニ被告人ノ訊問ニ立會ヒ且ツ已レカ述ヘテ以テ有益（ユチール）ナリト爲ス問題ハ之ヲ判事ニ陳述スルヲ得（治、零○草、零○佛治、第六十二條）

白狀ヲ請求スル事

第百六十五條　豫審判事ハ被告人ニ有罪ノ白狀其共犯又ハ從犯ノ指名或ハ其他凡テ事實（ペリーデイー）ニ適合ス可シト信シタル一切ノ申立ヲ請求（ソリシデイー）スルヲ得可シ然レ𪜈之ヲ求メンカ爲メ强迫恐嚇（ムナース　アンチミダシヨン）又ハ蠱惑ノ約束、詐欺（イリユゾアール　フラース、アレガーシヨン）ノ言語ヲ使用ス可カラス（治、第百五十條○刑法草案第三百十六條）

白狀ヲ奬勵スル事

然レ𪜈豫審判事ハ被告人ニ白狀及ヒ其他事實發見ニ有利ナル申立ヲナセハ法律ノ許ス限度内ニ在テ裁判所ノ寛裕ヲ受得シ之ニ反シテ裁判所ヲ迷ハシムルノ企圖ヲナセハ裁判所ノ嚴酷（セベリデイ）トナル原由タル可キヲ聞カシムルヲ得（治、零）

如何ナル場合ニ於テモ唯一被告人ノ白狀又ハ申立ヲ得可キノ目的ノミニテハ豫審ヲ遲延スルヲ得ス（治、零）

訊問調書ノ編纂

第百六十六條　書記ハ被告人ノ訊問及ヒ其答辯ノ調書ヲ作リ且ツ之ヲ被告人ニ讀聞カス可シ

豫審判事ハ被告人ヲシテ其供述ヲ固執スルヤ否ヤヲ述ヘサシムルノ命令ヲ爲ス可シ、斷言（アヒルマチーフ）ノ場合（即チ供述ニ相違ナシト云フ場合）ニ於テハ判事及ヒ書記被告人ト共ニ此調書ニ手署ス可シ但シ被告人手署スルヲ欲セス又ハ手署スルヲ能ハスト明言スル時ハ格別ナリ

又以上ノ條例ヲ遵守シタルヲ記載ス可シ（治、第百五十一條○草、第百

六十條)

引取ル事

第百六十七條　若シ被告人其申立ノ全部又ハ一部ヲ引取リ(レトラクティ)或ハ其ニ多少ノ增加又ハ變更ヲ爲シタル時ハ訊問ヲ再行ス可シ然ル後ヲ其調書ニ附帶事件(アンシダン)及ヒ再度ノ申立ヲ記載シ以テ以上指示シタル法式ニ循ヒ此調書ヲ終結ス可シ(治、第百五十二條)

謄本

第百六十八條　被告人ハ自己ノ申立ヲ證シタル調書ノ謄本ヲ求ムルヿヲ得(治、第百五十三條○草、第百四十七條第四項)

對質

第百六十九條　豫審判事ハ被告人ノ其人ニ相違ナキ事若クハ從犯アル事其他凡テ事實ヲ發覺ス可キ性質アル景狀ヲ證明セシカ爲メ右ノ被告人ト他ノ被告人、證人又ハ其他凡テノ人ト對質ヲ命スルヿヲ得可シ(治、第百五十四條○草、第二百二條、第三百三十九條)

對質ノ證明

第百七十條　右ノ對質アリタル事、對質シタル人々ノ相互ノ申立及ヒ此場合ニ生セシ附帶事件ヲ證明スル調書ヲ作ル可シ

第百六十六條及ヒ第百六十七條ニ揭ケタル法式ニ從ヒ對質者相互ノ申立ヲ證明スル調書ノ部分ハ之ヲ其對質人等ニ讀聞カス可シ(治、第百五十五條)

聾者、啞者、外國人

第百七十一條　若シ被告人又ハ對質人ノ一人聾者ナル時ハ問題ハ書面ヲ以テ之ニ附ス可シ若シ又啞者ナル時ハ書面ヲ以テ答ヲ爲ス可シ」若シ聾者又ハ啞者讀ミ書キヲ知ラサル時ハ之ニ通辯人ヲ付與ス可シ

通辯人

日本語ヲ了解セサル者ニモ亦通辯人ヲ付與ス可シ(治、第百五十六條○草、第二百四條○佛治、第三百三十二條、第三百三十三條)

續キ

第百七十二條　前條ニ豫定シタル二箇ノ場合ニ於テ通辯人ハ證人ノ宣誓ノ爲メニ第百九十五條ニ規定シタル法式ニ循ヒ「判事ノ問題及ヒ

此問題ノ答辯ヲ可成丈忠實ニ疊言スル可キ「レッポンス」ヲ誓フ可シ

通辯人ハ展讀書記ノ後ヲ自己ノ關係セシ訴訟ノ調書ニ手署ス可シ

第二百十條及ヒ第二百十一條ハ成規通リニ請求セラレタル通辯人其職分又ハ宣誓ヲ拒絶シタル者ニモ適用セラル可シ(治、第百五十七條○草、第二百四條)

賠償

第百七十二條ノ二　通辯人ハ第二百十七條ニ循ヒ鑑定人ノ如ク賠償ヲ受取ル可シ(治、第百五十七條)

第二節　檢證、家宅搜索及ヒ證據物件ノ差押

判事ノ出張

第百七十三條　豫審判事ハ事實發見ノ爲メニ有益ナリト信スル每ニ重罪又ハ輕罪ノ場所ニ出張ス可シ

若シ其出張ヲ政府ノ目代ヨリ請求セラレタル時ハ此請求ニ應セサル可カラス(治、第百五十八條○草、零○佛治、第三十二條、第三十六條、第八十七條)

場所ノ臨檢

第百七十四條　豫審判事ハ場所ノ臨檢及ヒ犯人ノ其人ニ相違ナキ事、犯罪ノ日時、場所、諸般ノ方法及ヒ其性質ニ附キ證跡又ハ徵憑ヲ得可キ所ノ事實ノ景狀ノ調書ヲ作ル可シ

該判事ハ被告人ノ利トナル可キ景狀ヲモ亦檢證ス可シ(治、第百五十九條○草、第百六十條、第百六十一條)

證據物件ノ差押

第百七十五條　犯罪ノ場所ニ移轉シ得可キ物品ノ其出所又ハ其摸樣ニ因リ犯人ノ其人ニ相違ナキ事若クハ犯罪ノ或ル景狀ヲ發見シ得可キ物存在スル時ハ證據物件トシテ之ヲ差押ヘ簡略ニ記錄シ而シテ豫審判事ノ檢印シタル後ヲ書記之ヲ監督及ヒ擔任シ書記局ニ運搬ス可シ

少量又ハ多數ノ物品ニシテ散逸シ易ク又ハ捺印シ能ハサル者ハ之ヲ檢證、家宅搜索及ヒ證據物件ノ差押

匣函又ハ囊(サック)中ニ藏メ之ニ封印ヲ爲ス可シ(治、第百六十條○草、零○佛治、第三十五條以下、第三十八條、第八十九條)

場所ノ監護

第百七十六條　若シ檢證、搜索又ハ差押ヲ一日内ニ了シ得サル時ハ判事ハ再ヒ此處分ニ着手スルマテ其場所ヲ閉鎖(クロール)セシメ又ハ監護セシムルヿヲ得可シ(治、第百六十一條)

家宅搜索

第百七十七條　上ニ指示シタル性質アル物品ノ所持人ナリト看做サレタル被告人又ハ其他ノ人ノ住所ニ判事ハ又是等ノ物品ヲ搜索ノ爲メ出張スルヿヲ得可シ

被告人ト否トヲ問ハス臨檢又ハ家宅搜索ヲ受ケタル者若シ其家宅内ニ現存セサル時ハ豫審判事ハ同居ノ血屬親又ハ姻屬ノ立會ヲ請求ス可シ其不在ナル時ハ戸長(メール)又其差支ノ場合ニ於テハ二名ノ比隣者又ハ朋友ノ立會ヲ求ム可シ

第百四十八條ノ第三項ハ家宅搜索(即チ本條ヲ指ス)ニ適用セラル可シ(治、第百六十二條○草、零○佛治、第三十七條、第八十八條)

被告人ノ立會

第百七十八條　拘留セラレサル被告人ハ常ニ場所ノ臨檢、已レカ家宅ノ搜索、及ヒ之ニ關スル檢證ニ自身ニテ立會又ハ特別代人ヲ以テ代理セシムルヿヲ得可シ

若シ被告人拘留セラレタル時ハ豫審判事本人ノ立會ヲ有益ナリト信シタル時ノ外己レヲ代理セシムルヿヲ得

罪ヲ被ラシメントシタル者ノ立會

政府ノ目代及ヒ民事原告人又ハ其特別代理人モ亦豫メ其願意ヲ豫審判事ニ通知シタル上ニテ前ノ處分ニ立會フヿヲ得然レトモ其立會ノ爲メ豫審ノ妨害トナル可キ延引ハ毫モ之ヲ爲ス可カラス(治、第百六十三條○草、零○佛治、第三十九條)

續キ

第百七十九條　家宅搜索ニ於テモ豫審判事ハ第百七十五條ニ記載シ

タル如ク疑ハシキ物品差押ノ手續ヲ爲ス可シ

豫審判事ハ差押ヘタル物品ノ存在スル家宅ノ人ニ其物品ノ請取書ヲ付與ス可シ(治、第百六十四條○草、零○佛治、第八十七條以下)

被告人ニ質問

第百八十條　被告人ハ證據物件ノ差押處分ニ立會ヒタルト否トヲ問ハス是等ノ物件ニ附キ豫審判事ヨリ發スル所ノ問題ニ從ヒ常ニ其說明ヲ爲スノ求メヲ受ク可シ

其問題及ヒ答辯ハ之ヲ調書ニ作ル可シ(治、第百六十五條、○草、第百六十五條、第四百七十三條○佛治、第三十五條、第三百二十九條)

立會フタル人ニ附スル問題

第百八十一條　若シ犯罪ノ場所又ハ前ニ指示セル人ノ住所ニ於テ人證ノ集取ヲ要スル時ハ豫審判事ハ獨リ書記ノミノ立會ヲ以テ別々ニ證人ヲ訊問ス可シ

其他證人訊問ノ爲メ後ニ設定シタル法式ハ本條ノ場合ニモ適用セラル可シ(治、第百六十六條)

宣誓又ハ供述ヲ肯セサルカ爲メノ刑罰ニ附テモ亦之ニ同シ(草、第百九十五條○佛治、第三十二條、第三十三條)

出入ノ禁止

第百八十二條　前數條ニ記シタル處分中豫審判事ハ其許可ナクシテ何人タリトモ其處分執行ノ場所ヨリ出ツ可カラス又ハ其處ニ立入ル可カラサル旨ヲ命令スルヲ得

制裁

總テ其違犯者ハ直ニ拘留セラレ又ハ逐斥セラル可シ之ニ抗抵シ若クハ再ヒ違犯シタル場合ニ於テハ其者ヲ最近ノ拘留場ニ引致シ及ヒ最近ノ訟廷ニ於テ檢察官ノ論結ニ因リ故障ナク控訴ナク之ヲ十一日以上十五日以下ノ輕禁錮及ヒ二圓以上十圓以下ノ罰金又ハ唯一ノミニ處分ス可シ(治、第百六十七條○草、第三十四條)

治安判事ニ囑託スル事

第百八十三條　餘リ重劇ナラサル事件ニ於テハ豫審判事ハ其管轄地

内ト雖モ前ニ述ヘタル場所ノ臨檢及ヒ家宅搜索ヲ治安判事ニ委任スルヿヲ得可シ(治、第百六十八條○草、第七十三條、第百三十九條○佛治、第九十條)

驛遞局電信局等ヘノ請求

第百八十四條　豫審判事ハ驛遞(原文元ト此字ナシ然レ𪜈是レ印刷ノ際誤脫シタルニ因ル者ナルカ故ニ起草者ニ質シテ譯文ニハ之ヲ補塡セリ)電信、鐵道ノ事ヲ司トル官署ニ理由ヲ付シテ請求シ若クハ其他公ケノ運搬ノ方法ヲ以テ被告人又ハ其他豫審ニ關係アル者ニ着シ若クハ是等ノ者ヨリ發シタル書翰、電報、書類及ヒ或ル物件ヲ受取ルヿヲ得

其受取證書ヲ付與ス可シ

書類及ヒ物件ヲ返還シテ不都合ナキ時ニハ右ニ述ヘタル官署ニ之ヲ還付ス可シ(治、第百六十九條)

第三節　證人訊問

證人ノ呼出

第百八十五條　豫審判事ハ檢察官、民事原告人又ハ被告人ヨリ指名シタル人々ヲ有罪又ハ無罪ノ證人トシテ自己ノ面前ニ出頭スル爲メ之ヲ呼出ス可シ

證人ノ員數

然レ𪜈呼出ノ爲メ指名セラレタル員數輕罪事件ニ附キ五名、重罪事件ニ附キ十名ヲ超過スル時ハ其出訴ノ方ナルト辯護ノ方ナルトヲ問ハス豫審判事ハ先ツ最初ニ指名セラレタル者又ハ最モ事實ヲ知ル可シト査定シタル者ヲ五名又ハ十名ヲ限リ呼出スヲ得但シ其後ヲ事實發見ノ爲メ必要ナリト信シ數名ノ證人ヲ呼出サシムルハ此限ニ在ラス」

續キ

豫審判事豫審ノ爲メ有益ナル告知ヲ供シ得可キ者ナリト査定シタル時ハ其職權ヲ以テ右ニ指示セル以外ノ人々ヲ證人トシテ呼出サシムルヿヲ得(治、第百七十條○草、第百八十一條、第三百三十七條乃至第三百四十六條、第四百四十四條○佛治、第七十一條、佛訴訟法、第二百八十一條)

呼出ノ法式

第百八十六條　證人ハ豫審判事ノ名ヲ以テ之ヲ呼出ス可シ但シ呼出狀ハ書記之ニ手署シ第二十五條ニ記載シタル法式ニ循ヒ證人又ハ其住所ニ送達ス可シ

若シ呼出狀ヲ豫審判事ノ管區外ニ發スルヿヲ要スル時ハ該判事ヨリ呼出ノ請求ヲ證人住所ノ裁判所ノ書記局ニ送付ス可シ(治、第百七十一條○草、第二十四條○佛治、第七十二條)

治安判事ニ囑託スル事

第百八十七條　若シ訊問ス可キ證人、掛リ豫審判事所在外ノ市府(ビール)ニ住スル時ハ該判事之ヲ訊問スル爲メ其住所ノ地ノ治安判事ニ囑託スルヿヲ得

若シ證人訴ヲ受ケタル豫審判事ノ管區外ニ住スル時ハ囑託ハ其住所ノ地ノ豫審判事若クハ該地ノ治安判事ニ之ヲ爲ス可シ

此場合ニ於テ呼出狀ハ囑託ヲ受ケタル判事ノ名ヲ以テ該判事ノ屬スル裁判所ノ書記局ヲ經テ之ヲ發ス可シ(治、第百七十二條○草、第二十五條以下、第七十三條○佛治、第八十四條、第八十五條)

呼出狀ニ記載スル事

第百八十八條　呼出狀ニハ證人ノ氏名及ヒ其住所及ヒ可成的其名其身分及ヒ其職業(プロフェシヨン)(カリヂイ)ヲ指示ス可シ

呼出狀ニハ出頭ノ日時及ヒ其場所ヲ揭ケ幷ニ不參ノ場合(コンパリユシヨン)ニ於テハ後文法律ニテ定ムル所ノ刑事上ノ制裁アルヿヲ記載ス可シ

期限

若シ證人其供述ヲ要セラルヽ市府內ニ住スル時ハ呼出狀ハ少クトモ出頭時刻ノ二十四時前ニ之ヲ送達ス可シ若シ市府外ニ住シテ其距離十里以內ナル時ハ四十八時前ニ送達ス可シ(治、第百七十三條○草、第二十六條以下)

書記ニ對スル刑罰

第百八十九條　以上記載シタル法式ヲ遵守セサル場合ニ於テ其解怠(テグリジヤン)アル書記ハ裁判所ニテ檢察官ノ論結ニ循ヒ故障ナク控訴ナク二圓以

上十圓以下ノ罰金ヲ言渡サルル可シ

再度ノ呼出狀ヲ要スルヿ有レハ其費用ハ該書記ノ擔當トス(治、零)

差支アル證人

第百九十條　若シ證人疾病又ハ其職ヲ離ル可カラサル公務其他適正ニシテ且ツ重大ナル原由(コーズ)ニ因リ判事ノ面前ニ出頭スル能ハサルヿヲ證明スル時ハ判事ハ該證人ノ供述ヲ聽クカ爲メ其所在ノ處ニ出張ス可シ(治、第百七十四條○草、第百三十九條○佛治、第八十三條以下)

海陸軍人タル證人

第百九十一條　若シ證人陸軍又ハ海軍ノ兵卒又ハ下士(スー、ナヒシエー)ニシテ其隊中ニ在ル者ナル時ハ呼出狀ハ其隊ノ長官又ハ司令官ヲ經由シテ本人ニ送付セラル可シ其隊長又ハ司令官ハ本人ニ裁判所ニ至ル可キ許可ヲ與フ可シ又服役上全然差支(アンペーシュマン)アル場合ニ於テハ之ヲ證明シテ期限延引ノ請願ヲ豫審判事ニ爲ス可シ(治、第百七十五條○草、第百四十九條)

不參ノ證人附刑罰

第百九十二條　前二箇條ニ豫定シタル宥恕(エキスキユーズ)ノ場合ノ外成規通リニ呼か

出サレタル證人出頭セサル時ハ豫審判事ハ其不出頭ノヿヲ呼出狀ノ副本(ドーブル)ニ記載シ之ヲ政府ノ目代ニ告發シ輕罪裁判所ニ於テ控訴ナク二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ言渡サシム可シ

續キ

加之ス證人ハ言渡書ヲ送付シ又ハ召喚ニ非スシテ拘引狀ヲ以テ再ヒ呼出スヿヲ得可シ總テ該證人ノ費用ヲ以テス可シ

再度ノ呼出ヲ受ケテ出頭セサル場合ニ於テハ其罰金ヲ二倍シ且ツ若シ此人證ヲ必要ナリト思慮スル時ハ拘引狀ヲ發ス可シ(治、第百七十六條○草、第百九十六條、第二百三條、第三百四十三條乃至第三百四十六條、○佛治、第八十條、第九十二條、第百五十七條、第百五十八條、第三百五十五條、第三百五十六條)

續キ宥恕

第百九十三條　然レトモ初度又ハ再度處刑(コンダムネー)セラレタル證人故障(サツポジション)アリテ初度又ハ再度ノ呼出狀ヲ受ケサルヿヲ若クハ其呼出狀ハ第百八十八條

ニ記載シタル要件ヲ充タサヽリシヿ若クハ重劇ニシテ且ツ豫見セサル原由ニ因リ出頭ヲ妨ケラレタルヿヲ證明スル時ハ罰金ノ全部又ハ其一部ヲ檢察官ノ論結ヲ以テ裁判所ヨリ返還ス可シ(治、第百七十七條○草、第三百四十四條○佛治、第八十一條、第百五十八條)

證人其人ニ違フ無キ事ノ保障

第百九十四條　呼出狀ニ依リ出頭スル證人ハ其受取リタル呼出狀ヲ書記ニ差出ス可シ若シ之ヲ遺失セル場合ニ於テハ其本人タルヿヲ證シ得可キ凡テ其他ノ書類ヲ差出ス可シ(治、第百七十八條○草、零○佛治、第七十四條)

證人ノ宣誓

第百九十五條　供述スルノ以前證人ハ豫審判事ヨリ「怨恨ナク畏懼ナク又追從ナク全ク眞實ニシテ眞實ノ外ナシ」ト誓フヿヲ請求セラル可シ」宣誓ノ例文ハ豫審判事之ヲ朗讀ス而シテ證人ハ「余ハ之ヲ誓フ」ト答フ可シ

然ル後ヲ證人ハ右ノ例文ニ手署及ヒ捺印ス可シ其例文ハ一件書類ニ添ヘ置ク可シ

若シ證人手署シ得サルヿ又ハ印章ヲ所持セサルヿヲ明言スル時ハ其旨ヲ記載ス可シ(治、第百八十條○草、第二百十一條○佛治、第七十五條、第百五十五條、第三百十七條)

續キ罰金

第百九十六條　若シ證人誓ヲ爲シ又ハ供述スルヿヲ拒絶スル時ハ檢察官ノ意見ヲ聽キタル上控訴ナク五圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ言渡サル可シ(治、第百八十三條○草、第百九十二條)

宣誓ノ免除

第百九十七條　然レトモ左ニ掲ケタル者ハ誓ヲ爲スヿノ請求ヲ受ケス

第一　民事原告人

第二　民事原告人又ハ被告人ノ宗系ノ血屬親又ハ姻屬

第三　民事原告人又ハ被告人ノ兄弟姉妹、伯叔父、伯叔母、甥姪及ヒ同

等ノ姻屬

第四　民事原告人又ハ被告人ノ適正ノ配耦者（レヂチーム　コンヨロン）

第五　民事原告人又ハ被告人ノ後見人又ハ其後見ヲ受ル者

第六　民事原告人又ハ被告人ノ僕婢又ハ賃雇（アンプロワイエー、ア、ガージュ）

此諸人ノ供述ハ其誓ヲ爲シタルト否トヲ問ハス唯〻尋常ノ事實參考ノ効アルニ過キス（治、第百八十一條○草、第二百十二條○佛治、第七十五條、第七十九條、第百五十六條、第三百十七條、第三百二十二條、第三百二十三條○佛訴訟法、第二百六十八條、第二百八十三條、第二百八十五條）

事實參考

宣誓ノ禁止

第百九十八條　左ニ記載シタル者ハ誓ヲ爲スヿヲ許容セラレス而シテ是等ノ者モ亦唯〻尋常ノ事實參考ノ名義ニ於ケルノ外ハ其供述ヲ求メラレサル者トス

第一　十六歳未滿ノ幼者

第二　完全ナル精神上ノ權能ヲ具セサル者（アンデレクチユエール、ブアキユルデイー）

第三　生レナカラノ聾啞者（ヂツサンス）

第四　刑ノ言渡ノ効力ニ因リ公權ヲ失フタルカ又ハ停止セラレタル者（ドロワー、シビック　シユスパンヂユ）

第五　重罪ノ爲メ重罪裁判所ニ移スノ言渡ヲ受ケ又ハ重禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪ニ附キ輕罪裁判所ニ引致セラレタル者

第六　當テ同一ノ事件ニ附キ訴ヘラレ然ル後チ充分ナル證據ノ欠乏シタルニ因リ免訴ノ言渡ヲ受ケタル者（治、第百八十二條○草案、佛治罪法及ヒ佛訴訟法トモ前條ノ見合ニ同シ）

豫メ明言スル事

第百九十九條　證人ハ誓ヲ爲シタルノ後チ其氏名年齡出生ノ地、職業及ヒ住所ヲ申明ス可シ（ダクリ子ー）

證人ハ被告人又ハ民事原告人ト前條ニ指示セル等級ノ血屬親又ハ姻

證人訊問

屬若クハ僕婢ナルヤ否ヲ明言ス可シ

然リトスル場合（即チ被告人又ハ民事原告人ノ血屬親等ナル場合ヲ云フ）ニ於テハ豫審判事ハ證人ノ明言ノ引續ハ唯、尋常ノ事實參考トシテニ非サレハ許容セラレサル旨ヲ之ニ告知ス可シ（治、第百七十九條○草、零○佛治、第七十五條、第三百十七條）

供述

第二百條　然ル後チ證人ハ宣誓スルト否トヲ問ハス被告人幷ニ訴訟事實ニ附キ己レカ知ル所ノ者ヲ自由ニ且ツ欲スル所ニ隨テ供述ス可シ

問題

然ル後チ豫審判事ハ證人ヲシテ特別ニ或ル事件ヲ說明セシメ又ハ事實發見ノ爲メ有益ナリト判定シタル一切ノ疑問ヲ發スルヲ得可シ（治、零○草、零○佛治、第三百十九條）

答辯スルヲ拒ム事

第二百一條　事實ヲ知ラスト主張スルハ格別故ヲニ共說明ヲ拒ミタル證人ハ出頭拒絕ノ爲メニ定メタル罰金ニ處斷セラル可シ

然レトモ醫師、製藥人、產婆、代言人、代書人、公證人、公ケノ官吏又ハ宗敎ノ敎師、職業上秘密ヲ保スルヲ要スト主張スル事實ニ附テ答辯ヲ拒ム者ハ右ノ罰金ヲ免カル可シ（治、第百八十二條○刑法草案第四百二條）

證人ノ隔別

第二百二條　證人ハ他ノ證人及ヒ被告人ト互ニ面前ノ外ニ於テ供述ス可シ

然レトモ豫審判事ハ證人相互ノ陳述中ニ在ル大ナル牴觸ヲ明瞭ナラシムルカ爲メ若クハ被告人其人ニ相違ナキヤ否ヤノ疑團ヲ解クカ爲メ證人ト證人ト又ハ證人ト被告人トヲ對質セシムルヿヲ得可シ（治、第百八十四條○草、第百六十九條、第三百三十九條、第三百八十條、第四百六十三條○佛治、第七十三條、第三百十六條、第三百十七條、第三百二十六條）

證人ノ出張

第二百三條　證人ハ重罪又ハ輕罪ノ場所其他共供述ヲ確實ニシ又ハ

分明ナラシムルニ其出張ノ必要ナリト見ユル所ノ場所ニ豫審判事ト同行スル「ヲ請求セラル、「有ル可シ

證人此事ヲ拒絶シタル時ハ出頭拒絶ノ如クニ罰セラル可シ(治、第百八十五條○草、第百九十二條)

聾者啞者若クハ外國人ナル證人

第二百四條　若シ證人聾又ハ啞若クハ日本語ニ通セサル者ナル時ハ第百七十一條及ヒ第百七十二條ノ條例ヲ適用ス可シ(治、第百八十六條○草、第三百四十一條○佛治、第三百三十三條)

皇族、高官

第二百五條　若シ證人皇室ノ親族(ファミイ、ユ、エンペリアール)ニ屬シ又ハ第九十八條ニ列記シタル高官(ザギデール)ノ一人若シクハ外國公使(ミニストル、プレニポタンシエール、エトランゼール)ナル時ハ自己ノ住所ニ在テ書記ノ立會ヒタル豫審判事ノ面前ニ於テ供述ス可シ(治、第百八十七條○草、零○佛治、第五百十條以下)

供述ノ編纂

第二百六條　書記ハ各證人ノ供述ニ附キ別々ニ其調書ヲ作ル可シ

其調書ニハ宣誓アリタル「又ハ宣誓ヲ爲サヽリシ原由ヲ記載ス可シ」豫審判事ノ疑問及ヒ證人ノ陳述(デクラシヨン)ハ總テ豫審ノ續ニ於テ有益ナル可キ者ヲ撿出シ易キ方法ニ要略(レジユメー)ス可シ(治、第百八十八條○草、第三十七條○佛治、第七十六條、第三百十八條)

調書ノ朗讀及ヒ捺印

第二百七條　書記ハ證人ノ陳述ト調書ト符合スルヤ否ヤヲ認知スル爲メ豫審判事ヨリ命セラレタル證人ニ其調書ヲ讀聞カス可シ

證人ハ增補(アヂシヨン)、刪除(シユプレシヨン)又ハ變更(シヤンジユマン)ノ理由ヲ示シ之ヲ請願スル「ヲ得但シ其旨ヲ附記ス可シ

然ル後ヲ證人ハ判事及ヒ書記ト共ニ調書ニ手署ス可シ若シ手署スル「ヲ欲セス又ハ手署スル「ヲ知ラサル時ハ通常ノ法式ニ依リ其旨ヲ調書ニ記載ス可シ(治、第百八十九條○草、第百六十六條、第百六十七條○佛治、第七十六條)

證人ニ與フル賠償

第二百八條　有罪ニ附テト無罪ニ附テトヲ問ハス證人ハ即時ニ日當（ダッタス）及ヒ往復費用ノ返還ヲ書記局ニ請願スルヿヲ得可シ

若シ證人日稼キニテ生活スル者ナル時ハ別ニ其利益（ゲン）又ハ工錢（サレール）ノ損毛ニ等シキ償金ヲ受取ル可シ

金額ハ豫審判事ヨリ命令セラル可シ但シ訴訟入費（タリーフ）ノ適用ノ爲メ大審院ニ上告（ブールボア）スルノ外其他ノ上訴（ルクール）ヲ許サス（治、第百九十條○草、第百七十二條ノ二、第二百十七條○佛治、第八十二條）

第四節　鑑定（エキスペルチーズ）

鑑定人ヲ命スル事

第二百九條　豫審判事裁判所ヲシテ犯罪ノ性質方法及ヒ果効ヲ明カナラシムル爲メ特別（スペシアール）ノ知識（コンヲサンス）ヲ有シタル一名又ハ數名ノ鑑定人（エキスペール）ヲ出席セシムルヿヲ有益ナリト査定シタル場合ニ於テハ此鑑定人ヲ命シ及ヒ鑑定人ノ探究（アンベスチガシヨン）ト其吟味トヲ爲スヲ要スル數種ノ事物（ラブゼイー）ヲ指示シタルノ命令書ヲ渡ス可シ

婦女及ヒ外國人ト雖モ鑑定人ニ命セラルヽヿヲ得（治、第百九十一條○草、第百六十條○佛治、第四十三條、第四十四條○佛訴訟法、第三百二條以下）

鑑定人ノ徵集

第二百十條　豫審判事ノ意思（アンダンシヨン）ニテ鑑定人ニ命セントスル人ハ書記局ノ書面ヲ以テ徵集（コンボツケイー）セラル可シ

罰金

其人若シ第一ノ徵集ニ應セサル時ハ證人ノ爲メニ定メタル法式ニ因リ之ヲ呼出ス可シ其呼出狀ニハ鑑定人ニ任スル旨及ヒ其出頭ヲ請求スルノ旨、呼出ニ應セサル時法律ニ定メタル刑ノ言渡ヲ受ク可キ旨ヲ指示ス可シ

不出頭ノ場合ニ於テハ豫審判事呼出狀ニ其旨ヲ記載シ而シテ法律上請求セラレタル使役（セルビース）拒絕ノ旨ヲ政府ノ目代ニ告發ス

第百九十二條ハ此ニ適用セラル可シ但シ拘引狀ヲ發スルヿヲ得ス(治、第百九十二條○草、第三百四十七條)

鑑定人ノ宣誓

第二百十一條　鑑定人ハ其事實ヲ始ムル前ニ「己レカ總テノ智能ヲ以テ總テ誠實(センセリティー)ニ裁判所ヨリ己レニ付與セラレタル委任(マンダー)ヲ充タシ以テ忠實及ヒ精確(エキザクト)ナル見積ヲ爲ス可キ事」ノ宣誓ヲ爲ス可シ

宣誓ヲ爲ス事ハ證人ノ爲メニ定メタル法式ニ循テ之ヲ爲ス可シ

宣誓シタル事(プレスタシヨン、ド、セルマン)ハ鑑定命令書ノ紙尾ニ記載シ且ツ其誓ヲ記シタル文書ヲ之ニ附添ス可シ

宣誓ノ拒絶ハ鑑定ヲ承諾スルヿノ拒絶ノ如クニ罰セラル可シ(治、第百九十三條、第百九十四條○草、第百七十二條、第百九十五條)

誓ノ免除

第二百十二條　第百九十七條及ヒ第百九十八條ノ文面ニテ證人ノ誓ノ法式ニ服從シ得サル者ハ鑑定ノ任ヲ受ルヿヲ得ス

事實參考

然レ𪜈至急ヲ要スル場合ニ於テ且ツ直ニ誓ノ爲メニ要セラルヽ條件ヲ充タシタル適當ノ人ヲ得ルニ難キ時ハ必要ナル智識ヲ有シタル一名又ハ數名ノ他ノ人ニ鑑定ヲ任スルヿヲ得而シテ其人ノ具申(ラッポール)ハ單純ノ事實參考トシテ効アリ(治、第百九十五條○草、第百六十條)

判事ノ立會

第二百十三條　豫審判事ハ可成丈鑑定ニ立會フヿヲ要ス(治、第百九十六條)

新鑑定人

第二百十四條　豫審判事ハ常ニ豫審中ニ於テ既ニ命セシ鑑定人ニ他ノ鑑定人ヲ附加(アドジヨワンドル)シ又ハ代ラシム(シユブスチチユエー)ルヿヲ必要ナリト査定シ若クハ鑑定人自カラ之ヲ請願シタル時ハ新命令書ヲ以テ之ヲ爲スヿヲ得

豫審判事ハ亦更ニ探究(アンベスチガシヨン)ヲ請求スルヿヲ得可シ此場合ニ於テハ該判事ハ命令書ノ紙尾ニ其旨ヲ記載ス可シ(治、第百九十七條)

鑑定人ノ具申

第二百十五條　鑑定人ハ書面ヲ以テ自己ノ行フタル事業、之カ爲メ費

ヤシタル日數及ヒ自己ノ獲タル果効(レシユルター)ノ細密ニシテ且ツ景狀ヲ擧ケタル具申ヲ爲ス可シ

若シ鑑定人一箇又ハ數箇ノ點ニ附キ毫モ有益ナル果効ヲ獲サル時ハ其推量(プロバーブル)ノ原由ヲ指示ス可シ

若シ又鑑定人ノ問ニ於テ一箇又ハ數箇ノ點ニ不合同(デサツコール)ナル時ハ各自ノ鑑定人ハ其撰擇ヲ以テ別々ノ具申ヲ爲シ又ハ差別アル數説ヲ記載シテ唯一箇ノ具申ヲ爲スヿヲ得(治、第百九十八條)

具申書ノ法式

第二百十六條　具申書ニハ鑑定人日附及ヒ手署ス可シ又各葉鑑定人ノ捺印又ハ花押ヲ載ス可シ

又具申書ニハ豫審判事及ヒ書記檢印シ手署シ及ヒ日附ヲ載ス可シ具申書ハ任職ノ命令書ニ添ヘ置ク可シ

若シ外國人鑑定ヲ任セラレタル時ハ其具申書ニハ裁判所ヨリ指示シタル通辯人ノ爲シタル日本文ノ飜譯ヲ添ヘ置ク可シ(治、第百九十九條)

鑑定人ニ與フル償金

第二百十七條　鑑定人ハ一般ノ訴訟入費規則ニ循ヒ往復費用及ヒ其他證明セラレタル償金ヲ受取ル可シ(治、第二百條○草、第百七十二條第二、第二百八條)

要旨

第一節　訊問及ヒ對質

第百六十三條

第二百六十九號　豫審ノ諸所爲ノ前ニ豫メ訊問スル事○急速ヲ要スル場合ニ於テノ例外

第百六十四條

第二百七十號　訊問ニ政府ノ目代ノ立會フ事

要旨　訊問及ヒ對質

第百六十五條

第二百七十一號　白狀ノ自由即チ被告人ノ意ニ關シ一切ノ背法（デロワイアール）ノ威力ノ禁止

第百六十六條

第二百七十二號　訊問ヲ編纂スルヿ及ヒ（其調書ニ）手署スル事其有益

第百六十七條

第二百七十三號　白狀及ヒ供述ノ引取リ

第百六十八條

第二百七十四號　謄本○被告人ノ保障

第百六十九條

第二百七十五號　被告人ト其從犯又ハ犧牲トナリタル者トノ對質ノ有益

第百七十條

第二百七十六號　對質ノ證明

第百七十一條

第二百七十七號　被告人ノ聾者、啞者又ハ外國人ナル場合○通辯人

第百七十二條

第二百七十八號　通辯人ノ誠實（センセリテイー）タルヿノ保障

第百七十二條ノ二

第二百七十八號ノ二　通辯人ノ償金ノ事

第二節　檢證、家宅搜索及ヒ證據物件ノ差押

第百七十三條

要旨　檢證、家宅搜索及ヒ證據物件ノ差押

第二百七十九號　豫審判事犯罪ノ地ニ出張スル事○檢察官ノ請求

第百七十四條

第二百八十號　被告人ニ利ナルト不利ナルトヲ問ハス裁判所ヲシテ明カナラシメ得可キ諸景狀ノ檢證

第百七十五條

第二百八十一號　證據物件ノ差押

第百七十六條

第二百八十二號　場所ノ監守（カルド）

第百七十七條

第二百八十三號　家宅搜索ノ法式及ヒ其時間

第百七十八條

第二百八十四號　被告人家宅搜索ニ立會フ事（附）場所ノ立會ノ區別

○檢察官、民事原告人

第百七十九條

第二百八十五號　物件差押、所持人ヘノ受取書

第百八十條

第二百八十六號　被告人ヘ疑問ヲ爲ス事其答辯ノ檢證

第百八十一條

第二百八十七號　證人訊問、通常ノ法式及ヒ刑罰

第百八十二條

第二百八十八號　出入ノ禁止

第百八十三條

第二百八十九號　治安判事ニ囑託ノ事

要旨　檢證、家宅搜索及ヒ證據物件ノ差押

第百八十四條

第二百九十號　通信書ノ差押（コレスポンダンス）

第三節　證人訊問

第百八十五條

第二百九十一號　人證ノ種々ノ目的○證人員數ノ制限

第百八十六條

第二百九十二號　證人遠隔ノ事○證人ヲ呼出ス爲メノ囑託

第百八十七條

第二百九十三號　續キ○證人ヲ訊問スル爲メノ囑託

第百八十八條

第二百九十四號　呼出狀ニ列記スル事○出頭ノ期限

第百八十九條

第二百九十五號　法式不遵奉ノ事附書記ノ罰

第百九十條

第二百九十六號　豫審判事差支アル證人ノ所在ニ出張スル事

第百九十一條

第二百九十七號　國ノ陸軍又ハ海軍人ナル證人ノ事

第百九十二條

第二百九十八號　證人出頭ヲ欠ク事附罰金、拘引狀

第百九十三條

第二百九十九號　宥恕ノ證明○罰金ノ返還

第百九十四條

第三百號　證人其本人タル事ノ證明

第百九十五條及第百九十六條

第三百一號　新則○證人ノ宣誓、其有益、其法式

第三百二號　理由ナクシテ宣誓ヲ拒ム事附制裁○本心上ノ理由ヲ以テ證セラレタル拒絶ノ事○證人ノ執拗ナル抵拒、供述ノ拒絶○罰金ノ併合（キユミユール）

第百九十七條及第百九十八條

第三百四號　證人ノ誓ヲ請求セラレサル事若クハ其受理セラレサルカ爲メノ原由ノ差別

第三百五號　適正ノ人證ト單純ノ事實參考トノ比較

第三百五號ノ二　犯罪ノ時期ト證人ノ供述ノ時期トノ間ニ於テ證人トナル可キ者ノ要件變易ニ關スル注目

第百九十九條

第三百六號　證人其氏名及ヒ身分ヲ明言スル事

第二百條

第三百七號　證人ノ供述、判事ノ疑問附判事ノ行フ可キ注意

第二百一條

第三百八號　證人或ル事實ノ說明ヲ拒絶スル事

第三百九號　營業上ノ秘密

第二百二條

第三百十號　證人隔別スル事附理由、例外ノ事（イゾールマン）

第二百三條

第三百十一號　場所ニ出張スル事ノ請求、證人ノ拒絶、罰金

第二百四條

第三百十二號　聾者、啞者、外國人ナル證人○通辯人

第二百五條

第三百十三號　皇族勅任等ノ特權

第二百六條及第二百七條

第三百十四號　證人ノ供述ノ編纂

第二百八條

第三百十五號　證人ニ與フル償金○裁判費用ノ規則ヲ犯シタルカ爲メノ上訴

第四節　鑑定

第二百九條

第三百十六號　鑑定ノ有益

第三百十七號　豫審判事ハ婦女又ハ外國人ニ鑑定ヲ任シテ差支ナキ事

第二百十條

第三百十八號　鑑定人ノ徵集（コンボカシヨン）、鑑定人出頭ヲ拒ム事○罰金ノ事

第二百十一條

第三百十九號　宣誓ノ拒絕○罰金ノ事（原文ニハ單純ノ事實參考ト有リ而シテ次ノ第三百二十號ニハ「罰金ノ事」ト有リ然レ𪜈是レ印刷ノ際一時ノ誤謬ニテ翻轉シタル者ナリカ故ニ起草者ニ質シテ譯文ニハ之ヲ校正セリ）

第二百十二條

第三百二十號　誓ヲ爲ス事ノ無能力者○單純ノ事實參考

第二百十三條

第三百二十一號　豫審判事鑑定ニ立會フ事

第二百十四條

第三百二十二號　必要ナル場合ニ於ケル新鑑定人、新探究（アンベスチガシヨン）ノ事

第二百十五條

第三百二十三號　鑑定人ノ具申（ラッポール）、鑑定ノ果効、鑑定人ノ不合同

第二百十六條

第三百二十四號　鑑定ノ法式

第二百十七條

第三百二十五號　鑑定人ニ與フル償金ノ事

第一節　訊問及ヒ對質

第百六十三條

〔第二百六十九號〕　抑〻訊問ハ豫審ノ第一處分ナリ○未タ一應ノ訊問ヲ爲サスシテ人ニ惡事ヲ歸スル「能ハス是レ原則上然ラシムル所ナリ○被告人其訊問ヲ受ルヤ必ス先ツ己レヲ以テ的トセラレタル嫌疑ノ不當（マール、フヂンデイー）ナルヲ證明シ得可シ或ハ眞ノ犯人ニシテ反テ己レカ惡事ヲ隱蔽シテ法廳ノ監察（アツタンシヨン）ヲ漏脫セン爲メ故ラニ詐欺ノ申立ヲ爲ス者之レ有リ○又之ニ反シ大ニ法廳ノ事務ヲ簡易ナラシムル所ノ全部又ハ一部ノ白狀ヲ直ニ爲ス者モ亦之レ有リ

被告人訊問ノ前判事ハ法律上至急ノ爲メニ允許スル所ノ特別ノ處置ヲ爲シ以テ善良ナル結果ヲ得ル「有リ○例之ハ積雪上又ハ地上ニ足跡アリテ後ニ通行人等ノ足跡若クハ降雨其他ノ原由ニテ原痕ヲ消散ス可キノ恐レ有ル場合アリ此時ニ方テ速カニ其原痕ヲ認知證明セサル可カラス或ハ又毆打ノ爲メニ死ニ至ントスルノ場合ニ於テハ至急ニ其被害人即チ犧牲トナリタル者ノ供述ヲ集取ス可キ「等是ナリ○是等ノ數例ヲ揭ルハ甚タ容易ナル者ナリ

前記ノ處分ノ不遵奉ノ爲メニハ法律ニテ特別ノ制裁ヲ設ケサルカ故ニ豫審判事ニ於テ訊問ヲ爲ス前ニ至急ニ檢證ノ處分ニ着手スル爲メ之ニ充分著大ナル査定ノ權利ヲ附セサルヲ得ス○之カ爲メ豫

審判事自餘ノ處分上最初ノ訊問ヲ遲延スルノ恐レ有ルヿナシ却テ判事ハ一層容易ニ訊問スルヲ得ルト謂フ可シ何トナレハ己レ主張ヲ爲サストモ之ヲ行フヿヲ得レハナリ○然レモ此事ニ關シテ豫審判事ニ明瞭ナル過失アル時ハ該判事ハ敎誡又ハ譴責ヲ受ク可キ者トス(看第七十九條及第八十條註解第百二十九號)

第百六十四條

(第二百七十號) 佛蘭西法律ハ訊問ノ時檢察官ノ立會ヲ爲スヿニ附テ毫モ記載スル所ナシ然レモ此立會ヲ爲スヿハ道理ニ背キ啻ニ審判手續ヲ妨碍スル者ニ非サルノミナラス公廷ノ吟味ニ附テハ決シテ其立會ヲ缺ク可カラサル者トス豈ニ豫審中ナルノ故ヲ以テ被告人ノ訊問及ヒ其他被告人ノ立會ヲ爲ス處分ニ附キ檢察官ノ立會ヲ要セサルノ理アランヤ○又檢察官被告人ニ附ス可キ疑問ノ件ヲ發議スルヿヲ得ルハ是レ理ノ當ニ然ラシムル所ナリト雖モ必ス深沈ヲ旨トシ易々ニ發議シテ以テ判事ノ便宜ヲ失ハシムルヿ無カル可シ

第百六十五條

(第二百七十一號) 判事ニ於テ被告人ノ白狀又ハ其共犯、從犯ノ指名ヲ求メ之ヲ挑ムモ之ヲ以テ公平ヲ掌ル所ノ本務ヲ欠キタル者ト謂フ可カラス法律上明瞭ニ判事ニ禁止スル所ノ者ハ脅迫(ムナース)、恐嚇及ヒ暴行若クハ凡テ其他有形上、無形上(フィジック モラール)ノ拷問ヲ施スニ近キ一切ノ處置ヲ謂フノミ

既ニ我刑法草案(第三百十六條及第三百十七條)ニ於テ「判事警察官吏又ハ監守人ニシテ被告人ニ對シ强テ罪狀ヲ白狀陳述セシムルカ爲メ暴行ヲ加ヘ又ハ陵虐(モーペー、トレートマン)ノ所爲アル者」ニ附テノ刑罰ヲ記載セリ本條

即チ治罪法第百六十五條ヲ云フノ條例ハ刑法ニ記スル所ヨリ稍〻重劇ナラサル所爲即チ罰ス可キヿ少ナキ所爲ト雖モ之ヲ禁止セリ蓋シ其所爲タル重劇ナルヿ少ナシト雖モ公正ノ潔シトスル所ト辯護ノ自由トニハ尤モ背反セル者ト謂フ可シ

日本法律ニ於テ辯護ノ權ヲ尊重シテ明カニ判事ニ禁スルニ被告人ニ僞約シ又ハ詐欺ノ言語ヲ用ヒ以テ其實ヲ吐カシムルヿ無キヲ以テセリ即チ詐欺セラレタルニ非サレハ白狀ノ意ヲ懷カサル所ノ被告人ヲ欺テ白狀セシムルヿヲ禁止スル者ナリ

故ニ例之ハ豫審判事被告人ヲ欺テ其共犯人ハ皆ナ既ニ捕ニ就キ其被告人ト共犯ナルヿヲ訴ヘ又各〻其實ヲ白狀セリト言聞セ以テ被告人ヲシテ其實ヲ吐カシメタル歟又ハ之ヲ吐カシメントシタルヿアリトセン尤モ此欺言ナキ時ハ白狀モアラサル時ヲ云フ斯ノ如キ場合ニ於テハ豫審判事ハ大ニ其本務ヲ缺キタル者ニシテ嚴格ニ之ヲ懲罰セサル可カラス殊ニ之ヲ再ヒスルニ至テハ或ハ其職ヲ免スルニ至ル可シ

又豫審判事ヨリ被告人ニ對シ若シ其完全眞實ナル白狀ヲ爲スニ於テハ或ハ免訴ヲ言渡シ或ハ無罪ヲ言渡ス可シト約務シタル時モ亦判事ニ重劇ナル過失アリトス○又判事ハ已レカ固有ノ決定若クハ他ノ判事ノ決定ス可キヿニ附キ決シテ右ニ記スルカ如キ欺約スルヿヲ得ス即チ豫審判事ハ右ノ如ク欺約ヲ以テ自カラ關繫ヲ爲シ尙ホ又公判々事ト關繫ヲ有スルヲ得サルナリ○他又其欺約ニ因リ假令ヒ被告人白狀スルヿアルモ此白狀ハ判事ノ過失ヲ消滅スルヿアラサルナリ

約務ニ非ス又脅迫ニ非ス乃チ法律ニ於テ禁止セサル者アリ即チ本

條第二項ニ記載スルカ如ク被告人其實ヲ吐クカ若クハ之ヲ隱蔽スルニ於テハ有利ナル影響若クハ不利トナル影響ヲ及ホスニ至ル旨ヲ告知スルヿ是ナリ

終ニ判事ニ於テハ唯一被告人ノ白狀ヲ得若クハ其共犯人ヲ發覺センカ爲メ被告人ノ意欲ニ打勝ントスル方法トシテ豫審又ハ密室監禁ノミヲ遷延スルモ是亦其本務ヲ欠キタル者トス

是等賢明ナル事柄ヲ忠實ニ遵奉スルニ於テハ日本國中ニ住居スル外國人ニ對シテモ我國法ヲ適施スルニ至ル可キハ蓋シ必ス近キニ在ル可シ

第百六十六條

〔第二百七十二號〕 訊問ハ調書ヲ以テ證明スルニアラスンハ判事ニ遺ス所ノ者ハ唯一時ノ感覺ニ過キサル而已又訊問ノ結果ヲ保存スルヲ要スルハ本ト公判ノ爲メニ非ス蓋シ公判ニ於テハ更ニ被告人ヲ訊問スル者ナレハ左程其用ヲ爲ス所ナシ乃チ豫審ニ對スル上訴ヲ裁判スルニ附テ實ニ有益ナルカ爲メノミ

調書ハ書記ノ記載スル者ニシテ其之ヲ記載シタル時ハ之ヲ被告人ニ讀聞カセ被告人ヲシテ其供述ヲ固執スルヤ否ヤヲ申立テシメ且ツ其調書ニ手署セシム可シ

假令ヒ被告人手署スルヿヲ肯セスト雖モ其調書ノ信用ヲ失フヿナシ何トナレハ判事ト書記トノ手署アレハナリ○斯ノ如キ檢證ハ後文記載スル者ト同シク共ニ公正ノ檢證ナリトス

第百六十七條

〔第二百七十三號〕 本條ハ前條ヲ補充スル者ナリ蓋シ被告人一ノ訊問中若クハ後ノ訊問ニ於テ已レカ嘗テ爲シタル所ノ白狀ヲ變更增

加スルヿ有ルモ必シモ判事ノ意見ヲ消散スル者ニ非ス○屢〻被告人ハ供述ヲ變シタルカ爲メ自カラ其供述中ニ牴觸ヲ來タシ爲メニ迷惑スルヿ有ル可シ此時ニ當リ聰明敏捷ナル判事ハ其被告人ノ法廳ヲ欺カントスル凡テノ方便ヲ務メンヨリ寧ロ誠實ニ白狀スルノ一層優レルニ如カサル旨ヲ知ラシムルヲ得可シ

第百六十八條

〔第二百七十四號〕被告人訊問調書ノ謄本ヲ望ミシ時ハ則チ其求メニ應シテ之ヲ付與スルハ是レ公平ニ適合スル者トス○唯〻恐クハ後日訊問ヲ爲スニ當リ其供述スル所ノ相牴觸スルヲ防クニ便ナラン然レトモ判事ニ於テ被告人ノ前ノ陳述ニ附キ自カラ相齟齬スルニ至ラシムルカ爲メ其遺忘シタルヲ奇貨トシ其機ニ乘スルカ如キハ法律ト公正トニ於テ潔シトセサル所ナリ○是レ第百六十五條ノ精神ノ繼續ニ外ナラサルナリ

第百六十九條

〔第二百七十五號〕同一ノ事件ニ附キ數名ノ被告人ヲ立會ハシメ即チ對質セシメ或ハ被告人ト證人或ハ被告人ト犧牲トナリタル者トヲ對質セシムルハ是亦白狀ヲ獲ルニ勢力アル方法ト謂フ可シ何トナレハ或ハ自カラ眞實ヲ證明スルニ利アリトスル所ノ反對者ノ面前ニ於テ事實ヲ隱蔽スルヿ能ハサルニ至リ或ハ又被告人カ被害人若クハ屍體ニ對スル時ハ或ハ悔悟シ或ハ羞慚シ或ハ心神感動スルニ因リ遂ニ白狀ヲ爲スニ至ルヿ有ル可ケレハナリ

共犯人中ノ對質又ハ被告人ト證人トノ對質ハ訊問ノ處分中俄然起ス所ノ事件ニシテ同時ニ之カ檢證ヲ爲スナリ○被告人ト被害人トノ對質ハ被告人ノ訊問トハ各別即チ時ヲ異ニシ之ヲ行フヿ有ル可

シ若シ夫レ判事大ニ意ヲ玆ニ注キ以テ被告人其白狀ヲ爲サンカ或ハ其實ヲ蔽ハンカ兩念ノ間ニ躊躇(エジプイー)スルノ時機ヲ見テ對質ヲ行フ時ハ必ス確定ノ結果ヲ得ルヿ有ル可シ

第百七十條

〔第二百七十六號〕 對質及ヒ對質人ノ供述ハ被告人ノ訊問ト同一ノ法式ヲ以テ證明セラル可シ○若シ對質ヲ爲ス可キ者數名アリタル時ハ各〻其關係シタル調書ノミヲ讀聞カス可シ是レ即チ豫審處分ハ關係セサル者ニ附テハ之ヲ秘セサルヲ得サレハナリ

第百七十一條

〔第二百七十七號〕 若シ被告人聾者ナルカ啞者ナルカ或ハ又聾啞ヲ兼ヌル者ナルカ何レニシテモ文字アル者ナル時ハ毫モ困難アルヿナシ何トナレハ訊問ハ書面ヲ以テ履行スルヿヲ得レハナリ然レ𪜈文字ヲ解セサル者ニ關シテハ唯〻聾啞者ノ使用ノ爲メニ造リタル所ノ記號(シーギュ)ヲ以テ其意ヲ通スルノミ然レ𪜈此事ハ未タ普通ノ者トナラス且ツ我國ニ於テハ殆ント希ナル者トス○斯ル不具者ニ附テハ豫審ノ處分大ニ困難ニシテ且ツ免訴ノ言渡ヲ以テ之ヲ終結スルニ至ルヿ多カル可シ

生レナカラニシテ聾啞ナル者ニ關シテハ刑法草案ニ循ヒ之ヲ罰スルヿヲ得ス○故ニ是等ノ者ニ附テハ實ニ其聾ト啞トノ二者ヲ有スル者ナルヿヲ檢證シ以テ豫審處分ヲ止ム可シ然レ𪜈法律上允許スル所ノ懲治檻(つつ)入(アンプリソンメマン、ドガルド)ヲ言渡ス可キヤ否ヤヲ決定スルカ爲メ刑事裁判所ニ送付ス可キ者トス(刑法草案第九十四條)

又法律上被告人ハ日本語ヲ解シ得サルノ場合ヲ豫定セリ是レ帝國ノ邊隅僻地ノ民ニ在テハ往々其地方ノ方言(ザアレクト)ノミヲ解話スル者ナレ

ハ判事ハ之ヲ解セス被告人ニ於テモ亦其意ヲ通スルヿ能ハサル場合ヲ云フ又海外諸國ノ我國ト治外法權ノ約アラスシテ我法律ニ服從スル外國人ノ被告人タル時モ亦同シ○終リニ其治外法權ノ約アリト雖モ一旦之ヲ解キ而シテ我帝國ニ於テ獨立人民ノ普通法ヲ奉スルニ至ラハ此條例モ亦更ニ其區域ヲ擴張ス可シ

是等ノ場合ニ於テハ判事ノ疑問ト被告人ノ答辯トヲ通譯スルカ爲メ彼我ノ言語ヲ知ル所ノ通辯人ヲ命ス可シ

第百七十二條

〔第二百七十八號〕 判事ハ自カラ通辯人ノ通辯ノ忠實ナルヿヲ審査スルヿヲ得サルヲ以テ通辯人ニ於テハ己レカ職務ヲ忠實ニ成シ遂ケル旨ヲ宣誓シ以テ其誠實タルヿノ保障ヲ付與ス可シ

通辯人ハ訊問ノヿヲ證スル證書ニ手署スルヲ以テ其業タル太タ重大ナル者トス

法律上通辯人ハ鑑定人ト同視セラルヽヲ以テ其職務ヲ履行スルヿヲ拒ミ又ハ請求セラレタル宣誓ヲ拒絶シタルニ於テハ鑑定人ト同一ノ刑ニ處セラル可キ者ナリ

第二節　檢證、家宅搜索及ヒ證據物件ノ差押

第百七十三條

〔第二百七十九號〕 凡ソ重罪及ヒ輕罪ノ許多ノ場合ニ於テハ概ヲ犯所ニ其痕跡ヲ遺ス者ニシテ例之ハ住家ノ門戸牆壁ヲ踰越破毀シテ（エスカラード、エフラクション）爲シタル盜罪、放火ノ未遂犯、殺害ノ罪（モールトル）、擅ニ人ヲ監禁スルノ罪、貨幣ヲ僞造スル罪等ノ如キハ概シテ皆ナ痕跡ヲ留ムル者トス

斯ノ如キ犯所ニ留メタル痕跡ハ其性質ニ循ヒ或ハ事實ノ徵憑トナリ或ハ其推測トナリ或ハ又判事ノ爲メニハ其犯罪人ニ關スル確證（エヴイダンス）

トナラサルモ少クモ其犯罪事實ノ存在ノ確證トナルヿ有ルナリ○時トシテハ又其痕跡ハ犯人ヲ發覺スル爲メニ用立ツヿアリ例之ハ足跡ノ地ニ印スルアリテ被告人ノ足形ニ適合シ門牆ヲ破穿スルノ刃痕アリテ被害人ヨリ差押ヘ又ハ被告人ノ住所ニテ差押ヘタル所ノ夫ノ門戸牆壁等ヲ破毀スル爲メノ器械ト其性質廣狹相符合スルカ如キ是ナリ

豫審判事右ノ監察又ハ證明ヲ爲サント欲スルニハ其犯所ニ出張シテ之ヲ行フ可シ○該判事此臨檢處分ヲ爲スハ或ハ自己ノ職權ヲ以テ之ヲ行ヒ或ハ檢察官ノ請求ニ因リ之ヲ行フ可シ檢察官ノ請求ノ場合ニ於テハ判事之ヲ拒絶スルヿヲ得ス是レ前既ニ記載セシ所ニシテ即チ普通法ニ例外トスル所ナリ

被告人モ亦此處分ノ請求ヲ爲シ得ルヤ否ヤハ法律上之ヲ陳述セス然レトモ被告人ハ或ハ之カ爲メ利益ヲ受ルヿ有ルト同時ニ亦之ヲ請求スルノ權利アルハ是レ敢テ疑ヲ容レサルナリ但シ豫審判事ハ此請求ニ必シモ服從スルノ責任ナシ併シ此請求ニ應シ臨檢處分ヲ爲ス時ハ即チ其職權ヲ以テ爲シタル者ト聊カ異ナルヿナシトス○臨檢ノ後チ編纂スル所ノ調書中ニハ事ノ正確ナランカ爲メ被告人ヨリ場所ノ臨檢ヲ請求シタル旨ヲ記スルヲ善シトス何トナレハ辯護人ハ被告人ノ此請求ヲ示シ以テ保護ノ景狀トシテ益ヲ得ルヿアレハナリ

第百七十四條

〔第二百八十號〕本條ハ臨檢處分ノ事ヲ甚タ正確ニ指示シタリ然レトモ其臨檢處分ノ事實ニ附テ付與シタル所ノ列記ハ制限シタル者ニ非ス

豫審判事捜索ヲ爲スニ當テハ甚タ注意ヲ爲ス可ク些細ノ事ニ至ルマテ之ヲ遺漏ス可カラス即チ自己ノ集取シ得ル丈ケノ證跡ハ一切之ヲ調書ニ擧ケ而シテ假令ヒ不明ニ屬スル景狀ト雖モ亦豫審ニ因テ證明セラルヽヿアル可キヲ以テ乃チ之ヲモ亦記載ス可キヿトス」又被告人ノ利益トナル可キ一切ノ景狀モ亦之ヲ臨檢ス可キヿハ是レ公平眞理ニ適スル者トス

第百七十五條

〔第二百八十一號〕 凡ソ犯所ニ遺存シタル重罪又ハ輕罪ノ痕跡ニシテ夫ノ血跡、足跡、門戸牆壁ノ破毀ノ形跡ノ如キ不動產ニ固着シタルノ故ヲ以テ運搬ス可カラサル者ノ外ニ動產物ニシテ亦犯罪事件ノ徵憑又ハ確證若クハ其事實若クハ又犯人ノ誰タルヿヲ知ラシムル物件ノ遺存スルヿ有ル可シ是レ即チ證據物件ニシテ犯所ニ遺シ置キタル兇器又ハ競爭ノ爲メニ折裂シテ犯所ニ散佚シタル衣片、衣服ニ附屬ス可キ尋常一樣ノ物品及ヒ紙片ノ如キ物ヲ云フナリ○凡テ是等ノ物ハ犯人發覺ノ爲メニハ往々至重ノ有益物ニシテ即チ證據中ニ於テ最モ與テ力アル者トス

被告人ニ示スニ其所有品ニシテ犯罪ノ用ニ供シタル兇器ヲ以テシ又ハ其所有品ニ非スト雖モ其住所ニ於テ發見シタル物件ヲ以テスル時ハ往々其完全ノ白狀ヲ得ルヿ有ル可シ

差押ヘタル物件ノ眞僞ヲ檢證シ及ヒ裁判所ニ於テ其保存ヲ確乎タラシムルカ爲メ法律ニ記載シタル事際ノ方法ハ固ヨリ至當ノヿニシテ玆ニ之ヲ證明スルヲ要セス

法律上犯罪ノ場所ニテ差押ヘタル證據物件ト稱スル一切ノ者ハ固ヨリ其證據トナル可キ物件カ犯所外例之ハ被告人ノ住所又ハ其者

ノ手中ニ於テ發見セラレシ時ニモ亦適用ス可キハ勿論ナリ

第百七十六條

〔第二百八十二號〕 場所ノ監護ハ是亦罪ヲ犯シタル所ニ犯罪ノ痕跡ヲ保存スル爲メノ豫防ノ處置ヲ施スニ在リ

豫審判事ハ此監護ノ爲メ公力ヲ請求スルヿヲ得可シ

第百七十七條

〔第二百八十三號〕 玆ニ記載シタル處分ハ「家宅臨檢即チ家宅搜索」ト稱ス○其目的並ニ果効ノ如キハ「場所臨檢」ノ目的果効ト聊カ異ナルヿ無シ

家宅臨檢ヲ行フニ方リ家人不在ナリト雖モ敢テ其搜索處分ヲ妨碍スル者ニ非ス唯其不在者ハ搜索處分ニ附キ自己ノ代人ノ如キ者ヲ有スル者ト看做スノ注意ヲ爲ス可キ而已

第百四十八條ニ讓リタル事即チ該條ヲ本條ニ適用スル者ハ專ラ家宅搜索ノ時刻ニ係ル者ニシテ即チ餘リ早朝ニモ又餘リ晩景ヨリモ之ヲ行ハサラシムルニ在リ是レ即チ人民ノ休息時間ヲ斟酌シタル規則ナリ

第百七十八條

〔第二百八十四號〕 被告人モ亦場所ノ臨檢又ハ己レカ住所ノ搜索處分ニ立會ヒ若クハ代人ヲシテ之ニ立會ハシムルヿヲ得是レ即チ正理ニ出ル者ナリ但シ法律上該權利ヲ被告人ニ拒絶スル場合ハ獨リ他人ノ家宅ヲ搜索スル場合ノミトス○他又判事ハ臨檢及ヒ家宅搜索ニ附キ被告人ノ立會ヲ請求スルヿヲ得可シ此場合ニ於テハ他人ノ住所ト雖モ亦之ヲ請求シ得ル者ナリト認定スルヲ要ス

政府ノ目代ハ場所ノ如何ヲ問ハス一切右ノ處分ニ立會フヿヲ得可

シ

民事原告人ニ附テハ被告人ト同樣ノ場所ニ非サレハ右ノ處分ニ立會フヿヲ認許セサルヲ以テ至當トス可シ但シ判事ニ於テ他人ノ住家ニ民事原告人ノ立會ヲ必要ト爲シタル時ハ此限ニ在ラス

豫審判事家宅臨檢ヲ爲サント欲スルモ豫メ之ヲ檢察官、民事原告人又ハ被告人ニ通知スルノ責任ナシ故ニ檢察官等ニ於テ豫メ家宅搜索アル可キヿヲ知了セル時ハ其處分ニ立會ハンヿヲ請求スル旨ヲ判事ニ通知ス可キ者トス又判事ハ至急ヲ要スル場合ニ於テハ必シモ是等立會人ヲ待テ處分ニ取掛ルニ及ハサルナリ

第百七十九條

〔第二百八十五號〕 豫審判事他人ノ家宅內ニテ疑ハシキ物件ヲ差押ヘタル時ハ則チ其請取書ヲ下付ス可シ何トナレハ其物件或ハ家人ノ所有ニ屬シ或ハ家人ノ責任アル者ナルヿ有レハナリ而シテ其物件ヲ所持スルヿ敢テ法律ノ禁スル所ニ非サレハ則チ裁判言渡アリタルノ後チ必ス之ヲ其所持人ニ返還セラルヽヤ疑ヒ無シ

第百八十條

〔第二百八十六號〕 被告人ハ事ノ景狀ニ循ヒ證據物件トシテ差押タル物ニ附キ種々ノ方法ヲ以テ疑問ヲ受ク可シ例之ハ左ノ問題ノ如シ

其差押タル物件ハ被告人ノ所有ナル乎如何

如何シテ此物件ヲ得タル乎

此物件犯罪ノ場所ニ在リタルニ附テハ如何ナル說明アルヤ

被告人ノ衣服血ニ染ミタルニハ如何ナル理由アリヤ

被告人ノ衣服ニ欠ク所ノ片裂ハ如何シテ犯罪ノ場所ニ存セシヤ

其理如何

被告人ノ家宅又ハ其所持スル所ノ土地内ニ於テ贋造ノ貨幣其鑄造ニ供スル模型紙幣ノ形ヲ彫刻シタル木板等ヲ發見シタルハ如何

右ノ問題ヨリシテ亦更ニ疑問ヲ爲スノ手段ヲ獲ルヿ有ル可シ但シ凡テ皆ナ通常ノ法式ニ循テ之ヲ行フ可シ斯ノ如ク爲スニ於テハ假令ヒ習練スルヿ少ナキ判事ト雖モ多少被告人ノ白狀ヲ獲ルニ容易ナル可シ

審査ヲ遂ケタルノ後チ被告人ノ答辯虛僞ニ歸スル時ハ是レ此者ニ對シテ甚タ不利ナル推測トナルナリ

若シ被告人物件ノ所有主タルヤ否ヤノ訊問ニ附キ答辯ヲ爲サス又ハ其所有主タラサルヿヲ答ヘ若クハ被告人ノ慣習ニテ「シリマセン」

(余ハ知ラス)又ハ「ワカリマセン」(余ハ了解セス)ト答ヘタル時ハ判事其答辯ノ査定ヲ爲ス可シ

證據物件ハ場合ニ循ヒ或ハ事實ノ徵憑推測或ハ確證トナル可シ

第百八十一條

〔第二百八十七號〕家宅臨檢及ヒ犯所ノ臨檢ノ處分ヲ行フニ當リ往往時宜ニ因リ證人ノ訊問ヲ要スルヿアリ該訊問ノ爲メニハ次節ニ示ス所ノ通常ノ法式ヲ遵守ス可シ

法律ハ本條ニ於テ證人訊問ノ爲メ缺ク可カラサル所ノ一要件即チ各人各別ニ供述ス可キヿヲ指示シタリ蓋シ此要件タル此ニ明記スルヲ要セスト思慮スル者或ハ之レ有ル可シト雖モ要件中ノ最モ要件ナル者ナルヲ以テ玆ニ之ヲ示サヽルハ却テ是レ宜シキヲ得サルナリ

該要件ハ後文ニ於テ其他ノ要件ト共ニ辯明セラル可シ○又宣誓ハ臨檢ノ際ニハ公然衆諸ノ見ル所ニテ擧證アルニ拘ハラス常ニ之ヲ命ス可キ者タリ其場所如何ニ因テ誠實ノ保障ヲ減少スルヿアル可カラス故ニ之ヲ拒絶スル者ハ通常ノ刑ヲ受ク可キ者トス

第百八十二條

〔第二百八十八號〕豫審判事ハ時宜ニ因リ或ハ臨檢ノ場所ニ在ル者ノ離散ヲ抑制シ或ハ之ヲ追逐シ（エキスクリユール）或ハ唯一人ヲ限リテ抑留シ又ハ追逐スルヿヲ得ルナリ

判事現存スル所ノ衆人ヲ抑制シテ離散ヲ禁スルハ衆人中或ハ犯罪ノ本人若クハ共犯人アル可シトノ疑ヒヲ起シタル時ニ在リ其之ヲ盡ク離散セシムルハ實際ノ景狀ヲ檢證スルニ止ル時ニシテ數多ノ好奇者ノ現存スルハ却テ其處分ヲ障碍ス可キ時ニ在ルナリ

判事ノ命ニ背犯スル者ノ罰ハ特別ナル者ニシテ尋常ノ二箇ノ上訴即チ故障控訴ヲ爲スヲ許サス○故ニ唯一大審院ヘノ上告ヲ許ス而已此差別ノ理由ヲ證明スルハ敢テ難キニ非ス其故障控訴ヲ許サヽルヿ者ハ事件元ト繁雜ナラサルヲ以テ更ニ之ヲ審判ニ附スルモ決シテ其性質ヲ變更スルヿ有ル可カラサルニ由ル又上告ヲ許ス者ハ常ニ豫審ニ於テ恐ル、所ノ判事ノ越權ヲ豫見スルニ在リトス

又刑ハ豫審判事ノ之ヲ言渡スヿヲ認許セサルハ（第三十四條）佛蘭西ニ於ケルト異ナルナシ即チ通常ノ法式ニ循ヒ刑事裁判所ノ公廷ニ於テ之ヲ言渡ス可キ者ナリ

第百八十三條

〔第二百八十九號〕本條ニ定ムル所ノ條例ハ第百三十九條第二項ノ條例ニ類スル者ナリ

下等ノ法官場所ニ最モ接近ノ處ニ在リ而シテ豫審判事ト同一ノ職務ヲ行ヒ得ル者アランニハ法律上豫審判事ニ命スルニ無益ナル出張ヲ以テス可カラス

第百八十四條

〔第二百九十號〕豫審判事ニ付與シタル權利即チ該判事ニ於テ「豫審ニ關係アル者ニ宛テ發シ又ハ是等ノ者ヨリ發シタル」書翰、電報等ヲ中間ニテ開披スルノ權利ハ甚タ重大ナル事件ナルヲ以テ該法官ハ容易ニ其權ヲ行フ可カラス○然レトモ通信ノ秘密ハ社會及ヒ正理ノ公權ト相悖戻スルニ於テハ之ヲ以テ各人ノ權利ト爲ス可カラス右ノ處置ヲ受ル者ノ指示ハ法律上稍廣キニ渉レリ即チ現ニ被告人ト爲リタル者ニ施スヲ得ルノミナラス又既ニ嫌疑ヲ受ケタル者ニ對シ尙ホ此處置ヲ爲スヲ得蓋シ此點ニ附テハ必ス判事ノ査定ニ委ヲラレタル者ナリ

豫審判事受取證書ヲ渡スヲ要スル者ハ上文述フル所ノ電報、書翰ノ如キ通信及ヒ其他ノ書類ヲ手放シタル官廳ノ責任ヲ解カンカ爲メナリ（デセージール）

是等ノ物件ハ豫審判事ニ於テ毫モ其用ヲ爲サヽルニ至リタル時及ヒ確定裁判ノ後ニ至テハ之ヲ其最初交付セシ所ノ官廳ニ還付ス可シ

第三節　證人訊問

第百八十五條

〔第二百九十一號〕抑〻人證ハ裁判所ニ於テハ最モ屢〻用フル證據ノ一ニシテ且ツ最モ有益ナル證據ナリ○其然ル所以ノ者ハ敢テ罪ヲ犯スノ時ニ方リ屢〻之ヲ目擊スルノ證人アリトノ故ニアラス却テ實際

犯罪ヲ目擊スル者甚タ僅少ナリ然レトモ犯罪ト同時若クハ其前後ノ景狀並ニ被告人ノ品行動作又二三ノ場合ニ於テハ被害人ノ品行等ニ附キ訊問ス可キノ證人アル可シ又被告人ノ申立ヲ審査シ即チ其虛實ヲ證明スルモ亦外人ノ證言ニ由ラサルヲ得ス

法律ニ於テハ數多ノ證據中敢テ區別ヲ爲スヿナク又判事ヲシテ其心證ヲ組成スルニ外事ニ泥マス即チ不羈獨立ノ位置ヲ保タシムルニ因リ證人ノ口證ハ直ニ犯罪事件ニ附キ之ヲ爲シ又ハ唯附加從屬ノ事件ニ附キ之ヲ爲ス可キ乎ハ之ヲ知得スルノ要ナシ判事ハ徵憑又事實ノ推測ニ因テ判決シ或ハ直接ニシテ且ツ眞ニ所謂ル證據ニ因テ決定シ其何レニ因ルモ判決スルヿヲ得ル者ナレハ證人ノ口證ニ因テ徵憑ヲ發見シ又ハ事實ノ推測ヲ惹起スルヲ得可キヤ固ヨリナリ

證人ハ豫審判事之ヲ呼出ス者トス而シテ之ヲ呼出スニハ檢察官民事原告人又ハ被告人ノ請願ニ依リ或ハ本條第三項ニ允許シタル如シ判事自己ノ職權ヲ以テ呼出ス者トス

其供述ヲ求メラレタル證人ノ員數原告又ハ被告ニ於テ夥多トナル時ハ隨テ費用ヲ增加シ又往々無益ノ遲延ヲ惹起スル者ナレハ是等ノ患ヲ除カンカ爲メ判事ハ犯罪ノ等級ニ從ヒ原被ヨリ呼出ス可キ證人ヲ各五名又ハ十名ニ制限ス（ドグレイー）

第百八十六條

〔第二百九十二號〕 證人ヲ喚出スノ法式ハ困難ナル者ニ非ス

但シ本條第二項ニ規定セル者ハ即チ書記ハ其管區外ニ在ル者ニ附テハ喚出スルヿヲ得サルヲ以テ豫審判事ハ遠隔セル證人ニ其呼出狀ヲ交付スルカ爲メ其者ノ住所々在ノ地ノ書記ニ之ヲ囑託ス可シ

トノヿナルヲ注目ス可シ

第百八十七條

〔第二百九十三號〕若シ事件ノ甚タ困難ナル者ニ非スシテ且ツ重劇ナラサル時ハ證人ヲシテ遠ク其所在ノ地ヲ離レシメサルヲ以テ適當ナリトス

故ニ證人裁判所所在ノ市府外ニ住シ又ハ豫審判事ノ管區外ニ住スル場合ニ於テハ該判事ハ證人住所ノ地ノ治安判事若クハ豫審判事ニ之カ訊問ヲ囑託スルヿヲ得

第百八十八條

〔第二百九十四號〕呼出狀ニハ證人ノ其本人タルニ疑ヒ無キ爲メ詳細ニ其氏名等ヲ指示ス可シ

該狀ニハ證人ノ出頭ス可キ場所及ヒ日時ヲ記ス可シ

又該狀ニハ適法ニ宥恕ス可キノ理由ナクシテ出頭セサルノ場合ニ於テハ證人ノ受ク可キ刑ヲ揭ク可シ

呼出狀ノ交付ト出頭トノ間二十四時又ハ四十八時ノ猶豫期限ヲ置キ尙ホ普通法ニ循ヒ十里以上ノ距離ニ住スル證人ニハ更ニ猶豫期限ヲ增加ス

第百八十九條

〔第二百九十五號〕懈怠ナル書記ノ罰ヲ受ク可キハ甚タ適正ニシテ且ツ嚴酷ニ過クル者ニ非ス而シテ夫ノ役務ノ定メラレタル所ノ依賴ヲ受ケタル凡テノ人ハ自己ノ過失ニ附テ其責ニ任ス可シト云フ原則ノ外其他ノ證明ヲ要セサルナリ

第百九十條

〔第二百九十六號〕法律ニ於テハ被告人出頭スルヿニ附キ適正ノ差

支アル場合ニ於テハ判事其所在ニ出張スルヿヲ許容シタルニ因リ證人ニ附テモ亦同一ノ義務ヲ判事ニ負擔セシムルヲ得可シ○然レトモ判事ハ其重要ナリト信スル口證ヲ集取スル爲メニ非サレハ證人ノ所在ニ出張セサルヤ明カナリ

第百九十一條

〔第二百九十七號〕本條ニ定ムル所ノ條例ハ第百四十九條ノ條例ト共趣旨ヲ均シフス即チ裁判所ニ於テハ役務ニ差支ナキヤ否ヤヲ査定スルノ若干ノ權ハ之ヲ軍事官營ノ權ニ委ヌルヲ要ス

共證人タル可キ陸軍又ハ海軍ノ人ノ差支アル場合ニ於テハ判事ハ其請求ヲ受ケタル猶豫期限ヲ與ヘ又ハ訊問ノ爲メ其證人ノ所在ニ出張ス可キ者トス

第百九十二條

〔第二百九十八號〕適正ノ宥恕ノ理由ナクシテ證人不出頭ノ時ハ是レ法律上請求サレタル役務ヲ拒ム者ナリ

斯ル場合ニ於テ證人ニ言渡ス可キ刑ハ夫ノ懈怠アル書記ニ科ス可キ刑ト同一ナリ

然レトモ再度呼出ヲ受ケ未タ出頭セサル時ハ其刑ヲ二倍ト爲ス可シ

○尙又此證人ノ供述重要ナリト見ヘタル時ハ公力ヲ以テ引致スルヿヲ得可シ

第百九十三條

〔第二百九十九號〕證人ニ故障ヲ申立ルヲ許シ而シテ罰金ノ全部又ハ一部ヲ還付スルハ固ヨリ正當ノヿニシテ敢テ其說明ヲ要セス

第百九十四條

〔第三百號〕本條ニ記載シタル處置ハ其呼出ヲ受ケタル者ヨリ以外

ノ者詐欺又ハ錯誤ニ因リ出頭スルノ弊ヲ防ク爲メノ目的ヲ有ス

第百九十五條及第百九十六條

〔第三百一號〕證人ニ宣誓ヲ求ムルヿハ我法律中新則(インノバシヨン)ニ係ル者トス」歐羅巴ニ於テハ裁判所ニテ爲ス所ノ宣誓ハ其性質全ク宗教ニ關ス即チ宣誓者神明ヲ證人トシテ其陳述スル所ノ言ノ眞實ナルヲ證シ且ツ其誓ニ背ク時ハ其身上帝ノ責罰ヲ受クル者ト看做サルヽナリ」斯ノ如ク宗教上ノ事物ト世俗上ノ事物トヲ集合スルニ因リ駁論頗ル尠ナカラス蓋シ方今ニ至ルマテ我國ニテ裁判所ニテ爲ス可キ誓ヲ希望セサリシハ恐ラクハ右ノ理由アルニ據レル者トス○今ヨリ之ヲ用フル以上ハ證人ヲシテ其「榮譽上(シユールルテンノール)」ニ而已誓ハシムルヲ以テ適當ナリト信シタリ○他又誓ニ宗教上ノ性質ヲ與フル以上ハ夫ノ「アテイー」(無神論者)ノ如キ神ノ存在ナシト云フ者ニ至テハ誠實ニ誓ヲ爲スヲ得スト謂フ可シ此場合ニ於テハ裁判所ノ爲メニハ困難ノ事柄ヲ設ケタリト謂フ可シ○蓋シ斯ル場合方今歐洲ニ往々現出スル者ナリ○又宗徒中ニモ熱心宗徒アリテ即チ神ヲ尊敬スルノ餘リ之ヲ證人ト看做スヿヲ禁スル者アルナリ○故ニ第一ノ場合ニ於テモ亦第二ノ場合ニ於テモ凡テ良心ノ自由ニ基テ尊信スル者ナレハ假令ヒ是等ノ者宣誓ヲ拒ミタリト雖モ之カ爲メ斯ル證人ニ刑ヲ言渡スヿ能ハサルナリ然レトモ我草案ニ爲ス所ノ制限内ニ在テハ宣誓ハ甚タ有益ナル者トス何トナレハ證人ヲシテ其供述ノ鄭重ナルヿヲ了知セシメ其供述自カラ嚴正ナルニ至リ且ツ能ク詐言ヲ避ク可ク特ニ證人ノ通情タル故ラニ其口ヲ緘スルノ弊ヲ避ルヲ得可シ況ンヤ又曾ニ「眞實」ヲ言フ而已ニ止マラス尚ホ凡テ眞實而已ト言ヒ且ツ之ヲ述フルニハ怨恨ナク畏懼ナク及ヒ迫從ナク」ト稱フルニ於テヤ」

宣誓ハ同時ニ口頭ト書面トヲ以テ之ヲ爲シ而シテ其證人ハ捺印及ヒ手署ス可シ

〔第三百二號〕 宣誓ヲ拒ム者ヲ以テ出頭ヲ拒ム者ニ比スルニ其宣誓ヲ拒ム者ノ罪一層重キ者ナリト看做スモ決シテ嚴酷ニ過ルト謂フ可カラス何トナレハ只呼出ニ應シテ出頭セサルハ或ハ怠惰放縱或ハ裁判所ノ利益ヨリハ自己ノ利益ヲ先キニスルノ果効ニ過キサルモ其既ニ出廷シ故ラニ宣誓供述ヲ肯セサル者ハ其意最モ惡ム可ク即チ法律ノ之ヲ處スル更ニ嚴ヲ加フルヲ要スル者ナレハナリ

然レトモ證人、被告人ニ對シテハ怨恨又ハ畏懼ノ情念禁スルニ堪ヘスト申告スル時例之ハ重罪又ハ輕罪ノ犧牲トナリタル者證人ト成リタル場合ノ如キハ判事其證人ノ供述ヲ聽カス又罰金ヲ言渡スヿ無シ○證人斯ノ如キ誠實ヲ吐クハ決シテ之ヲ咎ム可キニ非ス

宣誓ノ後チ供述ヲ拒ム時ハ更ニ罰金ノ言渡ヲ受ケシム可シ

〔第三百三號〕 斯ノ如ク證人引續キ及ヒ理由ヲ證明セスシテ法律ノ定ムル所ニ違犯スル時ハ刑ノ併合ヲ來ス者ニシテ之ヲ以テ彼ノ數罪ノ實證アル場合ニ於ケル規則即チ「最モ重キ刑罰ノミ獨リ之ヲ言渡ス可シ」トノ規則ニ例外ナル者ト看做ス可カラス(刑法草案第百十二條)即チ此規則ハ凡テノ犯罪ノ尙ホ罰セラル可キノ時ノミニ適用ス可キ者ナリ故ニ一旦第一ノ刑罰ヲ言渡シ其後チ新刑ヲ科ス可キヿ生シタルニ於テハ更ニ之ヲ科セサルヲ得ス○是ヲ以テ證人呼出ニ應シ出頭セサル時ハ先ツ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス可シ(第百九十二條)再度ノ呼出ニ應シ尙ホ出頭セサル時ハ更ニ最初ノ倍即チ四圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス可シ(第百九十二條)然ル後チ出頭シタリト雖モ宣誓ヲ拒ミタル時ハ則チ更ニ五圓以上二十圓以下

ノ罰金ニ處ス可シ(第百九十六條)終リニ證人宣誓シタリト雖モ供述ヲ拒絶シタリトセン此場合ニ於テハ更ニ五圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス可シ(第百九十六條)

故ニ犯罪ノ併合アル者トシテ亦刑ノ併合アルナリ而シテ斯ル結果ノ生スルニハ必ス各刑直ニ各犯罪ニ引續カサル可カラス○然レモ刑ノ不併合即チ其混淆(コンヒユシヨン)ノ原則ハ假令ヒ事實參考ノ名義ニ於ケルモ同時ニ宣誓及ヒ供述ノ拒絶アル時即チ判事ヨリ事實參考ノ陳述ヲ求ムル前マテハ第一ノ罰金ヲ言渡サヽリシ時ニ適用セラル可シ即チ此場合ニ於テハ唯一箇ノ罰金ノミヲ言渡ス可シ何トナレハ二箇ノ犯罪同時ニ之ヲ罰セラルヽノ場合ニ在レハナリ

事件カ公判廳ニ送付セラルヽニ當リ證人前ニ述ヘタルト同一ニ頑固以テ請求ニ應セサル時ハ更ニ又罰金ノ言渡ヲ受ク可シ(第三百四十三條及第三百四十六條)

第百九十七條及ヒ第百九十八條

〔第三百四號〕 法律上誠實ナル口證ヲ爲スニ必要ナル不羈獨立ノ要件ニ適セスト推測スル若干ノ者アリ○因テ法律上是等ノ者ノ宣誓ヲ求メサルハ宜シキヲ得タリト謂フ可シ但シ是等ノ者ハ訊問ヲ受クルヿ有ル可シト雖モ唯事實參考ノ爲メニスルニ過キス若シ其訊問ニ應シテ供述セサル時ハ罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

其他ノ者ニシテ或ハ其宣誓ハ適當ナル德義上ノ効力ヲ有スル爲メ必要ナル知覺ヲ有セサル者或ハ又其誠實上ノ事ニ附キ裁判所ニ對シテ適正ナル嫌疑ノ地位ニ在リト推測スル者アリ

其第一ノ者即チ不羈獨立ノ要件ニ適セスト推測スル者ニ附テハ判事ヨリ其宣誓ヲ請求セス然レモ是等ノ者ノ對手人タル檢察官又ハ

被告人ヨリ其宣誓ヲ爲スニ附キ故障ヲ申立サル時ハ判事ニ於テ其宣誓ヲ受理ス可キナリ○其他ノ者ニ附テハ假令ヒ相手方ヨリ宣誓ニ附キ故障ナシト申立ルト雖モ判事ハ決シテ其宣誓ヲ許サス

第百九十七條ニ豫定シタル六級ノ者ニ附テハ必シモ別々ニ詳說スルニ及ハス但シ被害人若シ民事原告人トナラサル時ハ判事其宣誓ヲ受諾ス可キノミナラス必ス宣誓セシム可キヿニ注目ス可シ

法律ハ僕婢共主人ノ利ニ於テ又ハ不利ニ於テ證據ノ供述ヲ爲ス時ハ或ハ其自由即チ公平ニ出ツルヤヲ疑ヒタリ是レ理ニ於テ然ラサルヲ得ス然レトモ主人其僕婢ノ利ニ於テ又ハ不利ニ於テ證據ヲ供述スル時ハ法律上右ノ如キ嫌疑ヲ爲サス故ニ主人ノヿハ宣誓ヲ請求セサル人ノ列記中ニ記載セサルナリ○蓋シ主人ハ其僕婢(被告人又ハ民事原告人)ヨリ追從ノ利益ヲ受クルヿヲ待タサル可ク加之裁判所ヲシテ迷路ニ至ラシメサル事柄即チ善意厚情ヲ以テ供述ス可キ者ナレハナリ若シ又主人其僕婢ヨリ隨分重劇ナル損害ヲ受ケタリシヿアレハ恐クハ既ニ之ヲ放逐シタリシナラン然ラハ人證ヲ請求スルヤ又ハ之ヲ拒絶スルヤノ問題起ルヿナシ

又證人ト檢察官トノ間ニ於テハ均シク訴訟關係人ニシテ夫ノ被告人ト民事原告人トニ於ケルカ如キ者ナリト雖モ法律又ハ事實ノ關係ヨリシテ毫モ人證ノ無能力ノヿ存在セス其故何トナレハ證人ト檢察官トノ位置ハ甚タ差別アル者ニシテ即チ檢察官ハ社會一般ノ利益ノミヲ希企シ訴訟ニ就キ一身上ノ情欲ハ毫モ之ヲ有セス唯事實ノ搜索ト法律ノ適用トニ附キ本務アルノ情欲ヲ有スル而已

其他第百九十八條ニ豫見シタル六箇ノ等級ノ者ノ中其第五箇即チ五項ニ記スル者ノ中ニハ重罪アリトノ訴訟ヲ受ケ又ハ充分重劇ナ

ル輕罪ノ被告人タル者ヲ含蓄スルニ注意ス可シ假令ヒ是等ノ者ハ刑ノ言渡アルマテハ無罪人ト看做サル可キハ勿論ナリト雖モ重劇ナル嫌疑其身ニ附着シタルニ因リ從テ他ノ事件ニ關スルモ亦其誠實アラサル可シトノ疑ヲ受ク可キハ言ヲ俟タスシテ明カナリ○他又若シ其宣誓ヲ受ケタリトセンニ是等ノ者ノ供述ヲ求メシ事件ノ裁判言渡アリテ其後チ是等ノ者ハ己レヲ目的トシタル起訴ニ附キ處斷ヲ受ケタル時ハ則チ其初メニ申立タル口證ハ既往ニ遡テ疑ヲ受ルモ既ニ其効力ヲ改ムルニ遲レタレハナリ

第六項ニ記載シタル者ニ附テモ亦不公偏頗ノ申立アル可シトノ疑ヒ無キヲ保シ難シ即チ或ハ自己ノ惡事ニ附テ舊痕ノ發覺セン「ヲ恐ル、ノ情ヨリ故ラニ他ノ被告人ヲ罪ニ陷レントスル「アリ或ハ之ニ反シテ故ラニ其被告人ノ爲メニ曲庇セサル時ハ其報讎ノ爲メ却テ其被告人ヨリ己レカ舊惡ヲ申立テ起訴ス可キ「ヲ恐ル、ヨリ追從ニ因テ被告人ノ罪ヲ免カレシメントスル「アルナリ○又最モ危險ニシ且ツ醜行ト謂フ可キハ彼ノ已ニ攻擊ス可カラサル者トナリタル裁判アリテ無罪ト盲渡サレタル舊被告人更ニ白狀シテ重罪又ハ輕罪ノ正犯タリト申立ル「アル是ナリ

終ニ聾啞者タル證人ニ關シテハ其生ソナカラ聾啞ヲ兼ヌルニアラサレハ宣誓スルノ無能力者タリト謂フ可カラサル事ヲ注目ス可シ蓋シ生レナカラ不具者タル時ハ其才能智識ヲ敷衍スルノ通常ノ方法ヲ有セサリシ者ト看做サル、ヲ以テナリ又聾啞者正犯タリシ時其罪科ヲ宥恕スルハ是亦右同一ノ理由ニ由ル者トス○之ニ反シテ若シ其不具トナリタルハ出生以後ニシテ即チ疾病若クハ不慮ノ事柄ニ原由スル時ハ宣誓以テ證スルニ差支アル「ナシ

何レノ場合ニ於テモ視覺（羅甸語ニテ之ヲ「デ、ウイジュー」ト云フ）ニ因テ認メタル事實而已ニ關スルヤ明カナリ何トナレハ證人ハ聾者ナレハナリ

〔第三百五號〕此二箇條ニ掲クル場合ニ於テ判事及ヒ訴訟關係人共ニ證人ニ定メタル要件ヲ知ラシテ遂ニ宣誓アリタル時ハ其證人ノ供述全ク無効ニ屬セスシテ唯事實參考ノ効アルニ過キス

眞ニ所謂ル人證（眞ノ證人ノト尋常ノ事實參考ノ爲メノ供述トハ其證據ニ關スルモノ）ト區別タル大ニ理論上ニハ關スレトモ實際上ニ於テハ格別ナル差異アルヿナシ何トナレハ判事ハ證人ノ供述ニ於ケルト均シク事實參考ノ爲メノ供述ニ依リ其心證ヲ作爲シ又證人ノ供述ニ附キ故障アル時ハ其供述ニ據ランヨリハ却テ參考ノ爲メノ供述ニ感動スルヿアリ其故何トナレハ參考ノ供述ハ或ハ最モ明確ニシテ且ツ其他ノ證據ト大ニ適合シ或ハ又十二歳以上十五歳以下ノ幼者中ニモ其正直ト才能トノ認知セラレタル者ノ供述ノ如キハ誠實及ヒ正確ナリト見ユルヿ往々之レ有レハナリ

然レトモ判事ニ於テ唯證憑ノ有無輕重ヲ査定スルニ過キサル時ト雖モ此事實參考トナル供述ニ就キ法律上充分ノ信據ヲ置カサル所以ノ理ヲ考察シ以テ尋常一樣ノ供述ニ依テ心證ヲ作爲セサルヿ緊要ナリ○幸ニシテ往々數多ノ證據ノ元素ヲ聚取スルヿアル可キカ故ニ之カ爲メ眞ノ證據ヲ得テ事實ヲ確的ナラシムルヿ尠ナカラス○加之法律ハ第百九十八條（原文ニ第三百九十八條トアルモ是レ一時校正セリ）ヲ遵守セサルモ之ヲ以テ供述ヲ無効トスルニ非ス又假令ヒ公判廳ニ於テ該條ノ條例ヲ守ラサル時即チ宣誓ヲ禁シタル者ノ供述スルヿアリト雖モ尙ホ之ヲ全ク無効トセサルナリ（第三百三十八條ヲ比較セヨ）然レトモ言渡ノ場合ニ於テ而シテ證人カ法ニ適セスシテ

宣誓シ以テ有罪ノ事ヲ口證シタル場合ニ於テハ「防禦(被告人)ノ利益ノ爲メ記載シタル法式ヲ遵奉セサルニ附キ」上告スルヿヲ許シ而シテ被告人ハ宣誓ニ對シテ之ヲ異議(プロテスティ)スルヿヲ得ルナリ(看第五百三十二條第六項)

證人ノ供述ト事實參考ノ供述トノ間ニ唯一箇法律上ノ差異アリ即チ僞證ノ刑ハ參考供述ノ詐欺ニ科スル刑ヨリ更ニ重キヿ一等ナリトスル是ナリ(看刑法草案第二百五十七條第二)

〔第三百五號ノ二〕 茲ニ一人ノ證人アリテ犯罪アリシ時機ニハ宣誓以テ口證スルノ能力ナキ者タリシモ其後チ豫審中又ハ公判廳ニ於テ宣誓ヲ要スルノ時ニ當リ其無能力止息シタル時ハ則チ宣誓シ得可キヤ否ヤヲ了知スルノ點ニ附キ疑團ヲ懷ク論者方今往々之レ有リ

斯ル證人ヲ第百九十七條ニ掲ケタル無能力ノ六箇ノ等級及ヒ其他第百九十八條ニ豫定シタル六箇ノ場合ニ同視シ以テ之ト同一ノ論決ヲ下タスハ是レ誤謬ニ出テタル者ト謂フ可キ而已今其各場合ニ正當ナル論決ヲ付與スルカ爲メニ注意以テ法律ノ疑ヒノ存スル理由ヲ開陳スル數種ノ原由(コーズ)ニ立入ラサルヲ得ス

先ツ最初ニ充分注意ヲ希望スル翻轉ノ置位アルヿヲ說明ス可シ

此置位ニ附スル論決ハ疑點ナカル可ク且ツ前述ノ置位ヲ明瞭タラシム可シ

證人犯罪ノ時機ニ完然宣誓ヲ爲シテ口證スルノ能力者タリシモ其後ノ或ル原由ニテ宣誓ノ無能力者トナリタル場合アリ○例之ハ民事原告人トナラサリシニ於テハ常ニ證據ヲ供述スルヲ得可キ被害人此身分即チ民事原告人トナリタルカ又ハ犯罪アリシ時機ニハ被

告人ト全ク無關係ナル者後ニ其配耦者トナリ結婚ニ因リ其姻屬トナリ養子ノ契約ニ因リ其血屬親トナリ或ハ其後見人又ハ僕婢トナリタル場合是ナリ是等ノ場合ニ於テハ宣誓以テ口證スルノ無能力タルヿハ其原由ヨリ生スル者ニ非サルハ敢テ疑フ所ナシ即チ斯ル口證ノ事項ニ關シテハ法律ノ疑點ハ證人ノ身分取モ直サス其供述スル時ニ於テ訴訟關係人中ノ一人ト己レノ關係アル性質ニ基ツク者ナリ何トナレハ獨リ此供述ノ時ニ於テノミ裁判所チシテ迷路ニ至ラシムルヿチ得ル者ナレハナリ

第百九十八條ニテ宣誓以テ口證チ禁止シタル六級ノ人々ニ就テ論究スルモ原則ハ玆ニ述ヘタル者ト同一ナリ但シ此適用チ該條第一項ト第三項ニ及ホスヿチ得ス何トナレハ何人タリトモ犯罪アリシ時機ノ後ニ於テ十六歳以下ノ幼者又ハ生レナカラノ聾啞者トナル（ドイツサンス）ヿ能ハサレハナリ

然レトモ犯罪アリシ時ニハ法律上疑フ所ナク證人トナリ得可キ者タリシト雖モ其後チ瘋癲人トナリタルカ又ハ己レ被罪人トナリ又ハ免訴ノ言渡チ受ケタリト雖モ同一ノ被告事件ニ附キ再ヒ疑ヒチ受ケタル等ノ事ニ因リ公權チ失ヒタル者チ想像センニ是等ノ者ノ口證ハ正理上ヨリ考察スルモ將タ誠實上ニ就テ論スルモ法律ノ疑チ懷ク者トナルハ勿論ナリ故ニ宣誓スルチ得ス

今ヨリ右ノ反對ノ場合ニ移ランントス即チ嫌疑ノ原由ハ犯罪ノ時機ニ存セシト雖モ證人ニ供述セシムルカ爲メ之チ呼出シタル時機ニ在テハ初メノ疑團止息シタル場合チ揭ク可シ○例之ハ民事原告人トナルヿチ願下ケ養子契約ノ取消ニ因リ血屬親タル關係消滅シ、離婚シタルニ因リ初メノ結婚及ヒ姻屬タル分限止息シ、幼者ノ年長ケ

タルカ又ハ後見人ノ變更アリシニ因リ初メノ後見人タル身分止息シ、僕婢其主人ト主僕ノ關係ヲ解キタルカ或ハ又幼者滿十六歳ニ達シタルカ、公權ヲ回復シタルカ、又ハ一時被罪人ト看做サレタルモ遂ニ無罪ノ言渡ニ因リ靑天白日ノ身トナリタル等是ナリ總テ是等ノ塲合ニ於テハ嫌疑ノ原由止息シタル者ナルヲ以テ宣誓以テ口證スルノ權利、義務ハ全ク回復シタル者トス

第百九十七條及ヒ第百九十八條ニ豫定シタル十二ノ塲合中唯一其二箇ノ塲合ニ於テノミ右ノ論決ヲ付與スルヲ得ス即チ瘋癲人及ヒ生レナカラ聾啞タル者犯罪アリシ以後全快シタル塲合是ナリ此塲合ニ於テハ精神錯亂者(刑法上生レナカラノ聾啞者ハ假令ヒ其眼目ニ觸レタル事物ト雖モ亦之ヲ判斷スルノ力薄弱ナル者ト看做セリ)即チ其精神上ノ景狀ニ因リ已レカ證人タリシ事實ヲ充分ニ査定スルヿヲ得サル者ハ其後其不具タルヿ全癒スルモ既往ニ遡テ充分事實ヲ査定シ得タル者トスルヿ能ハサルハ是レ敢テ喋々ヲ俟タサルナリ

右ニ述ヘタル瘋癲人聾啞者トハ稍一等ヲ下ルト雖モ而カモ夫ノ幼者十六歳以上トナリタル時ニハ之ト同樣ノ理論ヲナスニ差支ナキカ如シ然レトモ原則ニ於テ斯ル者ノ口證ハ其効アリト定ムルヲ善シトス何トナレハ幼者ハ之ヲ瘋癲人又ハ生レナカラノ聾啞者ニ比較スルニ其知力優リタレハナリ但シ判事ハ斯ル少年ノ輕卒ヲ斟酌シ而シテ其口證ニ付與スルニ丁年者ノ口證ヲ保ツカ如キ重要ヲ以テセサル可シ

第百九十九條

(第三百六號) 凡テ證人ノ陳述ハ宣誓ノ後ニ爲ス可キ者ナルカ故ニ

其氏名身分等ヲ申立ルモ亦宣誓ノ後ニ在ル可キ者トス○尤モ其曾テ受取リタル呼出狀ヲ還付シテ(第百九十四條)先ツ其誰タルヲ知ラシムルヲ要スト雖モ實ニ證人其人ニ相違ナキヿハ宣誓ノ後ニ非サレハ公正ニ之ヲ證スルヿヲ得ス

其證人又宣誓ノ後ニ非サレハ被告人又ハ民事原告人ト法律上ノ關係アルヤ否ヤノ訊問ヲ受ルヿ無キハ是亦同上ノ理由ニ由ルナリ

若シ證人右ノ關係アルニ因リ其宣誓ハ規定ニ背テ行ハレタル者ナレハ其供述ハ尋常ノ事實參考ニ過キサル者トナリ而シテ判事其旨ヲ證人ニ告知ス可シ

法律ニ於テハ判事ヨリ證人ニ其精神知覺ノ不充分ナルカ證人タルノ能權アルカ又ハ第百九十八條第五項、第六項ニ記載シタル者ナルカヲ問フヲ希望セス○蓋シ斯ノ如キ問題ヲ爲スハ則チ證人ヲ辱カシムル者ナレハナリ

第二百條

〔第三百七號〕證人敢テ他ノ影響ノ害ヲ受クルヿナク自由ニ其思想ヲ吐露スルカ爲メ判事ハ先ツ至當ナル順序ヲ追ヒ訴訟事件ニ附キ總テ其證人ノ知了スル所ヲ陳述ス可キ旨ヲ命シ但シ證人若シ正路ヲ離レテ其訴訟事件ニ全ク無關係ナル事實ヲ喋々スルカ如キヿ有ラハ判事常ニ之ヲ止ムルヲ得可シ○然ル後ヲ判事分明ナラシムルヲ要スル疑點ヲ成ル可ク精確ニ示シ其有益ナリト判定スル一切ノ問題ヲ起ス可シ

最初證人ハ事實若クハ被告人其人ニ附キ如何ナル罪責ニ關シテ證ス可キヤ恐クハ之ヲ知ラサル可シ故ニ判事ヨリシテ先ツ之ヲ指示セサル可カラス然レトモ判事々實又ハ被告人ヲ指示スルニ方リ唯其

疑團ノ目的トシテ而已之ヲ示スノ注意ヲ爲シ且ツ自己固有ノ說ヲ被告人ニ知ラシムルカ如キ訊問方法又ハ被告人ニ於テ唯一判事ノ問フ所ハ其レニ相違ナシト斷言セシムルカ如キ答ヲ爲サシメサル樣深ク注意ス可キ者トス○故ニ判事左ニ記載スルカ如キ言辭ヲ用テ證人ヲ訊問スルニ於テハ判事ニ定メラレタル注意及ヒ公平ノ點ニ毫モ背反スルヿナシ其語辭等ハ即チ「斯々ノ事ヲ汝ハ知ラサルヤ、被告人ハ云々爲サヽリシヤ、云々ノ事柄ハ之レ無キヤ」等ノヿナリ

第二百一條

〔第三百八號〕 證人其了知スル所ノ事件ノ幾部ニ附キ之ヲ供述スルヿヲ拒ムハ是レ其一切ノ眞實ヲ述ヘントノ誓ニ背ク者タリ○故ニ供述ヲ拒絕スルノ刑ヲ適用ス可シ○然レトモ僞證ノ刑ヲ科ス可キ場合ニ非ス何トナレハ僞證ノ罪ハ裁判所ヲ瞞着シテ遂ニ誤謬ニ陷ラシムル者ナリト雖モ供述ヲ拒ミタル場合ニ於テハ未タ其事アラス唯一裁判所ニ於テハ希望スル所ノ證跡ヲ失ヒタルカ故ニ他ニ於テ證跡ヲ探究セサルヲ得サル迄ノヿナリ○然レトモ若シ證人故ラニ其知ル所ノ重要ナル事件ヲ陳述セス而シテ判事其故意ニ沈默スルヲ知ラス即チ其供述中ニ故ラニ重要事件ヲ欠キタルヲ認覺セスシテ其供述完全ナリト思考シタル時ハ全ク前ト同シカラス

〔第三百九號〕 法律ニ於テ甚タ重要ナル例外ヲ若干ノ人ノ爲メニ認許セリ即チ是等ノ人ハ職業ニ依リ他人ヨリ秘密ナル陳述ヲ聽キタル者ニシテ若シ其職業上秘密ニス可キ事件ヲ裁判所ニ泄スニ於テハ即チ其信用ニ背ク者ナリ

是等ノ人ハ自カラ充分ニ其口證ヲ述フ可キヤ否ヤヲ量定ス可シ而シテ是等ノ人ハ宣誓又ハ供述ヲ拒ミタルモ爲メニ刑ヲ受クルヿナ

シ○蓋シ此條例ハ刑法草案(第四百二條)ニ掲クル所ニシテ即チ該法ニ證明スル者トス

假令ヒ本條ニハ刑ヲ免カル者トシテ掲ケタル列記ニ於テ其人ヲ制限シタル者ノ如シ見ユルモ(看附言)輕罪裁判所ノ判事ハ法律ノ精神上ヨリ本條ノ場合ニ入ル可キト思慮シタル人々ニ附キ之ニモ亦刑ノ免除ノ利益ヲ付與スル「ヲ得可シ

〔附言〕最初治罪法草案ノ正條中ニハ一時ノ誤謬ニ因テ公ケノ官(フォンクシヨンチール、ピユブリック)吏ヲ脱漏セリ今ヤ此註解ノ著述ノ際ニ於テ之ヲ補充シタリ

第二百二條

〔第三百十號〕若シ證人ヲシテ互ニ其供述スル所ヲ傍聽セシムル時ハ其惡意アルニ非サルモ自然其聽ク所ニ附キ感動ヲ生スルノ恐レ有リ蓋シ日本ニ於テモ外國ニ於ケルカ如ク證人共知ル「ヲ得タリシ事柄ヲ忘レタリト述ヘ又ハ毫モ了知セスト述ルニ於テハ眞實ヲ隱蔽スルヤノ疑ヲ受ケサルカヲ恐ルヽノ情ヨリ被告人ノ利不利ヲ問ハス多少他ノ證人ヨリ聽ク所ヲ疊言スルニ至ル「往々其例アル所ナリ然ルニ隔別ニ訊問スルニ於テハ右ノ如キ危險アル「ナシ但シ證人中訊問ヲ受ル前ニ互ニ通議シタル時ハ前述ノ弊害アリテ且ツ此事掛ナカラス然レ𪜈是亦避ルニ難キ所トス

證人ヲシテ被告人ノ面前ニ於テモ亦供述セシム可カラス

右ニ掲ケタル第一ノ條例ハ口頭ヲ以テスル訴訟手續又ハ公廷ニ於テモ之ヲ適用スト雖モ第二ノ條例ニ至テハ否ラス

蓋シ豫審ハ元ト密行スル者ニシテ即チ豫備ノ手續タルニ過キサレハ被告人ハ未タ自己ニ對スル口證アルヤ否ヤヲ知了スル「要セス」法律ハ右二箇ノ規則ニ變則ヲ設ケタリ即チ豫審判事必要ナリト認

メタル時ハ證人ト他ノ證人及ヒ被告人ト互ニ對質セシムルヿヲ得ル者トス○此終リノ對質即チ證人ト被告人トノ對質ハ已ニ最初ノ訊問ノ場合ニ掲ケタル第百六十九條以下ニ於テ豫見及ヒ規定セシ者ナリ

第二百三條

〔第三百十一號〕證人ノ供述場所ノ必要ナル景狀ニ關シ而シテ證人ヲシテ其場所ニ至ラシメサル以上ハ判事口證ノ意義又ハ其重要ヲ査定スルヿヲ得サル時ハ則チ判事證人ヲ其場所ニ同行ス可キ旨ヲ命令ス可シ

證人自カラ若干ノ距離ヲ隔テ犯罪ヲ見聞シタリト陳述シ又ハ之ニ反シテ其近接ノ地ニ在リタリト雖モ見聞セサリシト云ヒ而シテ判事其供述ノ眞僞如何ヲ疑フノ場合ノ如キハ往々之レ有リ斯ル場合ニ於テ此場所ニ同行ス可キノ言渡ヲ爲ス可キ者トス

時トシテハ判事其後ノ訴訟手續ヲ爲スニ附キ且ツ再ヒ其犯所ヘ出張スルノ煩ヲ省クカ爲メ鑑定人ヲシテ犯所ノ圖面ヲ作ラシムルヿ有ル可シ

證人ハ判事ヨリ請求シタル犯所ヘ同行ノヿヲ拒絶スルヲ得ス若シ之ヲ拒ミタルニ於テハ出頭ヲ肯セサルト同一ノ罰金ヲ科ス可シ(第百九十二條)何トナレハ此拒絶ニ因リ口證不充分トナリ又ハ無益ニ歸スレハナリ蓋シ法律ニ於テハ一層重科ニ處スル所ノ彼ノ證人ノ供述ヲ拒ミタル時ノ刑ヲ適用セサルヲ以テ稍〻寛宥ニ出テタル者ナリ(第百九十六條)原文第百八十六條トアルヲ起草者ニ質シ之ヲ第百九十六條ニ校正ス

第二百四條

〔第三百十二號〕聾者タル證人ニ關スル本條ノ條例ニ於テハ既ニ之

ヲ注目セシカ如ク先ツ第一此證人ハ生レナカラ聾啞者タラサル者ナルト第二ハ少ナクモ視覺ノ證人（目擊シタル證人ヲ云フ）ナルトヲ想像セリ○此條例ハ事實參考ノ爲メノミニ供述セシムル夫ノ生レナカラノ聾啞者ニモ亦之ヲ適用スル「ヲ得可シ但シ此場合ニ於テハ通辯人ヲ必要トス

證人外國人ナルト否トヲ問ハス其供述ヲ求メタル判事及ヒ之ヲ錄取スル書記共ニ其語（外國語又ハ我國邊鄙ノ方言）ヲ解スル時ト雖モ其語ヲ以テ供述ス可カラス必ス通辯人ヲ用フ可シ何トナレハ其供述書ハ之ヲ一件書類ニ添ヘ而シテ公判廳又ハ上訴ヲ受ケタル法廳ニ之ヲ差出ス「有ル可シ且ツ何レノ場合ニ於テモ總テ其供述ハ之ヲ檢察官ニ通知ス可キ者ナレハナリ

第二百五條

〔第三百十三號〕第九十八條ニ列記シタル人ニ付與シタル保護ハ固ヨリ當然タリ○他人是等ノ人ヲ過半ハ多クハ要職ニ在ル者タルノ故ヲ以テ公務ニ差支ヲ生スルニ非サレハ出張スル「能ハサル可シ

第二百六條及第二百七條

〔第三百十四號〕凡ソ供述ヲ簡略ニ錄取スル「ハ檢察官ノ爲ス可キ論結ノ爲メト上訴ニ定メタル法廳ノ査定ノ爲メトニ必要ナレハナリ

供述ヲ證スル調書（つゝアグト）ハ自カラ公正ノ證據タリ然レトモ此調書ハ唯其供述ノミヲ證スルニ止マリテ犯罪又ハ無罪トナル可キ事實ヲ證セス蓋シ被告人ノ利トナル可キ事實又ハ其不利トナル可キ事實ヲ證スル者ハ獨リ證人ノ口證而已

證人訊問ニ附キ若シ通辯人ヲ命シタル時ハ通辯人モ亦供述書ニ手

署ス可シ

總テ是等ノ法式ハ被告人訊問ノ後ニ作リタル調書ノ法式ト同一ナリ(第百六十六條及ヒ第百七十條ヲ比較セヨ)(是亦原書ニ第百六十九條トアルヲ起草者ニ質シテ校正スル者ナリ)

第二百八條

(第三百十五號) 法律ニ於テハ證人裁判所ノ呼出ニ應シ出頭スル爲メ消費シタル其旅費並ニ滯在費ヲ以テ其證人ノ負擔ス可キ者ト爲スヿヲ得ス○斯ル費用ハ假ニ書記局ヨリ之ヲ拂ヒ置ク可シ然レトモ結局敗訴者即チ被告人、官又ハ民事原告人ノ擔當トナル可シ

日稼ヲ以テ生計ヲ營ム者ハ償金トシテ其工錢即チ日稼高ニ等シキ金額ヲ求ムルヿヲ得ル者トス

裁判入費ニ附テハ日當ト稱スル者アリテ乃チ判事之ヲ査定ス可シ

但シ是カ爲メ大審院ヘ上告スルハ此限ニ在ラス○然レトモ其消費シタル工錢即チ證人ニ返還ス可キ金錢ノ査定ニ關シテノ上告ヲ許サス蓋シ是レ唯事實ノ問題ニ過キサレハナリ

(附言) 此區別ハ以前編纂セシ治罪法ノ正條ニ脫漏セリ

第四節 鑑定

第二百九條

(第三百十六號) 凡ソ犯罪ヲ證スル事實ノ査定ハ往々特別ナル智識(即チ學術、技術又ハ工術ノ智識ヲ謂フ)ヲ要スル者ニシテ判事ト雖モ概シテ斯ル智識ヲ有セサル者ナリ○故ニ例之ハ彼ノ毒殺ノ如キ重罪ニ基ツクノ疑ヒ有ル場合ニ於テハ醫師又ハ化學者ニ非サレハ毒劑ノ使用ヲ確知スルヲ得ス何トナレハ此場合ニ於テハ死體ノ解剖(即チ「チートプシイー」(全身解剖ノ意義))及ヒ臟腑(ウイスセール)ノ分析ヲ要スレハナ

リ又ハ毆打創傷ニテ遂ニ人ヲ死ニ致シタル場合ニ於テハ其毆傷ノ爲メニ用ヒタル器械ノ性質大小及ヒ内部傷痍ノ深淺ヲ認知スル爲メ通常内科醫、外科醫ノ鑑定ヲ要シ又貨幣僞造ノ場合ニ於テハ其使用シタル金屬ノ性質ヲ檢證スルカ爲メ礦物學者ノ意見ヲ聽クヲ要シ書類贋造ニ附テハ精巧ナル書家ノ意見ヲ要シ飲食物變造ニ附テハ化學者又ハ飲食物ヲ販賣スル者若クハ之ヲ製造スル者ノ說ヲ聽クヲ要ス可シ

是等數種ノ場合ニ於テハ判事自己ノ知ラサル所ヲ補充スルニ鑑定人ノ力ヲ以テス可シ○假令ヒ判事ニ於テ犯罪ノ特別ナル元素ヲ査定スル爲メ充分ノ智識ヲ具シタルヿアリト雖モ情宜ト關係人ノ安全トノ爲メ鑑定人ヲ命スルヲ要ス但シ自己固有ノ智識ヲ以テ鑑定人ノ具申ヲ審査スルハ此限ニ在ラス

〔第三百十七號〕佛蘭西語ノ「エキスペール」(鑑定人)ハ精巧ト云フ意義ナリ往時判事ノ鑑定人ヲ命スルヲ稱シテ「之ヲ知ル者ヲ命スル」ト云ヘリ

判事ハ鑑定人ヲ撰擇スル者ナルカ故ニ鑑定人ヲ明瞭ニ揭示シ且ツ其鑑定シテ意見ヲ陳述ス可キ諸點ヲ示シタル一箇ノ命令書ヲ渡ス可シ

人或ハ鑑定ヲ以テ全ク男子ニ限ルノ職ニシテ公權即チ國民ノ權ニ屬スル者ト信スル者アル可キヲ以テ法律ハ殊更ニ婦女及ヒ外國人ト雖モ鑑定人タルヿヲ得可キ者ナリト云フノ明言ヲ必要トセリ○蓋シ男子ノ鑑定ヨリハ寧ロ婦女ノ鑑定ヲ優レリトスル場合アルヤ明カナリ例之ハ强姦ノ未遂又ハ既遂犯、墮胎、毆傷ノ訴ニ於テ身體ノ若干部分ヲ驗査ス可キ場合ノ如キハ概シテ產婆ヲ鑑定人ニ命スル

ヲ眞シトス

又化學上ノ分析ヲ行フヲ必要トスル場合ニ於テハ我國未タ此術ニ習練シタル者多カラサルヲ以テ外國ノ博士ニシテ最モ分析ニ巧妙ナル者ニ命シテ鑑定人ト爲スヲ優レリトスルヿ有ル可シ

加之若シ外國人我法廳ノ裁判ニ服從スルヿアリテ且ツ被告人外國人ナル時ハ此者ヲシテ日本ノ鑑定人ノ無能力タルヿヲ主張セシメサルカ爲メ等シク外國人ヲシテ鑑定人ニ命スルヿ往々其優レルヿ有ル可シ

第二百十條

〔第三百十八號〕判事鑑定人ヲ命スルニ當リ豫メ其命セントスル者ニ其旨ヲ通知シ然ル後ヲ之ヲ命スルヲ例トス何トナレハ其者差支アリ又ハ事物ニ因リ自カラ鑑定スルノ無能力者タリト申明スルヿ有ル可ケレハナリ

若シ鑑定ノ務ヲ爲サシムルカ爲メ呼出シタル者出頭セサル時ハ正當ノ法式ヲ履ミ之ヲ呼出シ猶ホ出頭セサル時ハ不參ノ證人ト同一ノ刑ヲ科ス可シ而シテ事宜ニ因リ罰金ノ取戻ヲ得ルノ權利モ亦證人ト異ナルヿナシ

然レトモ勾引狀ハ之ヲ發スルヿナシ蓋シ證人ニ附テハ假令ヒ威力ヲ以テ之ヲ判事ノ面前ニ引致シ倘ホ其供述ヲ希望シ得可シト雖モ鑑定人ニ於テハ同一ノ方法ヲ用ヒテ其抵抗ニ打勝ツヿノ希望ヲ懷ク ヲ得ス何トナレハ鑑定ノ職務ハ終始之ヲ成シ遂ケントノ好意ニ出ツ可キ者ナレハナリ

第二百十一條

〔第三百十九號〕鑑定人一旦其命ヲ受ケタル時ハ大ニ證人ト類似ス

ル所アリ故ニ其捜索研究シテ發見シタル所ハ總テ之カ供述ヲ爲ス可シ○是ヲ以テ證人ト同一ノ宣誓ヲ行ハシムルハ固ヨリ當然ノ事トス

宣誓ノ拒絶ハ鑑定ヲ承諾スルヲ肯セサル時ノ刑ヨリ更ニ重キ刑ニ處スルヲ得ス故ニ第百九十二條ノ刑ヲ適用ス可ク而シテ第百九十六條ノ刑ヲ適施ス可カラス

第二百十二條

〔第三百二十號〕前ニ述ヘタルカ如ク常ニ鑑定人ハ證人ト同視セラルヽト雖モ亦或ル鑑定人ハ誓ヲ爲シ以テ鑑定スルヿヲ得サルアリ即チ鑑定ヲ要スル時期ニ方リ誓ヲ爲スノ能力アル者ニシテ且ツ適宜ノ者ヲ得ルニ難キ時ニ非サレハ彼ノ宣誓ノ無能力者ニ鑑定ヲ命スルヿナシ斯ル鑑定ハ唯一事實參考ニ供スルニ過キス(看第百九十七條及第百九十八條註解第三百五號)既ニ證人トシテ呼出シタル者ノ中ニテ鑑定人ニ命スルヿハ是レ法律ノ禁セサル所ナリ判事ニ於テハ斯ル身分ノ併合(即チ證人トモ鑑定人トモナル事カリデイー キユミユール)ヲ避ルヲ以テ優レリト思考スルハ論ヲ俟タス然リト雖モ若シ證人中ノ一人獨リ此鑑定ヲ爲スノ能力アル者ナル時ハ則チ之ヲ撰用シテ其効アル可シ蓋シ斯ル場合ニ於テハ一人ニテ二人ノ口證ヲ併行スト謂フ可シ但シ是レ全ク不調和(アンコンパチビリテイー)ノ場合ニ非サルナリ

第二百十三條

〔第三百二十一號〕判事鑑定ニ立會フハ有益ノヿトス故ニ判事ハ鑑定ニ數日ヲ要スルカ若クハ他ノ豫審處分ヲ行フニ因リ差支アルノ時ニアラサルヨリハ必ス立會ヲ爲ス可シ

第二百十四條

〔第三百二十二號〕一旦鑑定ノ命ヲ受ケタル者自カラ其之ヲ能クセサルカ若クハ其鑑定人而已ニテハ未タ足レリトセサル時ハ判事ヨリ他ノ鑑定人ヲシテ之ニ代ラシメ又ハ他ノ鑑定人ヲ增加スルヿ有ル可シ○鑑定人ヨリモ亦其代人又ハ增加ノ事ヲ請求スルヲ得

判事ハ其職權ニ依リ又ハ鑑定人ノ申明ニ因リ最初指示シタルヨリ以外ノ條項ニ附キ之ニ其探究ヲ求ムルヿヲ得

判事ノ職權ヲ以テ他ノ探究ヲ求メタル時ハ更ニ其命令ヲ下ス可シ

鑑定人ヨリ他ノ探究ヲ要ス可キ旨ヲ供示シタル時ハ新命令ヲ要セス

第二百十五條

〔第三百二十三號〕本條ノ第一項ハ毫モ其說明ヲ要セス

其第二項ニ於テハ鑑定人「毫モ有益ナル結果」ヲ得サル時ノヿヲ想像セリ其有益ナル果効ヲ得サルトハ即チ被告人ニ利ナル可キト不利ナル可キトヲ問ハス總ヘテ明瞭ナラシム可キ點ノ尙ホ暗昧ナルヲ謂フ何トナレハ殺害事件ニ附キ毒劑ノ痕跡ナク又ハ故意ニ出タル毆傷ノ痕跡ナシト決定スルハ即チ有益ナル果効ナレハナリ

然レ𪜈事情ニ因リ鑑定ヲ遂ルヿヲ得サリシ時ハ有益ナル果効ナカリシト謂フ例之ハ毒劑ヲ搜索セントスルニ必要ナル物質（化學上物體ノ本質レアクチーブ）ヲ認知スルニ必要ナル物ヲ缺キ又ハ其物質變性シタル時又ハ人ヲ死ニ致シタル毆傷ノ痕ヲ探究セントスルニ屍體已ニ腐爛シテ復タ其痕ノ有無證跡ヲ定メ難キ時是ナリ

鑑定人其果効ノ無益タルヲ說明スルハ蓋シ右ノ塲合若クハ之ニ類似スル塲合ナル可シ

夫レ理學日ニ開進ニ趣クト雖モ鑑定人各〻其意見ヲ異ニスルヿナシ

ト謂フ可カラス却テ理學ノ開進スルニ從ヒ各〻其說ヲ固執シテ往々一致セサル「有リ○此場合ニ於テハ法律上鑑定人等ニ許スニ各々別々ノ具申ヲ爲サシムルヲ以テス(看附言)○若シ又其異說重劇ニシテ二說ニ分離スル時ハ判事ハ更ニ新鑑定人ヲ命ス蓋シ是レ其宜シキヲ得タル者トス○此反對ノ場合ニ於テハ判事具申書ヲ閲讀シタル上ニテ自カラ一箇ノ說ヲ作ル可シ

〔附言〕 佛蘭西ニ於テハ刑事ノ事項ニ附キ鑑定人ノ事ヲ規定セス唯〻其類ヲ推シテ訴訟法ノ諸規則ヲ適用スル而已(訴訟法第三百二條乃至第三百二十三條)○其第三百十八條ニ於テハ鑑定人中異說ヲ唱フル者アリト雖モ唯〻一箇ノ具申書ノミヲ作ル「ヲ希望セリ然レトモ此條例ハ鑑定人ノ自由ヲ妨碍セサルカ爲メニハ刑事ノ事項ニ之ヲ遵奉スルヲ得ス

凡テ玆ニ記載スル所ハ豫審處分ニノミ關スル「ヲ忘ル可カラス○其豫審ヲ終リタル後公判ニ附スルニ至ル時ハ公判廳ニ於テ更ニ鑑定人ノ意見ヲ聽キ及ヒ更ニ鑑定ヲ求ムル「ヲ得可シ

第二百十六條

〔第三百二十四號〕 單純ノ法式ニ關スル要件ハ法律ノ之ヲ定ムル「常ニ至當且ツ精密ナルヲ以テ其說明ヲ要スルニ及ハス唯〻本條ヲ閲讀スルヲ以テ之ヲ認知スルニ足レリトス

第二百十七條

〔第三百二十五號〕 鑑定人ノ職務タル之ヲ行ヒ難キ理由ヲ證明シテ乃チ之ヲ免カルヽハ姑ク問ハス必スヤ其義務アル者ナリ然レトモ其義務アルノ所以ヲ以テ鑑定人其職ノ爲メニ費シタル入費及ヒ其損害ノ償ヲ受ケスト爲ス可カラス故ニ訴訟入費規則ニハ該償金ノ主

タル者ヲ含蓄セリ

第四款　現行犯罪ノ豫審（ドゥンストリユクシヨン、プラグツント）

豫審判事其職權ヲ以テ下調ヲ爲ス事

第二百十八條　第百十四條及ヒ第百十五條ニ規定シタル現行ノ重罪、輕罪ノ總テノ場合ニ於テ若シ政府ノ目代ニ先タチ豫審判事其告知（アベルチー）ヲ受ケタル時ハ其事件ノ急速ヲ要スル（グラビツイー）ト重劇ナルトニ從ヒ此法官ノ請求（レキジシヨン）ヲ待タス唯其告知アルニ因リ己レカ職權ヲ以テ下調（エンフナルマシヨン）ヲ始ムルヿヲ得（コンマンセー）

是ニ由テ豫審判事ハ重罪又ハ輕罪ノ場所ニ自カラ出張シ收監狀（マンダー、ダレイー）ヲ除クノ外總テノ令狀ヲ發シ及ヒ前ニ規定（ドシユー）シタル法式ヲ遵守シテ豫審ノ所爲ノ全部又ハ一部ニ着手スルヿヲ得（治、第二百一條○草、第百十四條以下、第百二十九條、第百四十三條○佛治、第五十九條）

豫審ノ開始

第二百十九條　豫審ハ豫審判事檢證調書（ドレツセイー）ヲ作リタル時ヨリ開始シタル者ト看做サル可シ其調書ニハ其事件カ現行ノ重罪又ハ輕罪トシテ顯ハル、ヿヲ記載ス可シ（スーブレーザンデイー）

檢察官ニ送付ノ事

豫審判事ハ政府目代ノ請求ヲ得ルカ爲メ既ニ始メタル訴訟手續ノ書面ヲ猶豫ナク之ニ送付ス可シ該手續ハ通常ノ法式ニ循テ繼續（サン、ゲレイー）サレ及ヒ終結（シユイビー）セラル可シ（治、第二百二條）

檢察官ノ權

第二百二十條　現行ノ重罪又ハ輕罪ノ場合ニ於テ若シ豫審判事ニ先タチ政府ノ目代其告知ヲ受ケタル時ハ此事ヲ該判事ニ報知シタル後該判事ヲ待ツヿナク亦躬カラ重罪又ハ輕罪ノ場所ニ出張シ及ヒ前諸條例ヲ以テ豫審判事ニ附屬（コンヒエー）セラレタル各種ノ所爲（アクト）ノ全部又ハ一部ヲ同一ノ法式ヲ遵守シテ行フヿヲ得（治、第二百三條○草、零○佛治、第三十二條以下）

豫審判事ニ移轉スル事

第二百二十一條　政府ノ目代ニ於テ既ニ始メタル訴訟手續最早繼續

現行犯罪ノ豫審

ス可キ者ニ非スト査定シタル時ト雖モ其書類ニ自己ノ請求ヲ添ヘ猶豫ナク之ヲ豫審判事ニ移轉ス可シ(治、第二百四條、○、草、零○佛治、第四十五條)

(トランスメットラー)

司法警察官吏ノ權

第二百二十二條　第二百二十條ヲ以テ政府ノ目代ニ付與シタル職掌(アットリビュシヨン)ハ其同一ノ場合ニ於テハ第七十二條ニ指示シタル司法警察官吏亦之ヲ行フヿヲ得

(ヲヒシエー、ド、ポリース、ジユジシエール)

制限

然レトモ司法警察官吏ハ宣誓ヲ用フルヿナシ唯ニ單純ノ事實參考ノ名義ニ非サレハ證人(ノ申立)ヲ聽キ及ヒ鑑定ヲ爲サシムルヿヲ得ス

續キ

司法警察官吏ハ書類ニ自己ノ意見ヲ添ヘ直ニ之ヲ政府ノ目代ニ移轉ス可シ

司法警察官吏ハ一ノ令狀ヲモ發スルヿヲ得ス然レトモ第百十六條ニ循ヒ被告人ヲ捕獲(セージイー)シタル時ハ猶豫ナク政府目代ノ面前ニ之ヲ引致(コンヂユイ)ス可シ(治、第二百三條、第二百五條○草、第百十八條○佛治、第四十九條以下)

訊問豫審判事ニ送致

第二百二十三條　政府ノ目代ハ二十四時內ニ被告人訊問(アンテロガトワール)ノ處分ヲ爲シ而シテ其調書ヲ作ル可シ然ル後ヲ該目代ハ被告人ヲ若クハ單純ノ自由ニ置キ若クハ上ノ總テノ書類ト自己ノ請求トヲ添ヘ拘留狀ヲ發シテ之ヲ豫審判事ノ面前ニ送致(ランボアイエー)スルヿヲ得此場合ニ於テハ豫審ハ開始シタル者ト看做サル可シ(治、第二百六條○草、第百三十六條○佛治、第六十條)

豫審判事ニ依レル訊問

第二百二十四條　豫審判事ハ二十四時內ニ被告人ヲ訊問シ事情ニ因リ拘留狀ノ差免(メンルベー)ヲ付與シ又ハ其繼續(シユイット)ノ爲メ通常ノ法式ニ循ヒ拘留狀ヲ保持(メンチアンドラー)ス可シ(治、第二百七條○草、第百三十三條、第百三十六條○佛治、第六十條)

處分ノ改行

第二百二十五條　政府ノ目代又ハ其補員前ニ記(チーキシリエール)シタル現行ノ重罪又

ハ輕罪ノ場合ニ於テ爲シタル豫審處分(アクト)ハ豫審判事通常ノ法式ヲ以テ更ニ之ヲ改行スルヿヲ得

然レトモ最初ノ書類(ブルミエー)(捡事又ハ其補員ノ作リタル書類ヲ謂フ)ハ之ヲ一件書類(ドシエー)ニ添ヘ置ク可シ(治、第二百八條○草、零○佛治、第六十條)

捡察官裁判所ヘ直接召喚ヲ爲ス事

第二百二十六條　第二百二十條、第二百二十二條及ヒ第二百二十三條ニ豫定シタル場合ニ於テ唯ニ現行ノ輕罪ノミニ關スル時ハ政府ノ目代ハ被告人ヲ訊問シタル後、拘留狀ヲ發シタルト否トニ拘ハラス其被告人ヲ直ニ輕罪裁判所ノ第一ノ訟廷ニ召喚スルヿヲ得

政府ノ目代ハ即時ニ其旨ヲ豫審判事ニ報知ス可シ(治、第二百九條○草、第百二十二條第二項○千八百六十三年五月二十日ノ佛蘭西法律)

出頭ノ爲メノ猶豫期限

第二百二十七條　然レトモ證人及ヒ被告人ヲ呼出スノ前政府ノ目代ハ被告人ニ其辯護(デフアンス)ノ爲メ三日ノ猶豫期限(レイー)ヲ希望スルヤ否ヲ聽キ督(アンテルベルラ)ス可シ

何レノ場合ニ於テモ若シ被告人拘留サレタル時ハ出頭ノ期限ハ訊問ノ後五日ヲ超過ス可カラス(治、零○同上)

證人ノ呼出

第二百二十八條　被告人己レカ辯護ヲ豫備スル爲メ猶豫期限ヲ請願セサル場合ニ於テハ證人ハ同日中何時ナリトモ出頭スル爲メ書記局ノ書面ヲ以テ之ヲ呼出スヿヲ得

然レトモ若シ斯ノ如ク呼出サレタル證人出頭セス而シテ其口頭ノ證必要ナリト見エタル時ハ第百九十二條ニ設定シタル刑事上ノ制裁ヲ以テ通常ノ法式ニ循ヒ最近ノ訟廷ニ之ヲ呼出ス可シ(治、零)

現行ノ違警罪

第二百二十九條　現行又ハ非現行ノ違警罪ハ治安判事ニ依リ及ヒ第七十二條ニ指示シタル總テノ司法警察官吏ニ依テ檢證(コンスタテイー)セラルヽヲ得

前項ノ官吏ハ告訴人、被告人又ハ證人ヲ聽キ督シ而シテ檢證ニ使用シ

現行犯罪ノ豫審

得可キ物件アル時ハ之ヲ差押ユ可シ

然ル後チ該官吏ハ違警罪裁判所附政府ノ目代ニ一切ノ書類ヲ移ス可シ

裁判違警罪ノ附テハ第三篇第一章(第三百七十六條以下)ニ云ヘルカ如キ處分ヲ爲ス可シ(治、零○草、零○佛治、第十一條、第十六條、第百四十八條)

要旨

第二百十八條　現行犯ノ場合ニ於テハ豫審判事職權ヲ以テ受理(セー)スルヲ得○豫審判事單身ニテ爲シ得可キ急速ヲ要スル所爲

第二百十九條

第三百二十七號　起訴ナクシテ豫審ノ開始

第二百二十條及第二百二十一條

第三百二十八號　政府目代ノ例外ノ職掌、豫審判事ニ移轉スル事

附　種々ノ結果

第三百二十九號　被告人捕獲ノ事、被告人ヲ單純ノ自由ニ置ク事

第二百二十二條及第二百二十三條

第三百三十號　司法警察官吏ノ例外ノ職業、警視長官及ヒ府縣長(プレフェー)官ノ權

第三百三十一號　政府目代ノ爲ス訊問、繼續(シュイット)

第二百二十四條及第二百二十五條

第三百三十二號　豫審判事ノ爲ス訊問、所爲ノ改行ヲ要スル時之ヲ行フ事、最初ノ所爲書類(書類ヲ請フ)ヲ一件書類ニ添ヘ置ク事

第二百二十六條及第二百二十七條

第三百三十三號　政府ノ目代輕罪裁判所ニ直接ノ召喚ヲ爲ス事

○期限ノ短縮（アプレビアション）

第二百二十八條

第三百三十四號　書面ヲ以テ何時ニテモ證人ヲ呼出ス事、出頭ヲ欠ク事、此場合ニ於テハ通常ノ法式ヲ以テ更ニ呼出ス事

第二百二十九條

第三百三十五號　現行ノ違警罪附檢證、讓ル事

第二百十八條

〔第三百二十六號〕既ニ犯罪ノ搜索ノ事ヲ說クニ方テ現行ノ重罪及ヒ輕罪ノ事ヲ說ケリ（第百十四條以下）乃チ令狀ナクシテ捕獲スルノ權利ハ啻ニ警察官吏ニ屬スルノミナラス常人ト雖モ亦之ヲ有スルヿヲ見タリ（第百十六條及第百十九條）

又現行ノ重罪又ハ輕罪ノ場合ニ於テハ非現行犯ノ場合ト異ナリテ檢察官又ハ被害人ノ起訴ヲ待タス豫審判事之カ下調ヲ爲スノ權アル旨ヲ記セリ○斯ク判事ニ於テ事件ヲ受理スル者ハ現行犯ノ事實ト法律トニ據テ然ル者ナリト言フト雖モ判事法律ニ循ヒ例外ヲ以テ自身其事件ヲ受理スル者ナリト言フヲ以テ一層ノ正確ヲ覺フ（第百二十九條註解第二百十九號）蓋シ事件未タ提起アラサルノ間ハ判事之ヲ受理セリト謂フ可カラス又檢察官若クハ民事原告人既ニ訴ヲ提起セシ時ハ此ヲ謂テ判事法律ニ據リ又ハ現行犯ノ事實ニ據リ之ヲ受理セリト云フヲ得サレハナリ即チ其之ヲ受理セルヤ檢察官又ハ民事原告人ニ依ルハ勿論ナレハナリ○斯ノ如キ事柄即チ豫審判事第百二十九條ニ例外トシテ其職權ヲ以テ下調ヲ爲スヿハ是レ即チ現行犯ハ大ニ非常ナル者ニ係レハナリ

檢察官時宜ニ依リ普通豫審判事ニ限レル處分ヲ行フニ至テハ非常中又一層大ナル者トス但シ豫審判事並ニ檢察官ハ成ル可ク速カニ前款ノ目的タル成規通リノ訴訟手續ニ復ス可キノ責任アリ

現行犯ノ場合ニ於テ是等ノ官吏第一ノ本務ハ各〻下調ヲ始メシ時ハ速カニ共通知ヲ爲シ交互ノ應援ヲ求ム可キ是ナリ

然ルニ右二個ノ非常例ヲ設ケシハ本ト現行犯ハ急速ヲ要スル者ナレハナリ

現行犯ノ場合ニ於テ令狀ヲ發スルニ附テノ豫審判事カ權限ハ頗ル廣大ナル者ナリ即チ第百四十條ノ規則ニ反シ被告人ヲ訊問スルノ前拘留狀ヲ發スルヲ得ルナリ○彼ノ收監狀ヲ發シ得サル者ハ他ナシ此時ニ於テハ第百四十二條及ヒ第百四十三條ニ列記セル種々ノ要件ヲ充タスヿ能ハサルニ由レハナリ

若シ豫審判事短期內ニ被告人ノ訊問ヲ爲シ得ル時ハ拘引狀而已ヲ發スルヲ良シトス

第二百十九條

〔第三百二十七號〕本條第一項ハ「豫審判事自カラ訴ヲ受理スル」ト云フニ基ク者トス該判事第一ノ處分ヲ以テ乃チ豫審ノ開始ト爲スハ是ヲ以テナリ

第二項ハ檢察官起訴ニ反對シテ論結スルヿ即チ起訴ナシシテ公訴ノ提起アルノ場合ト豫審ハ之ニ拘ハラス通常ノ法式ヲ以テ繼續シ且ツ終結ス可キ者トヲ記スルナリ

第二百二十條及第二百二十一條

〔第三百二十八號〕法律ハ前ニ述ヘタル例外權利ノ檢察官ニモ亦存スルヿヲ示シタリ但シ此權利ヲ行フニハ先ツ之ヲ豫審判事ニ通知

シタル後タル可シ

右ニ記載スルカ如ク政府目代單身以テ第一ノ檢證處分ニ着手シタル時ハ豫審ハ既ニ開始シタル歟又該目代外觀ニ惑テ處分ヲ履行シタルヿヲ悟リ遂ニ繼續スヘキ者ニ非スト思考セル時ト雖モ豫審ハ猶ホ其結局マテ繼續スヘキ歟此二點ハ或ハ人ノ疑ヲ容ルヽ所ナリ」然レトモ豫審判事ニ於テ未タ訴ヲ受理セサル者ナルカ故ニ公訴ノ提起ナキ者ナリト云フニハ躊躇ス可カラス

檢察官ニ於テ豫審ヲ繼續スルカ爲メニ最初ノ證憑ヲ以テ既ニ充分ナリト思慮セル時ハ第二百二十三條ニ記スルカ如キ通常ノ法式ニ循ヒ自己ノ請求ヲ以テ其事件書類ヲ豫審判事ニ移ス可シ若シ其事件ヲ繼續ス可キ者ニ非スト思考スル時ハ自己ノ履行シタル處分ヲ豫審判事ニ移スニ止マル可シ蓋シ檢察官ハ豫審判事ノ職權ヲ借用な

シタル者ナレハ事件ヲ繼續ス可シト思慮シタルト否トヲ問ハス何レニシテモ一旦豫審判事ノ手ヲ經サル可カラス

又豫審判事ノ方ニ於テモ書類ヲ檢閲シタル上ニテ現行ノ重罪又ハ輕罪アリト思慮シ且ツ犯罪ノ日ヲ距ル未タ久シカラサルヲ以テ猶ホ現行犯ト言フヲ得可キ時ハ政府目代ノ連班ヲ求メテ身躬カラ其事件ヲ受理管領スルヿヲ得可シ

此二法官ノ斯ク不合同ノ事ハ實際稀ナル者トス然レトモ其不合同ノ爲メニ刑罰ノ權ヲ薄弱ニス可カラス

〔第三百二十九號〕 政府目代被告人ノ捕獲處分ヲ須要ト信シ而シテ之ヲ行フタル時ハ豫審判事ノ其地ニ至ルノ前又ハ該判事ニ既ニ始メタル訴訟手續書ヲ移スノ前其被告人ヲシテ保證ヲ爲サシメ又ハ保證ヲ命スルヿナク之ニ假釋ヲ與フルヿヲ得ルヤ否ヤ亦是レ一個

ノ疑問ナリ○立法上ニ於テハ其權アリトスルヲ得ルモ我草案ニ於テ假釋ヲ與フルニハ之カ爲メ設ケタル要件ヲ踐マサルヲ得サルヲ以テ實際上檢事之ヲ行フヿヲ得ス抑假釋ヲ行フヿニ附テハ何レノ場合ニ於テモ必ス被告人ヲシテ書記局ニ於テ更ニ出頭ス可キノ盟約ヲ爲サシメサル可カラス且ツ其保證ヲ要スル場合ニ於テハ被告人ヨリ國庫ニ若干金額ヲ納メ其請取書ヲ書記局ヘ渡シ置カサル可カラス又或ハ被告人他人ヲシテ已レ第一ノ呼出ニ應シ出廷セサルニ於テハ金額ヲ償納ス可キノ保證ヲ爲サシメサル可カラス然リ而シテ總テ是等ノ法式ヲ履行スルノ前豫審判事ハ右同一ノ書記局ノ手ヲ經テ訴訟書類ヲ領收スルヲ要ス之ヲ事件ノ受理ト爲ス然レハ假釋ノ請求ハ判事ヲ舍テ他ニ之ヲ爲ス可カラス又保證金額ヲ定ムルノ權モ法律上獨リ判事ニノミ之ヲ付與セリ

之ニ反シテ單純ニ被告人ヲ釋放スルヿハ政府目代之ヲ爲スヲ得猶ホ其捕獲ヲ爲サヽルヿヲ得ルカコトシ蓋シ是レ法廳ニ於テハ未タ事件ヲ受理セサレハナリ

又後文掲ルカ如ク政府目代直ニ被告人ヲ輕罪裁判所ニ呼出シタル時モ亦假釋ヲ行フヿヲ得ス此場合ニ於テハ假釋ヲ與ヘ又ハ拒絶スルノ權利ハ該裁判所ニ屬スル者トス

第二百二十二條及第二百二十三條

〔第三百三十號〕 政府目代ノ補員タル司法警察官モ現行犯ノ場合ニ於テハ亦其上官（即チ檢察官ヲ指ス シエーフ）ニ附屬スル例外權利ヲ執行スルヿヲ得

然レトモ檢察官ト司法警察官トノ間ニ正當ノ差別ヲ保持スルカ爲メ法律ハ司法警察官ヲシテ鑑定人若クハ保證人ノ宣誓ヲ命スルヿヲ得セシメス又何レノ令狀ト雖モ毫モ之ヲ發スルヿヲ許サス

第百十八條ニ之ヲ言ヒ第二百二十條ニ之ヲ引用シタルカ如ク本條ニ於テハ唯司法警察官ハ被告人ヲ捕獲シ其簡短ノ訊問ヲ爲シ及ヒ至急ノ檢證處分ヲ爲シ然ル後ヲ其上官タル政府ノ目代ノ面前ニ之ヲ引致スルヲ得ルノミ

警視長官及ヒ府縣長官ハ假令ヒ政府目代ノ補員タラサルモ亦其補員ト同一ノ處分ヲ行フヿヲ得但シ急速ヲ要スル處分ニ止ル可シ何トナレハ是等長官ノ斯ル處分ヲ行フノ職タル政府ノ目代及ヒ其補員ニ比較スレハ固ヨリ非常ノ職務ナレハナリ

〔第三百三十一號〕 政府ノ目代ノ面前ニ其補員ヨリシテ被告人ヲ引致スルモ該目代之カ訊問ヲ遂ケ然ル後ヲ其事件繼續ス可キ者ニ非スト査定シタル時ハ之ヲ豫審判事ニ通知スルニ及ハス何トナレハ既ニ其事件繼續ス可キニ非スト信シ乃チ棄却シタル者ナレハ未タ眞ニ豫審判事ノ職務ヲ侵シタルニ非サレハナリ

之ニ反シテ若シ政府ノ目代其事件ヲ繼續ス可シト査定シタル時ハ之ニ一切ノ書類ト自己ノ請求トヲ添ヘテ之ヲ豫審判事ニ移ス可シ然ル時ハ該判事之ヲ受理シ且ツ豫審ノ開始アル者トス

政府目代ハ拘留狀ヲ發スルヿヲ得テ勾引狀ヲ發スルヿヲ得ス勾引狀ハ必ス自己ノ面前ニ引致セシム可キ官吏ニ非サレハ適正ニ之ヲ出發スルヲ得サルニ由ル（ラッシヨンチールマン）

第二百二十四條及第二百二十五條

〔第三百三十二號〕 此條ハ拘留狀ヲ發シタル場合ヲ謂フ然レトモ被告人ノ訊問ハ猶ホ且ツ成ル丈ケ速カナルヲ要ス乃チ拘引狀ヲ發シタル場合ニ於テハ法律上豫審判事ニ付與スルニ第百三十六條ニ定ムルカ如ク四十八時ノ猶豫ヲ以テスト雖モ拘留狀出發ニ就テハ政府

目代ニ於ケルト等シク唯二十四時ヲ與フル而已

豫審判事ニ於テ未タ正確ナリト思慮セサル一切ノ處分ヲ更ニ改行スルノ權ハ緊要ナル者トス何トナレハ豫審判事不完全不規則ナル處分ヲ正當ノ法式ヲ以テ仕直スノ權利アルニ於テハ敢テ是等ノ處分ヲ甘諾スルニ及ハサレハナリ

右ノ改行處分ハ全ク之ヲ棄却セス蓋シ之ヲ作リタル時日ノ故ニ因ルモ亦有益ナル事實參考トナルヿアル可キナリ

第二百二十六條及第二百二十七條

〔第三百三十三號〕輕罪ノ現行犯タル事情ハ敢テ其重劇タルヿニ影響ヲ及ホス者ニ非ス故ニ其輕罪稍〻輕ク且ツ繁雜ナラサル者タル時ハ常ニ非現行ノ輕罪ニ於ケルカ如ク檢察官ヨリ直ニ被告人ヲ輕罪裁判所ノ訟廷ニ呼出スヿヲ得可シ○豫審判事ヲシテ其手續ノ不規則ニ出テサルヤノ疑ヲ懷カシメサルカ爲メ政府ノ目代ハ直ニ其履行セシ手續ヲ之ニ通知ス可シ

右ノ場合ニ於テハ豫審ヲ行ハサルヲ以テ證據ノ湮滅スルノ恐レ有リ故ニ其事件ハ速カニ之ヲ裁判ス可シ然レトモ被告人ヨリ猶豫期限ヲ請求スル時ハ其辯護ノ用意ヲ爲サシムル爲メ三日ノ猶豫ヲ與フ可シ

法律ニ於テハ假リノ拘留ヲシテ濫リニ其期ヲ遷延セシメサルカ爲メノ注意ヲ用ヒタリ即チ五日ヲ以テ其最高極點（マクシモーム）ト定メタル是ナリ」

第二百二十八條

〔第三百三十四號〕被告人其權利ヲ棄テ三日ノ猶豫期限ヲ請求セサル時ニ限リ書翰（パールレットル）ヲ以テ證人ヲ呼出ス可シ其猶豫期限ノ請求アリタル時ハ遲延ヲ避クルカ爲メ通常ノ法式ヲ以テ證人ヲ呼出スヲ良シ

トス○若シ書翰ヲ以テ證人ヲ呼出ス時ハ出廷セサルモ之カ處斷ヲ爲スヿヲ得ス更ニ又召喚ヲ要ス可シ然ラハ被告人其辯護ノ爲メ三日ノ猶豫期限ヲ請求セサル時ト雖モ亦始メヨリ通常ノ法式ヲ履行シテ之ヲ呼出スニ若カサルナリ

第二百二十九條

〔第三百三十五號〕違警罪ハ現行犯ノ時日ニ於テ之ヲ檢證スルヿ最モ多カル可シ何トナレハ其性質上ヨリシテ痕跡ヲ留ムル者極メテ尠ナク且ツ若干時日ヲ過キタルノ後ハ犯人其人ニ相違ナキヤ否ヤヲ證明スルヿ難ケレハナリ○公路通行ニ關スル違警罪及ヒ凡ソ家宅外ニ於テ犯ス所ノ違警罪ニ附テハ殊ニ然リトス

之ヲ反シテ營業規則（プロフェシヨンヲール）ニ關スル違警罪若クハ所有地ノ前ニ在ル公路使用等（ユザージユ）ニ關スル違警罪ハ其既ニ現行ニ非サル時ニ至テモ猶ホ能ク之ヲ檢證スルヲ得ヘシ

違警罪ノ現行犯ハ第七十二條ニ指示セル司法警察官吏之ヲ檢證ス可シ又道路、田野若クハ森林（リユー、シヤン、ウー、ボアー）ノ警察ヲ掌ル下等ノ特別官吏之ヲ檢證スルヿ往々之レ有リ

是等ノ官吏取調ヲ爲スノ要用アリト認メタル時ハ則チ其要略ノ取調ヲ爲ス可シ然ル後チ違警罪裁判所ハ第三篇第一章ニ掲ルカ如ク若クハ政府ノ目代若クハ被害人ヨリ其事件ヲ受理スル者トス

第五款　假釋（リヤルディー、プロビゾアール）一ニ假リノ自由ト譯ス

假釋被告人ノ請願

第二百三十條　豫審中現行犯ト非現行犯トヲ問ハス重罪又ハ輕罪ニ關スル時ハ豫審判事ハ常ニ拘留狀ヲ受ケタル被告人ノ請願（ドマント）ニ依リ豫審ノ繼續ノ爲メ及ヒ公判アル時ハ公判ノ手續ノ爲メ總テノ請求ニ應シテ出頭スルノ責ヲ以テ假ニ被告人ヲ自由ニ置クヿヲ命スルヲ得

檢察官ノ論結

若シ被告人收監狀ヲ受ケタル時ハ政府ノ目代ハ請願ニ就キ豫メ自己ノ論結ヲ付與スルヿニ呼ハル(アンシイティー)可シ但シ該目代第二百五十一條ニ循ヒ故障ヲ述フルノ權利ハ之ニ妨害アルヿナカル可シ(治、第二百十條○草、第百三十八條、第百四十一條○佛治、第九十四條第三項、第百十三條以下、第百十七條)

再ヒ出頭スルノ盟約

第二百三十一條　假釋ヲ得タル被告人ハ前條ニ循ヒ再ヒ出頭スルノ盟約ヲ書記局ニ於テ爲ス可シ

住所ノ撰擇

又同時ニ被告人ハ裁判所々在ノ市府內ニ特別住所ノ撰擇(エレクシヨン)ヲ爲スヲ要ス

訴訟ニ關シテ被告人ニ爲ス可キ請求及ヒ共他ノ送付(ノチヒカシヨン)ハ此住所ニ之ヲ爲ス可シ

出頭スルヿノ督促書(ソンマシヨン)ハ出頭ノ爲メ定メタル時ヨリ少クモ二十四時前ニ送達セラルヽヲ要ス(治、第二百十一條○草、零○佛治、第百十三條、第百二十一條)

保證金

第二百三十二條　假釋ハ法律上別ニ規定シタル場合ヲ除クノ外常ニ被告人ノ出頭ヲ保障スル保證金(コーシヨンメマン)ヲ附スルヿヲ得而シテ其金高(モンタン)ハ該假釋ヲ許與セシ豫審判事ノ命令ヲ以テ定メラル可シ(治、第二百十二條○草、零○佛治、第百十四條)

繼キ

第二百三十三條　保證ハ裁判所ノ管區內ニ眞住所又ハ撰擇住所ヲ有シ且ツ豫審判事認メテ以テ資力アリト爲シタル者書記ノ面前ニテ記載シタル一身上ノ盟約書ニ由テ成立シ若クハ預リ所ニ被告人又ハ共他ノ人ヨリ爲シタル金錢(エスペース)ノ附託ニ由テ成立ス但シ其受取書ハ之ヲ書記局ニ差出ス可シ

假釋

若シ被告人無能力者ナル時ハ請願ハ被告人ノ名ヲ以テ其血屬親又ハ

代理人之ヲ爲スヿヲ得(治、第二百十三條○草、零○佛治、第百二十條、第百二十一條)

保證金ヲ失フ事

第二百三十四條　保證金ノ名義ヲ以テ納メ又ハ約務(ヤヘルセー)シタル金額(ソンム)ハ被告人逃亡シ其他捜索ヲ免カレタル時ハ國庫ノ利益ニ獲得(アツキーズ)セラレ又ハ要求(エキシジーブル)セラル可シ

若シ被告人法(ザコマン)ニ適シテ請求セラレタルニ適正ノ宥恕ナクシテ訴訟手續ノ所爲ニ出頭スルヿヲ欠キタル時ハ保證金ノ全部又ハ一部ヲ獲得セラルヽヿアル可シ(治、第二百十四條○草、零○佛治、第百二十五條)

續キ

第二百三十五條　保證金ノ全部又ハ一部ノ滅失(ペルト)ハ檢察官ノ論結ニ就テ爲シタル豫審判事ノ命令ヲ以テ申渡サル可シ

保證ノ强令

若シ外人ノ盟約ナル時ハ其外人檢察官ノ訴ニ據リ通常ノ法律上ノ手續ヲ以テ辨濟ニ强令セラル可シ(治、第二百十五條)

保證金ノ返還

第二百三十六條　然レトモ若シ豫審判事後ニ至リ免訴(ノン、リツー)ノ命令若クハ違警罪裁判所ニ移スノ命令又ハ唯、罰金ニテ罰セラル可キ輕罪ニ附キ輕罪裁判所ニ移(ランボアー)スノ命令ヲ爲シタル時ハ該判事ハ檢察官ノ論結ニ據リ既ニ失ヒ又ハ辨濟セル全部又ハ一部ノ金額ノ返還(レスチチユシヨン)ヲ命令スルヿヲ得(治、第二百十八條○草、零○佛治、第百二十二條)

假釋ノ引取

第二百三十七條　若シ被告人其保證金ノ全部又ハ一部ノ滅失ヲ被リ又ハ其保證人ヲシテ辨濟ノ强令ヲ受ケシメタル時ハ豫審判事被告人ヲ前ニ服從(スーミー)セシメシ令狀ノ下ニ再置スルヿヲ得其事ハ假釋ノ命令書ノ結末ニ之ヲ記シ又ハ別ノ命令ヲ以テ之ヲ爲ス可シ

豫審判事豫審中假釋ノ命令ヲ廢止(ラツポルテイー)スルヿヲ有益ナリト信シタル總テノ場合ニ於テモ亦同シ

保證金ノ返還

是等ノ場合ニ於テ保證金ノ殘レル物ハ之ヲ供給セシ者ニ返還セラル

可シ又保證ノ盟約ハ消滅セラルル可シ(治、第二百十六條○草、零○佛治、第百十五條、第百二十三條)

要旨

第二百三十條　被告人ノ請願○收監狀ニ就キ檢察官ノ論結

第三百三十六號　假釋ノ適正附

第二百三十一條

第三百三十七號　假釋ハ豫審ヲ遲延ス可カラス附　住所ノ撰擇

第二百三十二條

第三百三十八號　判事隨意ノ保證ノ事、法律ニ貯存シタル例外(フアキユルタチーフ)

第二百三十三條

第三百三十九號　許容セラレタル保證ノ數種、無能力ノ場合

第二百三十四條

第三百四十號　保證金ノ全部又ハ一部ノ滅失

第二百三十五條

第三百四十一號　續キ、外人ノ盟約附　裁判民事ノ差押(セージイ)

第二百三十六條

第三百四十二號　保證金ノ全部又ハ一部ノ返還

第二百三十七條

第三百四十三號　假釋ノ引取リ

第二百三十條

〔第三百三十六號〕　抑、被告人ハ己レニ係ル處斷ノ廢棄ス可カラサル(ドウニユー、チレボカーブル)者トナル迄ハ無罪人ト看做サレサル可カラサルモ既ニ共被告事件

タル其者ノ自由剝奪ヲ惹起シ得ル以上ハ之ヲシテ假リノ拘留ニ服從セシムルノ理由ナキニ非サル而已ナラス且ツ之ヲ拘留ニ從ハシムルハ尤モ必要ナリトス然ラサレハ被告人ニ於テ自己ノ不利トナル所ノ證據ヲ充分ニ擧示セラル可キヲ了知スル時ハ往々逃亡スルノ恐レ有レハナリ

然レ𪜈共不利トナル可キ證憑未タ完全ナラサルカ若クハ被告人其辯護ノ爲メ誠實ノ證據ヲ擧クルニ於テハ判事其被告人ヲシテ訴訟ノ總テノ所爲ニ就キ第一ノ請求ニ應シテ出頭スルノ約束ヲ爲サシメタル上ニテ假釋ヲ與ヘ以テ假リノ拘留ヲ停止スルヿヲ得

斯ノ如キ被告人ノ保護ハ概シテ外國法律中一般ニ涉ル所ノ者タリ又我草案ニ於テモ編纂諸員ノ意思タル蓋シ之ヲ以テ他日外國人ヲ支配セントスルニ在ルヲ以テ該假釋ヲ組織スルニ怠ラサリシ所ナリ

本條ニ揭ル所ハ被告人呼出ニ應シ出頭スルト云フ基本上ノ要件ノ外別ニ被告人ノ請願アルヿヲ要ス何トナレハ被告人ニ其希望セサル所ノ保護ヲ施スノ理ナク又其希望スルノ意アルニ非サレハ出頭ス可キノ約束ヲ爲サシムルヲ得サレハナリ

又唯收監狀ヲ受ケタル被告人ニ就テ而已之ヲ差免スニハ檢察官ノ論結ヲ聽カサル可カラス但シ其論結タル被告人ノ請願ト一樣ナルヲ要セス

佛蘭西法典ニハ(第百十八條)被告人ノ請願ハ「民事原告人ノ意見書ヲ得ルカ爲メ」乃チ之ニ通知セラルヽヿヲ欲シタリト雖モ我草案ハ通知ノヿヲ希望セス尤モ佛蘭西法典ノ思考スル所ハ即チ民事原告人ハ被告人ヲシテ假リノ拘留ヲ受ケシムルヿヲ請願スルノ分限ナキ

ヲ以テ假釋ニモ亦故障ヲ述フルノ分限ナシトスルニ在ル可シ併シ民事原告人ハ訴訟中常ニ此件ニ關シテ己レカ意見ヲ述フルニ差支ナキノミナラス之ヲ述フルハ全ク其務メト云フモ可ナリ兎モ角モ佛蘭西法典ノ方法ハ二十四時ノ遲延ヲ惹起スル者ナレハ是レ宜シカラス依テ之ニ習ハサルヲ良シトス

第二百三十一條

〔第三百三十七號〕 法律上被告人ヲシテ第一ノ呼出ニ應シ出頭セシムルノ要件ヲ設ケタリト雖モ未タ之ヲ以テ足レリトセス尚又被告人ヲシテ明瞭ナル約束ヲ爲サシメ以テ其義務ノ重大ナル事ヲ了知セシメサル可カラス

被告人既ニ其拘留ノ止息ヲ得タル以上ハ後チ豫審及ヒ訴訟手續ノ所爲ニ關シ之ヲ呼出スニハ本人又ハ其住所ニ通知シテ出頭ノ督促ヲ爲スヲ要ス其住所ノ遠隔スルカ爲メ是等ノ所爲ヲ遲延ス可カラス○是ヲ以テ豫審ヲ行フ市府内ニ被告人ノ住所ヲ撰擇スルヲ必要トセリ

通知ト出頭ノ爲メニ定メタル時トノ間ニ二十四時ノ猶豫アルハ被告人意ナクシテ闕席スルノ弊ヲ防クニ足ル可シ○是ヲ以テ被告人ハ該市府ヲ離ル可カラス

第二百三十二條

〔第三百三十八號〕 前條ニ定メタル要件ノ外尚ホ假釋ニ附キ原則上定メタル一要件アリ即チ被告人請求ヲ受ケタル毎ニ出頭ス可キヲ保證スル保證金ノ事是ナリ而シテ其金額ハ豫審判事被告事件ノ輕重、證憑ノ完全、不完全ノ如何、被告人眞ノ住所ニ居ルニ附テノ關係其利益如何幷ニ被告人又ハ其親族ノ貧富ヲ量リ充分ニ之ヲ決定ス可

シ

最初草案ニ於テハ保證セシムルト否トヲ判事ノ隨意決定ニ委任セスシテ必ス保證ヲ爲スハ義務上然ラサルヲ得サル者ト爲ス可シト思考セリ蓋シ其理由タル判事自由ヲ剝奪ス可キ令狀ヲ發スル必ス之ヲ輕卒ニス可カラス故ニ此令狀ノ假リノ差免シヲ爲スニモ亦必ス鄭重ヲ極ムルヲ良シトスト思ヘリ

然ルニ急速ヲ要スルノ際未タ充分ナル證憑ヲ得スシテ拘留狀ヲ發スルヿアルヲ考察セリ斯ル場合ニ於テハ判事保證金ノ責任ヲ免シテ假釋ヲ與ヘ以テ其効力ヲ輕クスルヲ至當ナリトス又收監狀ハ犯罪事件ヲ充分ニ知リタル後ニ發スル者ナリト雖モ亦之ヲ釋クニ全ク保證金ニ服從セシムルヲ以テ一層充分トスルノ道理アルヿナシ何トナレハ判事ハ保證金額ヲ定メテ甚タ少シニ過キ遂ニ保證金ヲ

シテ到底其効ナカラシムルニ至ルヿアレハナリ

是ヲ以テ此確定草案ニ於テハ保證金ヲ請求スルト否トハ判事ノ隨意ニ委ヲシメタル所以ナリ

是レ佛蘭西及ヒ過半ノ外國法律ニ存在スル所ノ者タリ○然レトモ佛蘭西ニ於テハ保證ヲ請求セサル一箇ノ場合アリテ且ツ其適用タル甚タ汎博ノ者タリ即チ假釋ハ當然即チ被告人ノ請願ナキ場合ト雖モ判事ニハ義務上ニテ之ヲ行フ可キ場合是ナリ(看第百十三條及第百十四條)○我草案ニ於テハ斯ノ如キ當然ノ假釋ヲ認許セス(看附言)○然レトモ將來草案ノ此新制ニ係ル規則ヲ實際良善ナリト認メラレタル時ハ法律上被告人ヲシテ保證ヲ免カレシメサルヲ得スト信スルニ至ルノ場合ニ遭遇スルヿアル可シ故ニ判事ノ權限ヨリシテ「法律カ保證ヲ免スノ場合」ヲ除キタル者トス

〔附言〕我草案第百三十六條、第二百四十三條、第二百四十四條及ヒ第二百四十五條ニ當然ノ自由ナル語ヲ用ヒタリト雖モ之ヲ以テ此佛蘭西法典ノ場合ニ同視ス可カラス凡テ草案ニ掲ル所ノ語意ハ第百三十一條、第二百二十三條、第二百四十二條及ヒ第二百五十一條ニ於テ明瞭ニ說明スル如ク單純即チ確定ノ自由ニシテ假リノ自由即チ假釋ニ非サルナリ（ピエール、エー、サンブル デヒニチーフ プロビソアール）

第二百三十三條

〔第三百三十九號〕保證ニ二種アリ

第一　外人ヨリ被告人出頭セサル時ハ判事ノ定メタル金額ヲ辨濟センヿヲ約スル即チ一身上ノ盟約是ナリ、該外人ハ資力アル者ニシテ且ツ裁判所ノ管區內ニ住スル者タルヲ要ス

第二　此外人前述ノ要件ヲ充タサヽル時ニ履行スル金額ノ附託又ハ被告人自カラ其金額ノ附託ヲ爲ス事是ナリ

茲ニ注目ス可キヿアリ即チ被告人義務ヲ負ヒ即チ一身上ノ盟約ヲ爲シテ自カラ保證ヲ爲スヿヲ認許セラレス唯、金錢ノ附託ヲ爲シテ保證スルニ止マルヿ是ナリ

保證ノ金額ハ之ヲ貯金預役所ニ差出シ其受取書ハ書記局ニ納ム可シ」

總テ幼者又ハ有夫ノ婦ハ成規通リノ許可ヲ經ルニ非サレハ金額ヲ處分（ザスポゼー）スルニ無能力者タルヲ以テ幼者ハ其後見人、婦ハ其夫ヨリシテ各、其代理スル所ノ被告人ノ出頭ヲ保證スル金額ノ附託又ハ盟約ヲ爲ス可シ其假釋ノ請願ニ於ケルモ亦是等ノ代人ヨリ之ヲ爲スヿヲ得ル者トス然レトモ有夫ノ婦及ヒ幼者ヲシテ自身此請願ヲ爲サシムルヿヲ認許スルニ躊躇ス可カラス

第二百三十四條

〔第三百四十號〕若シ被告人逃亡スルカ若シハ其氏名ヲ詐稱シ或ハ其住所ヲ移轉シ以テ法廳ノ捜索ヲ免カレタル時ハ保證金ヲ沒入スル者トス、被告人出廷ノ督促ヲ受ケサル時ト雖モ或ハ逃亡シ或ハ法廳ノ捜索ヲ免カレタル時ハ亦保證金ヲ沒入スル者トス

之ニ反シテ被告人呼出ヲ受ケ而シテ出頭セサル而已ナル時ハ斯ノ如ク嚴ナラス沒入スルト否トハ之ヲ判事ノ査定ニ委シ或ハ保證金ノ一部分ニ止マルヿ有ル可シ

第二百三十五條

〔第三百四十一號〕前條ニ指示セル所ノ附託シタル保證金ノ滅失ヲ被告人ニ對シ若クハ外人ニ對シテ言渡スカ爲メニハ裁判所ニ於テ敢テ之ニ干涉スルニ及ハス此罰タル質入契約ノ一種トシテ言渡スコントラー、ド、ガージュ者ナレハ豫審判事ニ於テ其盟約ニ背反シタルヤ否ヲ證明スルヲ以テ足レリトス○何レノ場合ニ於テモ檢察官ハ其論結ヲ付與ス可シ」然レトモ外人ノ盟約ノミニ係ル時ハ通常民事ノ裁判ヲ以テ之ヲ處斷シ然ル後ヲ財產ノ差押ヲ爲ス可キ者ナルヲ以テ檢察官共訴ヲ爲ス可シ

第二百三十六條

〔第三百四十二號〕前條ノ條例ニ循ヒ被告人ヲ罰スル所以ハ被告人裁判所ニ盟約シタル所ニ背キタル德義上ノ罰ト裁判所ノ處分ヲ成就セシメスシテ公安ヲ害シタルトニ由ル○故ニ被告人裁判所ヘ出頭ヲ欠キタルノ後ヲ訴ヲ免セラレ又ハ禁錮ノ刑ニ當ラサル事件ナルニ附キ輕罪若クハ違警罪裁判所ニ移サレタルニ於テハ嘗テ假ニ之ヲ拘留シタルハ全ク曲事（トール）且ツ錯誤（エロール）ニ出テタル者ノ如シ其拘留ヲ釋クモ亦一時ニ非ス且ツ要件ヲ附スルニ非スシテ單純ニ之ヲ解キ

タル者ノ如クス此時ニ方テ被告人毫モ豫審ヲ妨害スルヿナシ何トナレハ素ト豫審ヲ必要トセス又之ヲ使用スルニ及ハサル者ナリシヲ以テナリ

法律ニ於テ出頭ヲ欠キタル被告人又ハ其擔當人ニ對シ言渡シタル刑ノ全部又ハ一部ヲ免スルヿ(ルルベー)ヲ判事ニ許容シタルハ前述ノ意ヲ擴張シタルナリ○然レトモ以上記載スル所ヲ以テ見レハ何ノ故ニ保證金ノ返還ハ判事ノ權能ニシテ其義務ニ非サル歟又何ノ故ニ其返還ハ唯一保證金ノ一部ニ止マルヿ有ル歟ヲ疑フ者アル可シ今ヤ其疑問ニ答ヘ併テ判事ノ義務ニ非サルノ理由ト保證金一部ノ返還ニ止マルヿ有ルノ理由トヲ說ントス本ト此假釋ノ事ハ未必條件ニ係ル者ニシテ本條ノ場合ニ於テハ被告人始終法廳ニテ自由ニ爲シタル盟約ニ背キタルノミナラス尙ホ社會ノ損害ヲ釀セシ者ナリ乃チ斯ク盟約ニ背キテ法廷將來ノ信用ヲ減少シタルニ由ル○又後ニ至テ認メタル法廳ノ錯誤ハ被告人ノ過失ヲ減損スルニ足ラス又官吏ニ暴行ヲ加ヘ以テ一時捕獲ニ抗抵シ其後無罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ過失モ亦同シク減損スルヿナシ

第二百三十七條

〔第三百四十三號〕 茲ニ記スル所ノ釋放ハ未必ノ條件(コンシヨンチール)ニシテ且ツ假釋(プロレツ)ニ係ルニ過キサルヲ以テ若シ其服從ス可キ要件ヲ履行セサル時ハ則チ止息ス又判事ニ於テ豫審ノ爲メ終始其被告人ヲ自己ノ處分權內ニ置クヲ必要ナリト思考スル時モ亦其釋放ヲ止ムルヿヲ得可シ

斯ノ如キ場合ニ於テ保證金ノ殘存スル者ハ之ヲ還付シ又保證人ノ盟約ハ之ヲ解ク可シ

第六款　豫審ノ終結（クロチュール）

検察官ニ訴訟手續ノ交通

第二百三十八條　豫審ノ總テノ時刻ニ於テ政府ノ目代ハ二十四時以上一件書類（ドシエー）ヲ貯留（カルデー）スルヿナケレハ既ニ始マリタル訴訟手續ノ交通（コンミュニカシヨン）ヲ豫審判事ニ請願スルヿヲ得

政府ノ目代ハ必要ナリト判斷スル毎ニ右ノ請求ヲ爲スヲ得而シテ豫審判事ハ其請求ヲ許容シ又ハ外ニ過クルヿヲ得（フユール、ドロアー）（パッセー、リートル）（請求ヲ許容セサルヲ云フ）（治、第百十七條○草、第三十四條、第百二十二條以下）

續キ

第二百三十九條　豫審判事已レカ管轄ニ非スト査定シ若クハ豫審ヲ重ヌルモ毫モ被告人ノ有罪又ハ無罪ニ緊要ノ事ヲ加フルヿナカル可シト査定スル時ハ訴訟手續ノ一切ノ書類ヲ政府目代ニ附シ以テ事件ノ結局（イシユー）タル其論結ヲ請求ス可シ（治、第二百二十條○草、零○佛治、第百二十七條）

豫審ノ增補

第二百四十條　政府ノ目代ハ訴訟書類ニ自己ノ論結ヲ附シ三日內ニ之ヲ返送ス可シ

又政府ノ目代ハ豫審ノ增補（シユプレマン）ヲ請求スルヿヲ得、豫審判事ハ之ヲ拒絕スルヿヲ得

此場合ニ於テ（豫審判事請求ヲ拒ム時ヲ云フ）政府ノ目代ハ己レカ確定ノ論結（デフイニチーフ）ヲ附スルカ爲メ更ニ二日ノ猶豫期限ヲ有ス（治、第二百二十條、第二百二十一條）

終結ノ五箇ノ命令

第二百四十一條　政府目代ノ說結如何ヲ問ハス豫審判事ハ以下ニ定メタル五箇ノ命令ノ一ニ依リ訴訟手續ヲ終結ス可シ（治、第二百二十二條）

第一ノ場合管轄違

第二百四十二條　若シ豫審判事犯罪ノ場所ノ故ニ（ワケガラ）依リ其犯罪ハ他ノ豫審判事ノ管轄ナリト認メシ時又ハ犯罪ノ性質若クハ被告人ノ身分ノ故ニ據リ審理カ特別ノ法廳ニ屬（コンヂツサンス）（ジユリヂクシヨン）スルヿヲ認メタル時ハ其管轄外ナ

豫審ノ終結

ルヿノ命令ヲ爲ス可シ若シ被告人拘留セラレタル時ハ之ヲ管轄判事ノ前ニ引渡ス政府目代ノ處分權(ヂスポジション)ニ從フ可キ旨ノ命令ヲ爲ス可シ

又豫審判事急速ヲ要スル場合ナリト査定スル時ハ拘留狀ヲ發シ又ハ前ニ發シタル令狀ノ單純ノ差免シヲ付與スルヿヲ得但シ管轄違ノ命令書(プレセダン)中ニ令狀ノ保存(メンテナンス)又ハ出發若シクハ其差免シノ旨ヲ記載ス可シ

(治、第二百二十三條○草、第五十六條、第百三十一條、第百三十二條)(譯者曰ク原文ニハ草案第百三十條ヲ加ヘ而シテ第百三十二條ヲ脫セリ然レ𪜈是レ後ニ起草者ノ校正ニ係ル者ニシテ濫リニ譯者ノ意見ヲ以テ增加スル者ニ非ス前文幷ニ後文中往々參考ノ正條增加アル者皆ナ之ニ倣ヘ)

第二百四十三條　若シ被告人ノ有罪トナル可キ證據欠乏(アシク)若シハ不充分又ハ若シクハ罪責(ノン、ギュルパビリテイー)トナラサルノ證據アリテ被告事件カ犯罪ヲ設立スル者ト見エサルカ又ハ公訴消滅シ受理ス可カラサル者ト見ユル時ハ豫審判事ハ「繼續スルニ場所ナキ」旨ノ命令ヲ爲ス可シ而シテ若シ被告人拘留セラレタル時ハ當然自由ニ置カル可シ但シ第二百五十一條ニ述ヘラレタル者ハ此限ニ在ラス(治、第二百二十四條○草、第三百五十六條、○佛治、第百二十八條)

第三ノ場合 違警罪

第二百四十四條　若シ被告人ノ負責(シャルジュ)ニ歸ス可キ事件違警罪ヲ設立スル者ト見ユル時ハ豫審判事ハ被告人ヲ違警罪裁判所ニ送致ス可シ而シテ若シ被告人拘留サレタル時ハ當然自由ニ附セラル可シ(治、第二百二十五條○草、第三百七十六條以下○佛治、第百二十九條)

第四ノ場合 輕罪

第二百四十五條　若シ被告事件輕罪ヲ設立スル者ト見ユル時ハ豫審判事ハ被告人ヲ輕罪裁判所ニ送致スルヿヲ命令ス可シ

輕罪若シ罰金ヲ惹起スルニ過キサル場合ニ於テハ當然自由ニ附セラル可シ而シテ若シ其自由ハ保證人ヲ立テヽ附屬シアリシ時ハ其保證ハ止息ス可シ

豫審ノ終結

輕罪若シ苦役(トラバイユー)ヲ附シ又ハ附セサル禁錮ヲ惹起スル時ハ假釋ハ保證ヲ要シ又ハ要セスシテ附屬セラレ又ハ保持(既ニ附屬セシ假釋メントニユ)ヲ維持スルヲ云フ)セラルヽヲ得

豫審中若シ被告人未タ捕獲(アレスタシヨン)ノ位置ニアラサリシ時ハ判事ハ此者ニ對シテ拘留狀又ハ收監狀ヲ發スルヿヲ得然ル後ヲ該判事ハ保證ヲ以テ又ハ保證ナク被告人ヲ假釋ニ附スルヿヲ得可シ

何レノ場合ニ於テモ被告人ハ呼出ヲ受ケタル日ニ訟廷ニ出頭ス可キノ盟約ヲ書記局ニ於テ爲ス可シ而シテ此盟約ヲ欠ク(盟約ニ背クノ謂デフチー)ニ非ス初メヨリ之ヲ拒ム(之ヲ拒ムノ意義)時ハ裁判言渡ニ至ルマテ捕獲ノ位置ニ附セラル可シ(治、第二百二十六條○草、零○佛治、第百三十條、第百三十一條)

第五ノ場合重罪

第二百四十六條　若シ被告事件重罪ヲ設立スル者ト見ユル時ハ豫審判事ハ「求刑ノ形狀ニテ」(公訴狀ヲ發アン、エター、アツキユザツシヨン)スルノ謂ヒ重罪審院(クール、ダリミヲール)ニ被告人ヲ送致スルヿヲ命令ス可シ

若シ假釋ヲ付與シタリシ時ハ其假釋ハ止息シ而シテ保證金ハ返還セラル可シ

求刑ニ附スルノ命令書ニハ第二百九十一條ニ循ヒ檢事長ヨリ被告人ノ轉送(トランスフエールマン)ヲ請求スル迄郡區(豫審ヲ爲シタル裁判所ノ意アロンヂツスマン)ノ拘留所ニ置カレ(ブラツセー)又ハ收禁セラルヽノ旨ヲ記ス可シ(治、第二百二十七條○草、第四百三十一條以下○佛治、第百二十六條、第百三十三條、第百三十四條、第二百三十二條)

犯罪ノ數多

第二百四十六條ノ二　若シ豫審判事被告人ノ不利(コントル)ニ輕重雜ハル數多ノ犯罪ノ充分ナル證憑アリト認ル時ハ附帶ノ罪ニ非スト雖モ之ヲ數種ノ管轄法廳ニ訴ヘ若クハ第三十九條ニ循ヒ最高ノ法廳ノ前ニ送致スルヿヲ得

被告人ノ指定

第二百四十七條　被告人ハ第百四十四條ニ述ヘタルカ如ク命令書中

豫審ノ終結

ニ成ル可ク正確ニ之ヲ指定ス可シ(治、第二百二十九條○草、零○佛治、第百三十四條)

五個ノ命令ニ附キ事實上及ヒ法律上ノ理由

第二百四十八條　豫審終結ヲ申渡ス判事ノ命令ハ其目的ノ何タルヲ問ハス事實上及ヒ法律上ノ理由(モッチーフ)ヲ附ス可シ

管轄違ノ場合ニ於テハ判事其原由(コーズ)ヲ指示ス可シ又未決ノ捕獲ヲ命シ又ハ保持(メンチアン)スル時モ亦之ニ同シ

訴ノ差戻(ランボアー)シノ場合ニ於テハ判事被告事件ノ法律ニテ罰ス可キ者ニ非サルヿ若クハ何々ノ原由ニ因リ公訴ノ消滅シタルヿ又ハ受理ス可カラサルヿ若クハ被告人ノ有罪ノ證據不充分ナルヿ又ハ其欠乏スルヿ或ハ又無罪ノ證據若シ之レ有ラハ有ルヿ等ヲ記ス可シ

三箇ノ公判廳ノ一ニ送致(ジュリザッシヨン、ド、ジュージュマン)スル場合ニ於テハ判事其罰ス可キ事件ノ性質及ヒ特別ナル景狀ヲ定ム可シ又此判事ハ適用ス可キ刑法ノ正條ヲ

檢察官ニ移送スル事

舉示(シデイー)シ而シテ被告人ノ不利ニ充分ノ罪責アリト見ユルヿヲ指示ス可シ(治、第二百二十八條○草、第三百五十四條)

第二百四十九條　豫審判事ノ命令ハ其目的ノ如何ナルヲ問ハス直ニ本書ニテ政府ノ目代ニ移送(トランスミーズ)セラル(ナリザナール)可シ政府ノ目代ハ次ノ章ニ規定シタル規限ト法式トニ依リ此命令ニ對シ故障又ハ控訴ヲナスヿヲ得(治、第二百三十條○草、第二百七十四條以下、第二百八十二條以下)

被告人及ヒ民事原告人ニ送達

第二百五十條　政府ノ目代ノ故障又ハ控訴ヲ爲シタルト否トヲ問ハス書記局ニ命令ノ返付ヲ爲シタル二日內ニ書記ハ民事原告人及ヒ被告人ニ共謄本ヲ送達ス可シ但シ民事原告人及ヒ被告人モ政府ノ目代ノ如ク之ニ故障又ハ控訴ヲ爲スヿヲ得(治、第二百三十條○草、第二百七十四條以下、第二百八十二條以下)

假釋ノ停止

第二百五十一條　被告人假釋又ハ確定ノ自由ニ附セラル可キ數種ノ

豫審ノ終結

場合ニ於テハ政府ノ目代ニ命令ヲ送付シタルヨリ滿一日ノ期限後ニシテ且ツ此期限内ニ政府ノ目代故障又ハ控訴ヲナサヽル時ニ非サレハ被告人之ニ附セラルヽヲ得ス(治、零〇草、第二百五十九條、第二百七十九條、第二百八十三條、第三百五十九條ノ二、第五百三十五條〇佛治、第百三十五條第八項)

捕獲セラレサル即チ逃亡シタル被告人

第二百五十二條　若シ拘留狀又ハ收監狀ヲ差向ケタル被告人ヲ捕獲スルヿヲ得サルカ又ハ其被告人逃亡(エシヤツペイー)シタルニ方リ豫審法廳ノ一ヨリ其被告人ヲ重罪審院ノ前又ハ禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪トシテ輕罪裁判所ノ前ニ送付スルヿヲ命令スル時ハ其命令書又ハ送付ノ審判(アレイー)ニ被告人ヲ捕獲シ得サリシヿ又ハ逃亡セシヿ及ヒ被告人ハ現ニ拘留(スーコンスチチユエー)ヲ受ケサルヲ以テ次章ニ規定シタル上訴(ルクール)ノ一ヲモ行ヒ得サルヿヲ記載スニエー可シ

闕席

假釋ヲ受ケタル後ヲ法ニ適シテ出頭ノ請求ヲ受ケ而シテ出頭セサル者ニ就テモ亦之ニ同シカル可シ(治、第二百三十一條)

第二百五十三條　若シ被告人輕罪裁判所又ハ違警罪裁判所ニ送付セラレタル時ハ此所ニ於テ(裁判所ヲ指ス)第三篇第一章第二章ニ記スルカ如ク被告人闕席ノ儘裁判セラル可シ(治、零〇草、第三百八十八條以下、第四百十四條以下)

抗傳裁判

第二百五十四條　若シ重罪審院ノ前ニ送付アリテ而シテ重罪被告人(アツキユゼー)拘留セラルヽヿナク上訴ノ期限經過シタル時ハ本院ノ長ハ政府目代ノ請求ニ由テ一ノ命令ヲ爲ス可シ其命令書ニハ「該被告人ハ法律ニ背(ルベ)反スル者(抗傳者(コンテユマー))ナリ」依テ其權利ノ執行及ヒ其財産ノ支配(アドミニストラシヨン)ヲ失フ可シ、其財産ハ直ニ裁判上ノ附託(セクストル、ジユジシエール)ニ附ス可シ又陪審官(ザユレイー)ノ出席ナク重罪審院ノ最近ノ會席(セアンス)ニテ抗傳裁判ヲ爲ス可キ事」ヲ記ス可シ(治、零〇草、零〇佛

豫審ノ終結

治、第四百六十五條以下)

命令書ヲ以テ裁判上ノ附託ノ爲メニ民法ニ定メタル規則ニ循ヒ預リ(セケストル)人ヲ命ス可シ其預リ人ハ檢察官ノ調査(コントロール)ヲ受ク可シ(治、第二百三十二條)

該命令書ノ謄本ハ重罪被告人ノ知了セラレタル最終ノ住所(レジダンス)ノ門戸及ヒ重罪審院ノ訟廷ノ門戸ニ掲示ス可シ(治、零○草、第五百十八條以下)

附託

第二百五十五條　附託ノ間扶助ヲ受ルノ緊要ナル刑人ノ親族アラハ民事裁判所ノ決定ヲ以テ之ニ扶助ヲ付與スルヲ得(治、零)

抗傳者ノ捕獲

第二百五十六條　若シ重罪被告人裁判ノ以前拘留ヲ受ケタル時ハ抗傳裁判ノ命令ハ無効(ノンバアブニュ)トナリ而シテ豫審ノ所爲ニ對シ上訴ノ手續ヲ開始ス且ツ上訴アル時ハ其上訴ハ通常ノ法式ニ由テ之ヲ履行ス可シ(治、零)

裁判所々長ニ付與スル報告

第二百五十七條　豫審ハ上ニ示シタル五箇ノ命令ノ一ニ據リ之ヲ終リタル時ハ豫審判事直ニ其旨ノ報告(アヴイー)ヲ裁判所々長ニ與フ可シ未タ終ラサル被告事件ニ附テハ豫審判事十五日毎ニ該所長ニ要略ノ具申(ラツポール)ヲ爲ス可シ(治、第二百三十三條○草、第七十四條)

要旨

第二百三十八條

第三百四十四號　訴訟手續中政府目代ノ請願ニ因リ之ニ交通ヲ爲ス事○政府目代ノ請求附判事ノ自由

第二百三十九條

第三百四十五號　豫審判事訴訟手續ヲ終結スルヲ得ル場合及ヒ必ス終結セサル可カラサル場合○豫審終結前檢察官ニ書類ヲ移送スル事

豫審ノ終結　要旨

第三百四十六號　判事自己ノ決意ヲ貯存（サンチマン）（レゼルブ）スルハ是レ其義務ナル事○管轄違ノ場合ニ於テハ差別アル事

第二百四十條

第三百四十七號　論結ノ爲メノ猶豫期限○新豫審ノ請求○判事之ヲ拒絶スルノ權○新猶豫期限

第二百四十一條

第三百四十八號　豫審終結、審判（スタチユエー）スルノ必要（ポツシーブル）附爲シ得可キ五箇ノ命令

第二百四十二條

第三百四十九號　一　判事ノ管轄違ノ陳述○急速ヲ要スル處置

附　拘留狀ノ出發其確認（コンヒルマシヨン）或ハ其差免○單純ナル自由ニ附スル事

○檢察官ノ權

第二百四十三條

第三百五十號　二　免訴ノ命令附三箇ノ場合

第二百四十四條

第三百五十一號　三　違警罪裁判所ニ送致

第二百四十五條

第三百五十二號　四　輕罪裁判所ニ送致附場合ニ從ヒ單純若クハ假リノ自由ニ就テノ決定

第二百四十六條

第三百五十三號　五　重罪審院ニ送致

第二百四十六條ノ二

第三百五十四號　附帶ト否トヲ問ハス數多ノ犯罪ノ場合

第二百四十七條

第三百五十五號　被告人ノ指定（デジギヤシヨン）

第二百四十八條

第三百五十六號　事實上ト法律上トニ於テ判事己レカ決定ノ理由ヲ附スルハ是レ其一般ノ義務ナル事、此義務ノ理由附數種ノ命令ニ之ヲ適用スル事

第二百四十九條、第二百五十條及第二百五十一條

第三百五十七號　訴訟關係人ニ命令ノ交通○檢察官假釋ニ故障ヲ述フル事

第二百五十二條

第三百五十八號　捕獲ヲ免カルヽ者ノ不利

第二百五十三條

第三百五十九號　輕罪又ハ違警罪ノ事項ニ於テ闕席（デフヲー）裁判ノ事

第二百五十四條

第三百六十號　重罪ノ事項ニ於テ抗傳（コンチユマース）裁判ノ事、重罪被告人ノ利益及ヒ社會ノ利益ニ於テ爲シタル豫防（プレコーション）

第二百五十五條

第三百六十一號　重罪被告人ノ親族ニ扶助ヲ爲ス事

第二百五十六條

第三百六十二號　裁判ノ以前又ハ以後ニ重罪被告人ノ捕獲其區別附送致ノ事

第二百五十七條

第三百六十三號　豫審ノ遷延ヲ防止（アンペシエー）スル爲メ法律上ニ定メタル處置

第二百三十八條

豫審ノ終結　要旨

〔第三百四十四號〕 檢察官ハ起訴ノ利益ノ爲メ豫審中何時ニテモ豫審ノ形狀及ヒ既ニ領得シタル結果ノ如何ヲ知了スルノ權利アリ○然レトモ該官ハ二十四時間以上豫審書類ヲ留置キ以テ豫審ヲ遲延セシム可カラス

檢察官ヨリ豫審判事ニ書類交通ノ請願ヲ爲シタル時ハ該判事自カラ之ヲ交通ス可キヤ否ヤ此レハ法律ニ述ヘサル所ナリ○然レトモ原則ニ於テハ之ヲ可決交通セサル可カラス但シ若シ判事被告人ノ訊問又ハ家宅臨檢若クハ證人訊問ヲ爲ス可キノ時機ニ於テハ固ヨリ是等ノ豫審處分ヲ行フタル後ニ迄書類ノ交通ヲ遲延スルヲ得ルヤ明カナリ

檢察官交通ヲ得タルニ於テハ己レカ有益ト信スル所ノ論結ヲ陳述ス可シ然レトモ判事ハ之ニ從フノ責メナシ但シ判事此論結ニ從フタル時ハ其請求ヲ受ケタル訴訟手續ノ所爲即チ既ニ記載セル所ノ彼ノ令狀出發、家宅搜索、證人訊問ノ如キ處分ヲ爲ス可シ若シ豫審判事之ヲ必要ナル所爲若クハ有益又ハ許容セラル可キ所爲ト信セサル時ト雖モ彼ノ一切ノ論結ニ附キ之ヲ裁定セサル可カラサル(第五百三十二條ノ九)公判々事ト異ナリテ法式通リノ拒絶ヲ爲シ以テ裁定セサル「アル可シ

第二百三十九條

〔第三百四十五號〕 豫審判事ハ獨リ豫審ヲ終結ス可キ時日ヲ査定ス可シ○玆ニ法律ハ其終結ヲ定ムルニ附テ唯二箇ノ原由ヲ指示セリ」其第一ノ原由ハ判事ノ管轄違是ナリ此場合ニ於テハ豫審處分ヲ爲ストモ啻ニ公私ノ不都合ヲ生スルノミニテ毫モ將來有益ノ結果ヲ得ルヿ無キカ故ニ假令ヒ未タ全ク終ラサル前ト雖モ判事之ヲ終結

豫審ノ終結

ス可キ者トス

其第二ノ原由ハ判事更ニ深重ノ搜索ヲ待ツノ要ナシト決心スル者是ナリ斯ク決心スル者ハ即チ判事ニ於テ或ハ被告人ニ對シ利不利トナル所ノ心證ヲ得タルニ由リ或ハ有罪、無罪ノ間ニ完全ノ證憑ヲ得ス即チ疑團ヲ存スルニ由ル蓋シ其疑團ヲ懷ク時ハ必ス被告人ニ利アル決定ヲ爲ス可シ

豫審判事ハ政府目代ノ論結ヲ請ハスシテハ毫モ豫審ヲ終結ス可カラス故ニ前條ノ場合ニ於テ既ニ一度ヒ檢察官ニ一切ノ訴訟書類ヲ移送シ其後毫モ豫審ノ新處分ヲ行ハサリシ時ト雖モ又更ニ之ヲ移送ス可シ

〔第三百四十六號〕 法律ニ、於テハ豫審判事其意見ヲ述フ可シト記セス又實ニ之ヲ陳述ス可カラス此檢察官ノ論結ニ影響ヲ及ホサスシテ其自由ニ出テシメントスルカ爲メナリ且又豫審判事ハ裁判官即チ證憑ノ判事タルヿハ是レ人ノ知了スル所ナリ既ニ其判事タル以上ハ己レカ決定ヲ知ラシムルノ時即チ公判言渡ノ時ノ外ハ己レカ處分スル所ノ被告事件ニ附キ自カラ決心スル所ノ意思ヲ知了セシメサルハ是レ一切ノ判事ノ緊要ノ本務タレハナリ○實際政府目代ハ豫審中公然判事ト照會スルヿアリ然レモ此時ニ於テモ各自序ヲ追フテ其意見ヲ述フ可シ即チ政府目代先ツ其論結ヲ以テ己レカ決意ヲ陳シ然ル後チ判事命令ニ因テ其思想ヲ述フ可シ

判事豫審處分ヲ終ハルノ前其管轄違ナルヿヲ査定スル時ハ未タ完全ナラサルモ一件書類ヲ政府目代ニ移送シ且ツ之ニ管轄ノ問題ニ附キ其論結ヲ請求ス可シ但其請求ニ就テ犯罪ノ場所若クハ犯罪ノ性質若クハ被告人ノ身分ニ附キ自己ノ管轄ニ係ル者ナルヤ否ニ疑

點アリトノ理由ヲ指示スルハ啻ニ當然適當ノ事タルノミナラス又殆ント必要ナルヿタリ此場合ニ於テ判事其一身上ノ意見ヲ檢察官ニ知ラシムルニハ左程躊躇スルニ及ハス何トナレハ其意見タル被告事件ノ本案ニモ事實ノ點ニモ又法律上ノ點ニモ關スル者ニ非サレハナリ（モアンドスクリュピュール）

總テ其他ノ場合ニ於テハ判事唯其豫審ヲ終リタルト信スル旨ヲ政府ノ目代ニ通知シ而シテ事件ノ結局タル其結末ノ論決ヲ請フ可シ

第二百四十條

〔第三百四十七號〕前ノ交通ノ場合ニ比スレハ本條ノ場合ニ於テハ檢察官訴訟書類ノ檢閲ニ多クノ時刻ヲ費ス可シ又之ヲ費スモ豫審處分ヲ遲延セシムルノ恐レ有ラサルヲ以テ該官吏ハ其書類ヲ三日內留置クヿヲ得可シ

然レトモ檢察官ハ豫審ノ處分未タ盡サス更ニ其增補ヲ必要ナリト信スルヿアル可シ

若シ判事ニ於テ檢察官ノ意ニ從ヒ豫審ノ增補ヲ爲ス時ハ前條ニ記スルカ如キ訴訟書類ノ交通ヲ新タニス可シ而シテ檢察官ハ其論結ヲ附スルカ爲メ更ニ三日間ノ猶豫ヲ有ス可シ○然レトモ敢テ豫審判事ヲシテ自カラ無益ナリト信スル所ノ新豫審ヲ爲サシムルヲ得ス此場合ニ於テハ該判事一件書類ヲ政府ノ目代ニ送付シ又ハ既ニ送付シアル時ハ之ヲ其儘ニ差置クヿ可シ、政府ノ目代ハ增補ノ期限二日內ニ其結末ノ論結ヲ付與ス可シ

第二百四十一條

〔第三百四十八號〕右ノ論結ノ如何ナルヲ問ハス判事之ヲ聞キタル上ニテ以下ニ記スル所ノ五箇ノ命令ノ一ヲ爲ス可シ而シテ此五箇

ノ命令ハ各〻特別ナル正條ノ目的トス

本條ニハ裁判所ノ組織ニ關スル基本上ノ原則ノ適用ヲ掲ケタリ即チ判事一旦被告事件ノ審理ヲ受理セシ時ハ假令ヒ其成規ニ適セスシテ受理セル時ト雖モ其事件ノ上ニ若クハ受理、不受理ノ點ニ附キ若クハ己レカ固有ノ管轄如何ニ附キ之ヲ審判セサル可カラス若シ其審判ヲ拒ム時ハ是レ裁判ヲ拒絶スル者ナリ即チ法律上重劇ナル犯罪トシテ罰スル所ナリ(看刑法草案、第三百十八條)

吾人ハ既ニ(看第百八條註解第百九十一號及第百二十五條註解第二百十一號)此事項ニ附キ民事原告人トナルニ於テハ則チ判事ノ受理(ヤージー)スル所トナリ又告訴シタルノミニテハ未タ判事ノ受理スル者ニ非サルノ區別アリテ是レ其重要ノ者ナルヿヲ注目セシメタリ

第二百四十二條

(第三百四十九號)「何レノ法廳ヲ問ハス總テ法廳ハ其管轄ノ判事タルヿ」ハ是レ人ノ知ル所ナリ(第五十六條)然レトモ法廳ニ於テ自己ノ管轄ニ非サル事件ナルヲ知リテ其本案ノ裁判ヲ爲スハ固ヨリ不條理ナリト謂フ可シ

是ヲ以テ豫審判事前既ニ說明セル三箇ノ原由ノ一アルヲ以テ即チ管轄違ナリト信スル時ハ唯〻其旨ヲ申渡ス可シ然ル時ハ判事其事件ノ管掌ヲ免カレタル者トス

豫審判事ノ決定ハ裁判ニ非スシテ之ヲ一箇ノ命令ト爲ス斯ク大ニ其語ヲ異ニスト雖モ敢テ事實ニ差異アルヿナシ然レトモ其決定タル最モ豫先ノ決定ニ係ルカ故ニ法律上命令(ナルドンナンス)ト稱スルヲ眞シトス

豫審判事ニ於テ其管轄違ナルヿヲ自カラ認メタルニ拘ハラス其既ニ出發セシ拘留狀ハ安全ヲ保スルノ處分トシテ其儘之ヲ保持スル

コトヲ得可シ然レトモ收監狀ノ出發アリシ時ニ於テハ該狀ハ拘留狀ト同一ノ効アルニ過キス何トナレハ收監狀ヲ發スル迄ニ至ル犯罪證據ノ査定アルモ其査定ハ判事ノ管轄違タル申渡ニ由テ其勢力ヲ失フ可ケレハナリ

若シ又毫モ是等ノ令狀ノ出發アラサリシ時ハ判事終期ニ臨テ拘留狀ヲ發スルヲ得可シ又之ニ反シテ其既ニ發シタル拘留狀若クハ收監狀ノ單純ノ差免ヲ與フルヲ得但シ此終リノ場合ニ於テハ檢察官ノ論結ヲ聞ク可シ何レノ場合ニ於テモ判事其履行シタル處置ハ之ヲ命令書中ニ記載ス可シ○法律ニ於テハ管轄違ノ豫審判事被告人ニ自由ヲ與フルニ際シ之ヲシテ保證ニ服從セシムルコトヲ許サス蓋シ若シ保證ヲ命スルニ於テハ是レ假釋ニ外ナラサレハナリ斯ク該判事ニ許容セサル所以ノ者ハ素ト此處置タル事實ノ査定ヲ截分スル者ナル而已ナラス判事ヲシテ而後管掌ヲ免カレタルノ故ヲ以テ爲ス事ヲ得サル者ヲ爲サシメ即チ自己ノ面前ニ被告人ヲ出頭セシムルコトヲ豫想スル者ナレハナリ故ニ斯ノ如キ處置ハ之ヲ許容シ難カル可シ

右ニ述フルカ如ク而後ハ判事其事件ノ管掌ヲ脫離シタルヲ以テ尙ホ現ニ拘留狀ヲ受ル所ノ被告人ハ政府ノ目代之ヲ處分シ且ツ其責ニ任ス可シ蓋シ政府ノ目代ハ猶豫ナク其管轄ナリト思料スル裁判所ニ其被告人ヲ送致シ又ハ被告人ヲシテ出頭ス可キノ盟約ヲ爲サシメス單純ニ之ヲ釋放ス可キ者トス○右ニ記スル所ノ政府目代ノ權利タル未タ法廳ノ受理ナキ間ハ決シテ之ヲ襲擊ス可カラス蓋シ是レ非常ノ事ニシテ即チ管理判事ノナキヲ以テ所謂ル豫備ノ拘留ナレハナリ○故ニ前述ノ拘留狀ヲ受ケタル被告人アルニ政府ノ目

代十日ヲ經テ後ヲ猶ホ未タ管轄判事ヲ得サル時ハ必ス該被告人ヲ釋放ス可シ而シテ此釋放ハ單純ノ者トス(看第百四十一條)何トナレハ現今既ニ豫審ヲ終ハリ又將來更ニ之ヲ行フヿナカル可キヲ以テ被告人ヲシテ訴訟手續ノ所爲ニ必ス出頭セシムルノ問題起ラサル可ケレハナリ

第二百四十三條

〔第三百五十號〕本條ニ豫定シタル第二ノ命令ハ佛蘭西ニ於テ之ヲ無塲所免訴(ノン、リヨー)ノ命令ト云フ蓋シ被告人ニ對シテ「繼續スルニ塲所ナキ」(リヨー、プー、シユイーブル)ヲ以テナリ而シテ此意義タル單純ニシテ且ツ明瞭ナルカ故ニ日本草案ニモ亦之ヲ保存セリ

斯ク繼續スルニ塲所ナシトスル原由ハ頗ル數種ニ渉ル者ニシテ本條ニ列記スル所ナリ即チ之ヲ左ニ揭ク可シ

第一　被告事件懲戒ス可キ者ト雖モ法律ノ之ヲ罰セサル塲合

第二　被告人ノ有罪トナル可キ證據欠乏シ又ハ不充分ナル塲合

尤モ被告人犯罪者ニ非サル直接ノ證據アルヿアル可シ例之ハ罪ヲ犯シタルノ時ニ當リ現ニ其犯所ニ在ラサル時ノ如キ是ナリ

〔附言〕歐洲ニ於テハ此塲合ヲ稱スルニ羅甸ノ「アリビー」(アリビー)即チ「其他」(アイヨール)ナル語ヲ以テセリ蓋シ被告人他ニ在リシヲ以テ犯人ノ現存ヲ想像セル犯罪ノ本人タルヿヲ得サリシニ由ル

「アリビー」ノ證據タルヿ之ヲ處斷ノ後ニ供スルニ於テハ愈〻訴ノ錯誤ヲ證スル者トス斯ク擧證アル時ハ再審ト稱スル裁判改良ノ非常(レヴイジヨン)(レフヂルマシヨン)方法ヲ爲ス可キ者ナリ(看第五百八十二條第三項)

法律ニ於テ無罪ノ證據アル塲合ト有罪證據ノ欠乏スル塲合トヲ區別シテ其宜シキヲ得タル者トス蓋シ有罪證據ノ在ラサル塲合ニ於